

「生徒指導上の諸課題に対する実効的な学校の指導体制の  
構築に関する総合的調査研究（令和元年度調査）」

中間報告書

令和4年（2022年）3月  
国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター



# 目次

はじめに	i
研究組織	iii
<b>第1章 研究の目的</b>	
1. 問題の所在 -----	3
2. 平成29年度のヒアリングの概要 -----	6
3. 平成30年度のヒアリングの概要 -----	7
4. 先行研究レビューと仮説モデルの設定 -----	9
5. 本研究の目的 -----	14
6. 中間報告書の構成 -----	16
<b>第2章 研究の方法</b>	
1. 令和元年度調査の位置付け -----	19
2. 調査対象 -----	19
3. 調査の実施時期と回答の状況 -----	20
4. 調査方法 -----	20
(1) 生徒調査 -----	20
(2) 教員調査 -----	21
(3) 管理職調査 -----	22
<b>第3章 分析結果</b>	
1. 生徒調査における尺度の因子構造と仮説モデルの検証 -----	27
(1) 生徒調査の尺度の因子構造 -----	27
(2) 「学校とのつながり」の仮説モデルの検定 -----	36
(3) 「学校とのつながり」といじめの加害経験との関連 -----	37
2. 教員調査における尺度の因子構造と仮説モデルの検証 -----	41
(1) 教員調査の尺度の因子構造 -----	41
(2) 「生徒への指導・支援の充実」の仮説モデルの検定 -----	47
(3) 「チーム形成」に関する尺度構成 -----	49

3. 管理職調査における尺度の因子構造の検証 -----	53
(1) 管理職調査の尺度の因子構造 -----	53
4. 各調査間の相関分析-----	56
(1) 「生徒への指導・支援の充実」(教員調査)と「支持的学校環境」(生徒調査) の相関分析-----	56
(2) 校務分掌の「チーム形成」(教員調査)と「支持的学校環境」(生徒調査) の相関分析-----	57
(3) 「管理職による支援」(管理職調査)と「支持的・意欲的な学校環境」(教員 調査)の相関分析 -----	59

#### 第4章 考察

1. 「学校とのつながり」の構造から見る生徒指導の留意点 -----	63
2. 学校の生徒指導体制づくりの留意点-----	65
3. その他の分析結果の考察-----	66
(1) 校務分掌における共通するチーム形成要因の把握の課題 -----	66
(2) 管理職と教員との認識 -----	67

#### 補 遺

1. 生徒調査における回答者の属性 -----	71
2. 「学校とのつながり」の構造方程式モデルの情報 -----	73
3. 「生徒への指導・支援の充実」の構造方程式モデルの情報-----	76

#### 巻末資料

##### 各調査票

中学校での学校生活について (生徒用調査票) -----	81
中学校教員用質問調査票 -----	85
中学校管理職用質問調査票-----	93

##### 各基礎集計表

「中学校での学校生活について」基礎集計表 -----	97
「中学校教員用質問調査票」基礎集計表 -----	109
「中学校管理職用質問調査票」基礎集計表 -----	131

## はじめに

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターでは、中学校を対象として、令和元年度から令和3年度まで「生徒指導上の諸課題に対する実効的な学校の指導體制の構築に関する総合的調査研究」（以下「学校指導體制調査研究」とする。）を実施した。

この「学校指導體制調査研究」を企画・実施する前段階として、平成29・30年度と2年間にわたり、学校に対するヒアリングを実施している。当初の問題意識は、課題解決に向けて実効的にいじめの認知を積極的に行っている学校と、なかなかそういう状況にはなれない学校との間には、どのような違いがあるのか、その差はどこから生まれるのか、どのような工夫や介入で、実効のないじめの情報共有や認知ができる学校へと変化することができるのかなどについて、当センターとして学校現場の声を直接聴き、実態を適切に把握することであった。ヒアリングは、学校の管理職や生徒指導主事、学年主任等、100名以上の方々に御協力を頂き、実施した。現場の先生方の積み重ねられた実践知の聴き取りから得られたことは、教職員同士の学びが活発で、生徒の情報共有の風通しがよく、学校の課題や方針を共有している学校環境の形成の重要性であった。そのような学校環境を形成することが、いじめの防止や早期発見、対処に肯定的な影響を与えるであろうこと、更に生徒指導上の諸課題の未然防止にとどまらず、児童生徒の社会性や自己有用感を育てることに肯定的な影響を与えるであろうとの認識であった。一方、教員間の年齢構成の大きな変化等は、時として良好な学校環境の障壁にもなるという認識も同時に聴き取ることができた。

良好な学校環境は、生徒指導體制に大いに関係することである。生徒指導における組織づくりの重要さは、長年、文部科学行政が力を入れてきた政策方針といっても過言ではない。そもそも平成22年3月に刊行された現行の『生徒指導提要』（令和4年に改訂予定）は、その策定の背景にある問題認識として、「学校における生徒指導が、問題行動等に対する対応にとどまる場合があり、学校教育として、より組織的、体系的な取組を実施する必要があること」を挙げている。また、平成25年6月に成立し、同年9月に施行されたいじめ防止対策推進法では、その第22条において「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」が全ての学校で必置とされた。その後、同年10月に文部科学省により「いじめの防止等のための基本的な方針」が策定されているが、いじめの防止や早期発見、対処に至る全ての過程において組織で行うことが繰り返し強調されている。さらには、平成30年6月に閣議決定された「第3期教育振興基本計画」では「目標（16）『新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導體制の整備等』」において「新たな教育や、いじめ等の課題に対応するための指導體制の在り方などに対する教育政策の効果を評価する実証研究を推進する。」とされている。

生徒指導の政策方針として不易ともいえる生徒指導の組織体制づくり、すなわち、学校

の生徒指導体制の整備・構築について、学校に対するヒアリングから、改めてその現代的意義が確認できたといえる。そこで、「学校指導体制調査研究」では、ヒアリングを通して学校現場の先生方から得られた実践知を丁寧に検証し、良好な学校環境とは何か、それはいったいどのような鍵概念で構成されていそうかなど、研究官と企画課職員で繰り返し協議をし、「教員用調査票」を作成した。だが、教員の意識調査だけで良好な学校環境が明らかになったとしても肝腎の生徒の教育に肯定的な影響が及ぼされていないのであれば、独りよがりの意味のない教員調査になってしまいかねない。

そこで、学校が生徒指導を通して、生徒に育むこととして、長らく大切にしてきた他者への思いやりや相手を尊重する気持ち、他者から承認されている、誰かの役に立っているという自己有用感といった社会的資質や行動に関すること、また、それを下支えするであろう学級の雰囲気や学校への安心・安全感、教員との関係性といった学校の雰囲気に関すること、そして、それらの結実の一つであろう学校とのつながりをしっかりと意識付けることができれば、生徒指導上の諸課題の未然防止にもなりうると捉え、これらの状態を把握するために、「生徒用調査票」も作成した。

今回のこの中間報告書は、令和元年度の調査結果を取りまとめたものである。中間報告書では、特に、上記で述べた「生徒用調査票」で得られた「学校とのつながり」の意識とそれを下支えする諸要素が学校間で異なること、つまり、生徒指導の教育的成果は学校で差があることが一定程度明らかとなった。しかし、その教育的成果の差について、教員が作り出す学校環境によって、つまり、良好な「学校風土」を作り上げていくことで、その差を埋めて乗り越えていくことができる可能性が併せて示唆されている。

この中間報告書で得られた成果のエッセンスについては、いずれ生徒指導支援資料や生徒指導リーフなど、より手に取っていただきやすい媒体で改めて発信することができればと考えている。そして、令和4年度には、この「学校指導体制調査研究」の令和2・3年度調査の結果を取りまとめ、最終報告書を刊行する予定である。

この「学校指導体制調査研究」では、計40の中学校の生徒、教員及び管理職の方々に御協力を頂いた。特に、令和2年は世界が新型コロナウイルス感染症(Covid-19)に直面し、未曾有のコロナ禍で、我が国の学校現場も一斉休校や分散登校等、試行錯誤の中で教育活動を模索されてきた。このような大変な混乱の最中でも、調査研究への御理解と御協力を頂いた学校の生徒、教員、管理職、教育委員会の関係者に、末筆ながら、この場をお借りし心より感謝申し上げます。

国立教育政策研究所

生徒指導・進路指導研究センター長

鈴木 敏之

## 研究組織

(職名は令和4年3月現在)

	氏名	所属・職名(参画当時)	備考
研究 代表者	鈴木 敏之	生徒指導・進路指導研究センター センター長	令和3年4月から
	濱口 太久未	生徒指導・進路指導研究センター センター長	平成31年4月から令和元年7月まで
	北風 幸一	生徒指導・進路指導研究センター センター長	令和元年7月から令和2年3月まで
	御厩 祐司	生徒指導・進路指導研究センター センター長	令和2年4月から同年10月まで
	堀 清一郎	生徒指導・進路指導研究センター センター長	令和2年10月から令和3年3月まで
研究 分担者	宮古 紀宏	生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官	本調査研究主担当者
	滝 充	国立教育政策研究所 客員研究員	
	立石 慎治	筑波大学教育推進部助教 国立教育政策研究所フェロー	
	八並 光俊	東京理科大学教職教育センター 教授	令和4年1月から
事 務 局	武井 久幸	生徒指導・進路指導研究センター副センター長	令和3年4月から
	冨森 ゆみ子	生徒指導・進路指導研究センター企画課長	平成31年4月から令和元年10月まで
	新井 敬二	生徒指導・進路指導研究センター企画課長	令和元年11月から令和3年3月まで
	石川 いずみ	国立教育政策研究所総務部 専門官	令和3年4月から
	久保田 哲也	生徒指導・進路指導研究センター企画係長	令和2年4月から
	本澤 孝博	生徒指導・進路指導研究センター企画係長	平成31年4月から令和2年3月まで





# 第 1 章 研究の目的



## 第1章 研究の目的

### 1. 問題の所在

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（以下「生徒指導・進路指導研究センター」とする。）では、令和元年度から令和3年度まで「生徒指導上の諸課題に対する実効的な学校の指導体制の構築に関する総合的調査研究」（以下「学校指導体制調査研究」とする。）を実施した。この報告書は、「学校指導体制調査研究」の令和元年度調査の結果を分析し、取りまとめた中間報告である（以下「中間報告書」とする。）<sup>1</sup>。

この「学校指導体制調査研究」の企画・実施に当たり、その前段階として、平成29年度と平成30年度に学校に対するヒアリングを行っている。ヒアリングの目的は、学校内の教職員間で積極的にいじめをはじめとした生徒指導上の諸課題等について情報共有を行い、未然防止や対応に取り組んでいる、いわゆる、生徒指導に対して活発な学校とそうではない学校との差異は何か、そのような差異はどのように生まれ、また、その差異は建設的に埋めていくことはできるのか等について、当センターとして学校現場の声を直接聴き、実態を適切に把握することであった<sup>2</sup>。

生徒指導は、地域や学校によって温度差があるであろうことは、幾つかの公的統計からも示唆される。例えば、いじめの認知に関しては、令和2年度の「児童生徒の問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題に関する調査」では、いまなお「いじめを認知していない学校」は、全学校の21.1%存在し（図1）、「1,000人当たりのいじめの認知件数の都道府県間格差」は、令和2年度と同調査で9.8倍であり（図2）、それらの格差は縮小傾向にあるものの一定程度の学校間格差や地域間格差が見られるところである。

平成25年6月にいじめ防止対策推進法が成立、同年9月に施行され、さらに同年10月に文部科学省により「いじめの防止等のための基本的な方針」（以下「国の基本方針」とす

---

<sup>1</sup> 令和元年度調査のみを中間報告書とした理由は、令和元年度調査は、平成29・30年度の学校に対するヒアリング等に基づく仮説を統計的に検定して、調査票の構造を確認し、令和2・3年度調査に向けた調査票の開発を主目的としたためである。また、新型コロナウイルス感染症の登場と拡大により、令和2・3年度の「学校指導体制調査研究」は、調査対象地域である教育委員会のニーズを汲み、生活全般の不安や家庭におけるストレスに関する項目を追加する等、令和元年度調査と使用している調査票に若干の変更がなされているため、令和元年度調査のみ中間報告書として刊行することとした。

<sup>2</sup> 平成29・30年度の学校に対するヒアリングは厳密な枠組みを持ったインタビュー調査として実施しておらず、学校現場を訪問し、管理職や教員の声を直接聴き、実態を把握するという趣旨で行っている。そのため、後述する平成29・30年度のヒアリングの結果については、厳密な定性的分析にはそぐわないと判断し、ヒアリング内容を簡潔に要約するにとどめている。

る。)が策定されて以降、法的ないじめ概念は拡大してきた。平成28年3月に文部科学省初等中等教育局児童生徒課長通知「いじめの正確な認知に向けた教職員間での共通理解の形成及び新年度に向けた取組について」が発出されたが、同通知には、別添資料として「いじめの認知について～先生方一人一人がもう一度確認してください。～」が示され、そこでは一回限りの些細に見えることでも「いじめの芽」、「いじめの兆候」として、いじめとして捉えることとされた。また、平成29年3月に改定された「国の基本方針」では、児童生徒間のけんかをはじめ、児童生徒の好意から行った行為が意図せず相手側の児童生徒に心身の苦痛を感じさせた場合であってもいじめ防止対策推進法第2条第1項のいじめの規定に該当するため、同法第22条の「学校いじめ対策組織」に事案を報告し、情報共有することとされた<sup>3</sup>。

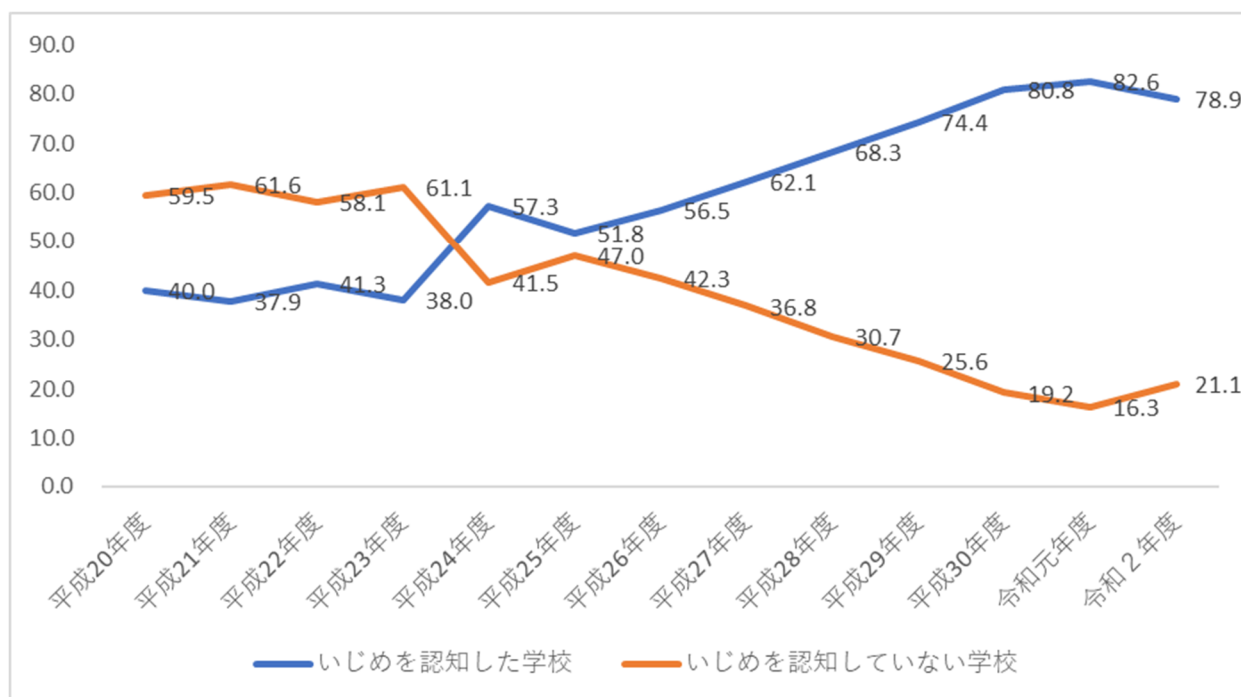


図1 「いじめを認知した学校」と「いじめを認知していない学校」の割合の推移  
(出典：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題に関する調査」より作成)

もし社会通念上、広く共有されているいじめのイメージとして、行為の反復や継続、影響力の差（いわゆる、強い者と弱い者）、また、固定的な被害者像が挙げられるとすれば、いじめ防止対策推進法制下のいじめは、それらに限定されず、被害児童生徒の被害感情に立脚

<sup>3</sup> 文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」（平成25年10月、平成29年3月改定）のp.5参照。

した極めて広範な概念となっている。この広範な法令上のいじめについては、その防止や早期発見、対処に至るまで学校における組織的な対応が求められており、とりわけ、いじめの認知については「学校いじめ対策組織」において判断することとされている。

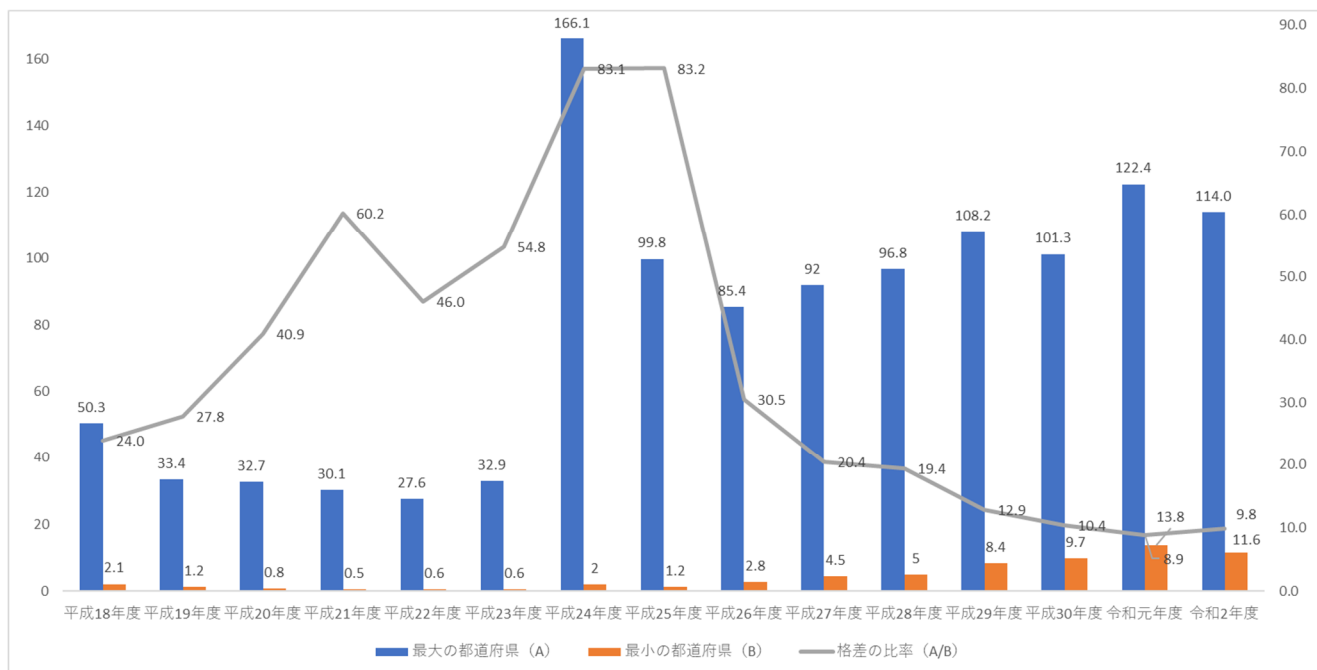


図2 1,000人当たりのいじめ認知件数の都道府県格差

(出典：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題に関する調査」より作成)

生徒指導・進路指導研究センターでは、ある地域の小中学生を対象に「いじめ追跡調査」を実施しているが、その結果から児童生徒のいじめ被害経験やいじめ加害経験について、年度によって若干の増減があるものの一定の割合であることが見出されている<sup>4</sup>。その示唆するところは、いじめが、どの学校でも、どの児童生徒に対しても起こりうることである。そ

<sup>4</sup> 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(2021)「いじめ追跡調査 2016-2018」『生徒指導支援資料7「いじめに取り組む2」』。

生徒指導・進路指導研究センターによる「いじめ追跡調査 2016-2018」によれば、小学生は男女とも、仲間外れ・無視・陰口といった「暴力を伴わないいじめ」の被害経験率は平均4～5割程度である。また、中学生男子の被害経験率は平均3割前後、中学生女子の被害経験率は平均4割程度である。つまり、小中学生とも、年度によって「暴力を伴わないいじめ」の被害経験率に大きな変動はなく、一定の割合で発生しているといえる。なお、「いじめ追跡調査 2016-2018」では、小学生の被害経験率は減少傾向、中学生の被害経験率はほぼ横ばいとされている。

うであるならば、図1及び図2は、積極的に児童生徒の些細な変化も見逃さずに、「いじめの芽」として認知している学校や地域がある一方で、何らかの障壁によりいじめの認知が学校として機能していない場合がありうることを示唆しているとも捉えられよう。

現在、児童生徒間の様々な行為が法令上のいじめに該当するため、校内における丁寧で密な情報共有とそれに基づく積極的ないじめの認知は学校に対して一定の負荷をかけることになるであろうことは想像に難くない。だが、この負荷を積極的に引き受け、校内において教職員間で情報共有を丁寧に行い、いじめの認知をその解消をも含めて、精力的に行っている学校が存在することも事実であろう。

上述の問題意識のもとで、平成29年度と平成30年度の学校に対するヒアリングでは、いじめの防止等への取組をはじめ、生徒指導が活発な学校とそうでない学校の差異をテーマに、「管理職」（校長、副校長及び教頭）、「生徒指導主事」、「教諭」（各学校側で選定、主に、教務主任や学年主任等）に対し、グループごとに、各40分程度のヒアリングを実施した。2か年度で、100名以上の管理職と教員にヒアリングの御協力を頂いた。

## 2. 平成29年度のヒアリングの概要

平成29年度の学校に対するヒアリングは、X県教育委員会の協力を得て実施された。X県教育委員会によって、地域的な偏りがない県内5市の教育委員会が選定され、各教育委員会が所管する小学校1校、中学校1校ずつにヒアリングを行った（小学校5校、中学校5校）。また、X県教育委員会が所管する高等学校3校にもヒアリングを実施した。

ヒアリングの主な質問項目は、以下の①から③であり、生徒指導・進路指導研究センターの職員2～3名で常時実施した。実施期間は、平成29年11月から平成30年3月であった。

- ①「学校いじめ対策組織」の構成はどのようになっているか。
- ②校内でのいじめの情報共有の流れはどのようになっているか。
- ③積極的ないじめの認知は、なぜできるようになったのか。特別な取組等の工夫はあるか。

①の質問への主な回答から、「学校いじめ対策組織」は、管理職（校長、教頭）と生徒指導部（生徒指導主事と学年生徒指導担当、学校によっては学年主任や養護教諭、スクールカウンセラー含む）のメンバーを中核として構成されていることが共通していた。また、学校によっては、学年主任による学年会、教育相談部、外部の専門家（スクールソーシャルワーカー、医師、スクールロイヤー、スクールサポーター（警察OB））もメンバーとしていた。この「学校いじめ対策組織」のメンバーについては、ヒアリングに選定された学校以外においても一般的に見られる構成であり、構成自体に顕著な特色は見られなかった。

②の質問への主な回答から、校内におけるいじめに係る情報の流れの実態として、学年で中心に議論されていることが明らかとなった。生活状況調査（いじめアンケート等）、教育

相談（個別面談）、児童生徒とのコミュニケーションと日々の観察、保護者・地域からの情報といった様々な情報経路から教員（学級担任等）はいじめに係る情報を取得しており、その多くが学年主任や学年の同僚教員、学年生徒指導担当といった学年団で共有され、対応が検討されていた。そこから、情報の内容等に応じて、管理職や生徒指導部、「学校いじめ対策組織」、教育相談係へと共有されていた。

③の主な回答では、とりわけ、管理職や教員の認識として、いじめの認知に関して特別な取組や仕組みを導入したという意識はないとのことであった。積極的ないじめの認知がなぜできるようになったのかについては、幾つかの共通していた事項として、現在のいじめの定義（法令上のいじめ）と校内の情報共有のフローチャートに関する継続的な伝達・確認、情報共有を円滑にする上での人間関係の形成、相談しやすい良好な職場の雰囲気づくりを重視しているとのことであった。より具体的には、いじめの認知に関する教職員の正しい理解と啓発、学校のビジョンの共有、自ら積極的に話しかけコミュニケーションを図ること、相談しやすい職員室の雰囲気づくりが挙げられていた。その他には、管理職から、学年主任や生徒指導主事に誰を充てるかが重要といった校務分掌の組織づくりに関する回答があった。

②の質問への回答から、いじめの早期発見や対処については、学年団が第一次的な組織となる傾向があるため、③の回答で見られるように、管理職や生徒指導主事は人間関係の形成や情報共有の仕組みの周知、啓発を日頃より図ることによって、学年団で情報がとどまらないような取組や工夫をしていると考えられる。また、教職員の職能開発に重きを置くという回答は、いじめの積極的な認知にとどまらない、生徒指導上の様々な教育的成果を児童生徒にもたらすことに関連する。平成 29 年度の学校に対するヒアリングは、いじめだけでなく、児童生徒の生徒指導上の教育的成果をより広範に捉え、教職員集団の特色との関連を検討することの意義について、示唆を得るものとなった。

### 3. 平成 30 年度のヒアリングの概要

平成 30 年度の学校に対するヒアリングは、A 市教育委員会の協力を得て実施された<sup>5</sup>。ヒアリング対象校の選定では、地域的な偏りがなく、学校規模（大・中・小）が均等になるように選定し、小学校 12 校、中学校 12 校、計 24 校に実施した。

平成 29 年度のヒアリングを通して得られた示唆を踏まえて、いじめの積極的な情報共有や未然防止にとどまらない、広く児童生徒の生徒指導上の教育的成果に関連する教職員集団の文化・風土、生徒指導体制づくりの要点や課題についてヒアリングを行った。

ヒアリングの主な質問項目は、以下の①から④であり（⑤は主に管理職に対してのみ質問した）、生徒指導・進路指導研究センターの職員 2～3 名で常時実施した。実施時期は、平

---

<sup>5</sup> A 市は、平成 29 年度の協力地域の X 県内にある。なお、A 市に対しては、平成 29 年度にヒアリングは実施していない。

成 30 年 11 月から 12 月であった。

- ①児童生徒への教育的成果と教職員集団の状態との間に何らかの関連はあるか。
- ②児童生徒によい教育的成果を及ぼすであろう教職員集団の特徴はどのようなものか。
- ③上記②のような学校の指導体制や教職員集団づくりをする上での重要なポイントは何か。
- ④学校の指導体制や教職員集団づくりがうまくいかない場合の原因は何か。
- ⑤学校の指導体制づくりの上で、特に重要な校務分掌は何か。(主に管理職に対しての質問)

①の質問に対しては、ヒアリングをした管理職と教員全員が、児童生徒への教育的成果と教職員集団の状態との間には経験的に関係があると考えたと回答した。

②の質問への主な回答の要約は、「お互いを尊重した人間関係」や「話し合いをしやすい親和的な雰囲気」、「学年団の協働」、「教職員同士の学び」、「児童生徒のを中心とした建設的な協議と相互評価」であった。これらの理由は、児童生徒への生徒指導を適切に実施、充実させていく上で、児童生徒の情報共有が必要であり、その情報共有を円滑にするであろう学校の雰囲気や様子として観察できる事象として捉えられていた。

③の質問への主な回答の要約は、「教職員同士の関係作り（例、教職員同士のコミュニケーションが円滑になるような調整や工夫）」や「学校の方向性（指導の仕方や情報等）の共有」、「見通しを持った校内での人材育成」、「ロールモデルになる努力」であった。②の回答で挙げられた特色を有する学校へと変容させる上で、それぞれの役割や立場から、日頃大切に捉えていることについての回答がなされた。

④の質問への主な回答の要約は、「年齢構成の二極化からくる組織づくりの難しさ」や「指導観に関するギャップ」、「若手教員の保護者対応や生徒指導でのつまずき」、「教員内でのサブグループの形成」、「経験への固執や柔軟性のなさ（例、管理職や同僚の助言を受け入れない）」であった。これらは、主に現在の学校が抱える年齢構成に起因する問題として捉えられていた。一方、経験の浅い教員や若手教員の指導上の力量不足だけではなく、ベテランの教員が抱える課題（経験への固執、柔軟性のなさ）も挙げられていた。

⑤の質問は、主に管理職にのみ実施したものである。主な回答の要約は、「学年主任や生徒指導主事を重視（中学校）」、「学校行事に関連する分掌を重視（中学校）」、「教務主任や学年主任、体育主任、研究主任を重視（小学校）」であった。⑤の質問への回答の理由も合わせて確認したところ、主な理由として、学校全体に関わる取組を担当する校務分掌は、他の同僚の教員を巻き込み協働していくリーダーシップに関する力量が求められ、学校全体に与える影響が大きいことが挙げられた。つまり、それらの分掌に誰を配置するかによって、学校の生徒指導上の取組にも影響があるため、重視しているという趣旨であった。



#### 4. 先行研究レビューと仮説モデルの設定

平成 29・30 年度の学校に対するヒアリングで得られた知見を参考に、令和元年度から令和 3 年度にかけて実施する「学校指導体制調査研究」を企画・実施することとなった。「学校指導体制調査研究」を企画・実施する上で、仮説モデルを構築するために、ヒアリングで得られた内容を参考にしつつ、併せて先行研究のレビューを行った。

平成 29・30 年度のヒアリングでは、児童生徒の情報共有の大切さとそれを円滑にするための教職員集団づくりや学年の団結等に関する回答が得られている。そのため、教員については同僚性やチーム形成に着目するとともに、それらと関連する「学校風土」(School Climate)を主に先行研究としてレビューすることとした。

米国では、「学校風土」指標が学校教育のパフォーマンス指標の一つとして採用されている。これは、児童生徒の学校とのつながり（学校との絆<sup>きずな</sup>）や学校への安心・安全感、いじめ防止の雰囲気、「社会性と感情の学習」(Social and Emotional Learning: SEL)への支援、いじめの被害・加害経験等の諸概念で構成されている。とりわけ、カリフォルニア州では、児童生徒調査、教職員調査及び保護者調査で構成される「カリフォルニア州学校風土・健康・学習調査」(California School Climate, Health, and Learning Survey: Cal-SCHLS)を開発し、州レベルで学校アカウンタビリティの一環として継続的な調査が行われている。そこで得られた情報は、学校や学区にフィードバックされるとともに、学校改善に生かす取組がなされている<sup>6</sup>。

「学校指導体制調査研究」を企画・実施する上で、州が実施し、学級といった単位ではなく、学校、あるいは、教育委員会が所管する地域全体といった広域的な単位で学校パフォーマンスをアセスメントするこの Cal-SCHLS は、国の政策立案に資する調査研究を目的とする生徒指導・進路指導研究センターの調査研究の方向性と適合すると判断し、先行研究としてレビューすることとした。とりわけ、この Cal-SCHLS のうち、「カリフォルニア州児童生徒健康調査」(California Healthy Kids Survey: CHKS)と「カリフォルニア州教職員調査」(California School Staff Survey: CSSS)の理論的フレームワーク等を参考にし、平成 29・30 年度のヒアリングで得られた知見を踏まえて、仮説モデルの構築を試みた。

Cal-SCHLS の基盤には、研究の蓄積に基づく「レジリエンスと青少年の発達モジュール」(Resilience & Youth Development Module)という理論的なフレームワークがある (Austin &

---

<sup>6</sup> 米国カリフォルニア州で実施されている Cal-SCHLS のレビューについて詳しくは以下がある。以下は、「学校指導体制調査研究」を実施する上での先行研究のレビューも兼ねて取りまとめている。

宮古紀宏・八並光俊 (2020)「カリフォルニア州における教育データ収集と公開の仕組みー学校説明責任としての「学校風土」の測定ー」『社会情緒的 (非認知) 能力の発達と環境に関する研究: 教育と学校改善への活用可能性の視点から』(学校改善チーム) 中間報告書 (米国・中国調査)』国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター, pp.29-58.

Duerr, 2004, 2005, Austin, Bates & Duerr, 2013)<sup>7</sup>。図3は、その理論的フレームワークを表現したものであるが、アウトカムには児童生徒の健康や学力、社会性の改善が掲げられており、インプットとしての教育的な実践や介入については「保護因子」(protective factors)が設定されている。

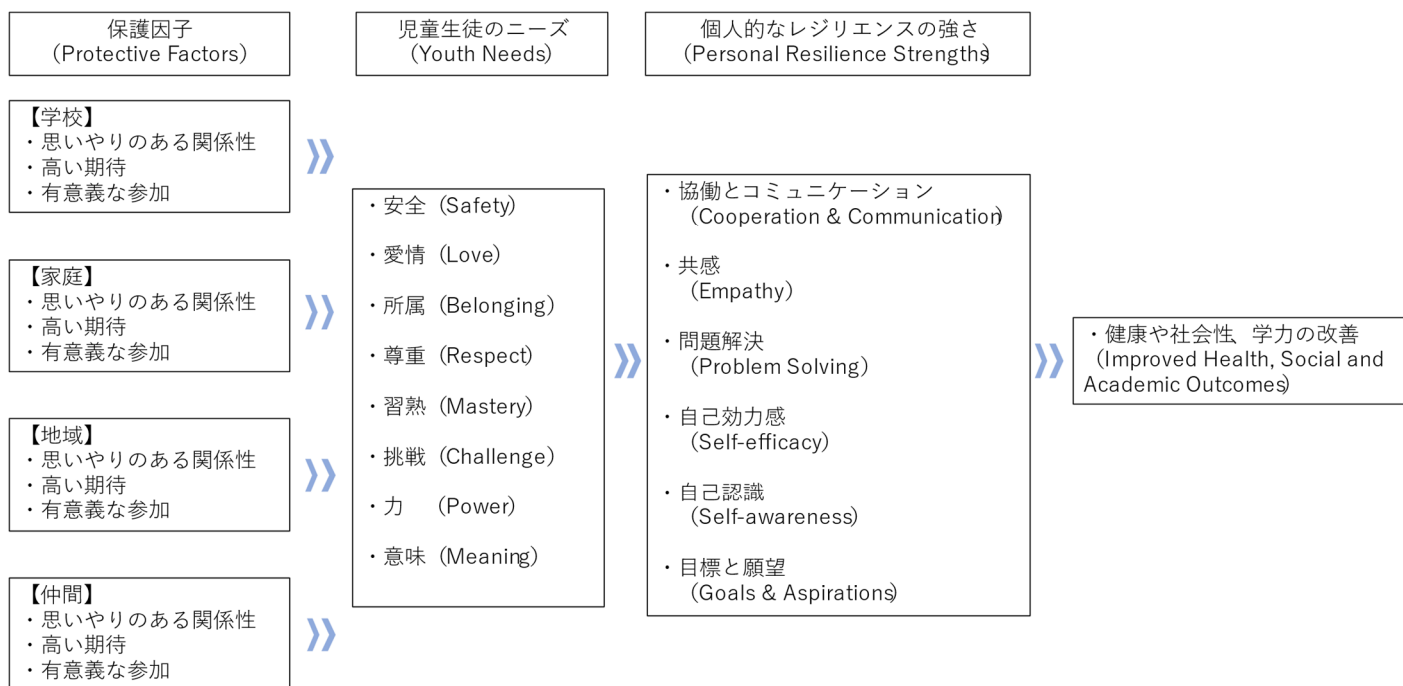


図3 レジリエンスと発達のプロセスモデル

(Austin, G., Bates, S. & Duerr, M. (2013). *Guidebook to the California Healthy Kids Survey part II: Survey Content – Core Module.*, CA: WestEd.,p.10 をもとに翻訳)

このモデルにおける「保護因子」は、学校の教育的な活動や介入によって変化可能な概念として設定されており、児童生徒同士や児童生徒と教職員との間の思いやりのある関係 (caring relationships), 児童生徒に対して平等に学業的成功等への期待をかけること (high

<sup>7</sup> Austin, G., Bates, S. & Duerr, M. (2013). *Guidebook to the California Healthy Kids Survey part II: Survey Content – Core Module.*, CA: WestEd.

そのほかに、以下がある。

Austin, G. & Duerr, M. (2004). *Guidebook for the California Healthy Kids Survey part I: Administration.*, CA: WestEd.

Austin, G. & Duerr, M. (2005). *Guidebook for the California Healthy Kids Survey part III: School Climate Survey for Teachers and Other Staff.*, CA: WestEd.

expectations), 学校内での様々な教育活動等に児童生徒が適切な意見表明や自己決定をさせる機会を設定し有意義な参加を促進すること (meaningful participation) が重視されている。これらの「保護因子」へのアプローチが児童生徒のニーズとしての安心・安全や愛情, 所属感, 尊重, 意欲 (課題への挑戦) に影響し, それが更に自己効力感 (self-efficacy) や自己認識 (self-awareness), 問題解決, 協働といった児童生徒のレジリエンスへの支援となり, その結果, 健康面や学力面, 社会性の面でのアウトカムに結実するというフレームワークである。

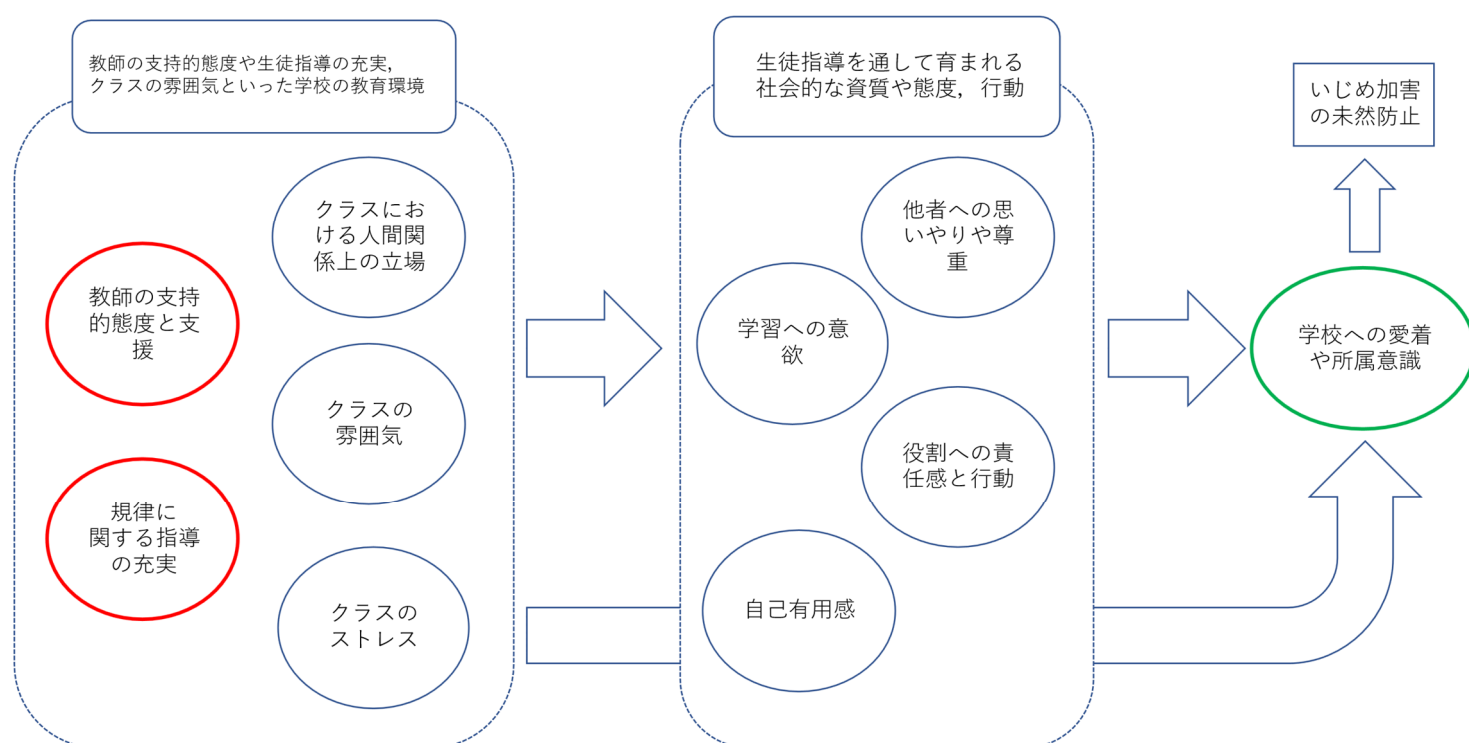


図4 生徒調査の仮説モデル

Cal-SCHLS の各調査票は, この理論モデルの概念, とりわけ, 児童生徒の発達を助長する教育的な支援と機会をアセスメントすることが狙いとされる。紙幅の都合上, Cal-SCHLS の質問調査票の項目の詳細は割愛するが, マヘチャとハンソン (Mahecha, J., & Hanson, T, 2020) は, 2017-18 年度の Cal-SCHLS で収集されたデータをもとに「カリフォルニア州児童生徒健康調査」や「カリフォルニア州教職員調査」等の因子構造の確認を行っている<sup>8</sup>。マヘチ

<sup>8</sup> Mahecha, J., & Hanson, T. (2020). *Measurement Structure of the California School Climate, Health, and Learning Surveys: Student, Staff, and Parent Surveys*. San Francisco, CA: WestEd, pp.1-128.

マヘチャらは, 2017-18 年度の Cal-SCHLS のデータをもとに実施した因子分析により確

ャらの研究によれば、「カリフォルニア州児童生徒健康調査」（中学・高校生用コアモジュール）は、「教職員と児童との思いやりのある関係」や「学校の教育活動への有意義な参加」、「学校とのつながり」、「学業への意欲」、「保護者の学校への関わり」、「薬物の使用」、「暴力被害経験」、「非行」、「いじめ被害」の項目であることが確認されている。

また、「カリフォルニア州教職員調査」は、「児童生徒の学習環境」や「職場環境」、「同僚性」、「教育上の公平性」、「多様性の尊重」、「児童生徒の学校の教育活動への有意義な参加」、「教職員と児童生徒との思いやりのある関係性」、「保護者の関わりへの促進」、「いじめ防止の風土」、「児童生徒の学習への準備状況」、「児童生徒同士の関係性」、「『社会性と感情の学習』への支援」、「公正さと校則の明確さ」、「規律の厳しさ」、「薬物使用、メンタルヘルス、欠席の問題」、「児童生徒の反社会的行動」、「学校の荒れ」の項目で構成されているとしている。

「学校指導体制調査研究」の企画をする上で、州レベルでの大規模な調査である Cal-SCHLS の理論的フレームワークと調査票でアセスメントすることが想定されている構成概念、質問項目について参考とした<sup>9</sup>。しかしながら、我が国と米国の学校教育は、社会的背景が大きく異なるため、Cal-SCHLS の理論モデルとそれをアセスメントする調査票を直接的に採用することはせずに、平成 29・30 年度のヒアリングで得られた知見をも踏まえつつ、仮説モデルを構想した。

図 4 は、「学校指導体制調査研究」における生徒調査の仮説モデルである。まず、インプットとなる要因を検討する上で重視したことは、教員の努力や同僚からの学びによって変化しうる概念としたことであり、「教師の支持的態度と支援」と「規律に関する指導の充実」を設定した。これらを生徒自身がどのように評価しているかを重視した。

また、この教員による指導や支援の充実が「クラスの雰囲気」や「クラスのストレス」、生徒同士の「クラスにおける人間関係」等に影響を与え、支持的な学校の教育環境を構成すると捉えた。このような支持的な学校環境を基盤として、教員が生徒に育成することを想定する社会性が育まれると仮定した。とりわけ、学校の様々な教育活動や生徒指導を通して育まれる社会的な資質や態度、行動として社会性の基礎とされる「自己有用感」と「役割への

---

認された因子とそれに関連する調査票の質問項目数、信頼性係数等をまとめている。

<sup>9</sup> <https://calschls.org/>（Cal-SCHLS の Web サイト）

上記の Web サイトでは、Cal-SCHLS の概要説明と使用されている「カリフォルニア州児童生徒健康調査票」や「カリフォルニア州教職員調査票」、「カリフォルニア州保護者調査票」といった各種調査票をダウンロードできる。

「カリフォルニア州児童生徒健康調査」では、中核となる調査票としてコアモジュールが設定されているが、補助指標（補助モジュール）がオプションとして用意されており、学校や学区のニーズに応じて柔軟な組合せができる設計がなされている。補助モジュールの一つに「学校風土」に関する質問項目が設置されているが、この「学校風土」は、コアモジュールと合わせて実施することが州により推奨されている。

責任感と行動」,「他者への思いやりや尊重」,「学習への意欲」を設定した。これらは教員間で児童生徒に育むことが我が国の学校文化において根付いている社会的資質・行動の諸要素として捉えられよう。

そして、それらの帰結として、生徒のアウトカムとなる要因には、「学校への愛着や所属意識」を配置することとした。この「学校への愛着や所属意識」は、Cal-SCHLSでも注目されている概念であり、「学校とのつながり」(school connectedness)と呼称される。生徒調査における「学校とのつながり」は、いじめ、とりわけ、いじめの加害経験にも関連するものとして想定した。

図5は、「学校指導体制調査研究」における教員調査の仮説モデルである。生徒用調査ではインプットとなる要因として配置した「教師の支持的態度」や「規律に関する指導」について、生徒調査との相関分析を考慮し、教員調査ではこれらの概念をアウトカムとなる要因として「指導・支援の充実」(「教師の支持的態度」及び「生徒指導と学習指導の充実」)と捉えることとした。

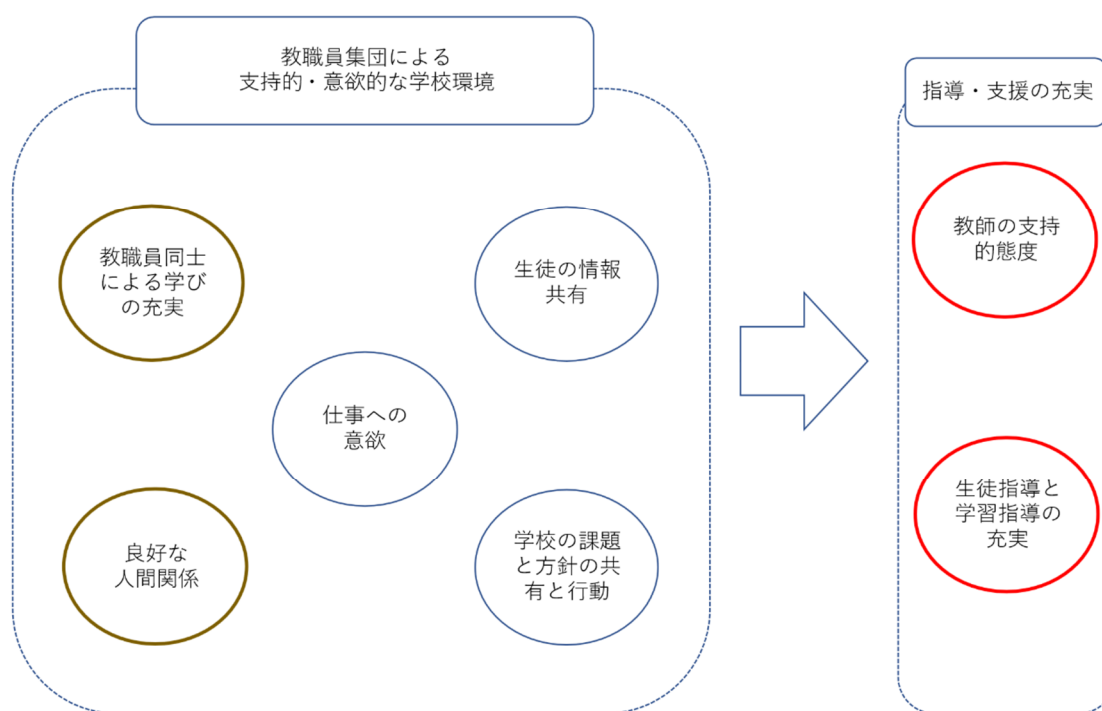


図5 教員調査の仮説モデル

教員調査のインプットとなる要因では、生徒調査と同様に变化可能な概念として想定し、とりわけ、平成29・30年度のヒアリングの知見で得られた「教職員同士の学び」や「良好な人間関係」を配置した。そして、これらが「仕事への意欲」にも影響し、教員にとっての

支持的・意欲的な学校環境を表すものとした。このような学校環境を土台として、「生徒の情報共有」や「学校の課題と方針の共有と行動」が促進され、アウトカムとなる要因としての指導・支援の充実につながると想定した。

また、平成 29・30 年度のヒアリングでは、学年団等の協働の大切さが教員間で広く認識されていた。そのため、図 5 の学校の教員全員を対象とする仮説モデルとは別に、学年団や生徒指導部会、教育相談部会に対して、お互いへの気配りや配慮、丁寧なコミュニケーション、葛藤解決と調整、お互いの仕事への理解、情報共有と行動等について校務分掌内での「チーム形成」として、生徒のアウトカムとなる要因との相関分析を考慮し、設定することとした。

「学校指導体制調査研究」では、管理職への調査について、教員調査とは別に設計することとした。前述の平成 29・30 年度のヒアリングからは、年齢構成の変化等により、教職員同士の人間関係形成等に困難が見られるとの回答が管理職を中心にあった。そのため、管理職の認識として、経験年数の浅い若手教員の育成ができること、同僚への相談や情報共有が円滑となること、お互いに尊重し同僚から学ぶことができること等が可能となる教職員集団づくりの重要性が挙げられていた。

そこで、管理職調査では、教職員に対する「生徒に関する情報共有への支援」や「生徒指導への支援」、「学習指導への支援」、「人間関係への支援」について管理職による支援として設定した。

「学校指導体制調査研究」の令和元年度調査では、上記の仮説に基づき、生徒調査や教員調査、管理職調査それぞれにおいて、因子構造を確認した。また、生徒調査や教員調査では、仮説モデルへの適合度について統計的検定を実施することとした。さらに、学校や学年を観測単位として、生徒調査や教員調査、管理職調査を接続して、要因間の関連について相関関係を検定することとした。

## 5. 本研究の目的

平成 29・30 年度の学校に対するヒアリングを参考に、「学校指導体制調査研究」は、いじめをはじめ、児童生徒の複雑・多様化した生徒指導上の諸課題の改善にとどまらず、児童生徒の包括的な向社会性を育むことを可能とする実効的な学校の指導体制の諸特性を検討することを目的に企画・実施した。すなわち、この調査研究では、生徒指導に関してより効果的、実効的な学校の指導体制づくり、いわゆる、生徒指導体制の整備・構築のための要点を明らかにすることに、特に焦点が当てられている。そのため、まずは生徒調査における学校への愛着や所属意識である「学校とのつながり」に着目し、それがどのような構成体として把握できるのかを明らかにする。そして、この「学校とのつながり」が、とりわけ、いじめの加害経験の有無に関連するかどうかについて確認する。

また、「学校とのつながり」は学校、さらには、学年でも異なることが想定される。「学校とのつながり」を学校や学年の教育的成果の一つとして捉える場合、その差によって、教員

集団の諸特性にどのような違いが見られるのかを明らかにすることが、実効的な学校の指導体制を検討する上で、肝要となる。そのため、教員調査における支持的・意欲的な学校環境、生徒の情報共有に基づく学校課題の共有と行動の各諸要素、さらには、学年団や生徒指導部会、教育相談部会の「チーム形成」といったフレームワークから、生徒の「学校とのつながり」との関連を検討する。

生徒指導体制の整備・構築の重要性は、決して新しいトピックではない。平成22年3月に文部科学省により刊行された『生徒指導提要』では、提要策定の背景にある問題認識として、学校における生徒指導が、問題行動等に対する対応にとどまる場合があり、学校教育として、より組織的、体系的な取組を実施する必要があること、また、小学校から高等学校段階までの生徒指導の理論や実際の指導方法について網羅的にまとめた基本書等が存在せず、生徒指導の組織的、体系的な取組が十分に進んでいないことが指摘されており、生徒指導の取組の充実、改善には学校の組織体制づくりが不可欠と捉えられていることが読み取れる<sup>10</sup>。

また、生徒指導の最重要課題の一つであるいじめについてもその防止等への取組については組織が強調されている。いじめ防止対策推進法第22条では、すべての学校に「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」（以下「学校いじめ対策組織」とする。）の設置が義務付けられ、「国の基本方針」においては、「学校いじめ対策組織」を中核に、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処に至る取組に関して、組織的に対応することが求められることとなった。

さらに、平成30年6月15日に「第3期教育振興基本計画」が閣議決定されたが、「目標(16)新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制の整備等」において、いじめ・不登校等の未然防止・早期対応の強化を図り、多様な子供たち一人一人の状況に応じた教育を進めるために、学校の指導・事務体制の効果的な強化・充実を図ることが打ち出された。そして、いじめ等の課題に対応するための指導体制の在り方などに対する教育政策の効果を評価する実証研究を推進することが明示されている<sup>11</sup>。

これら生徒指導に関する施策の目標の実現のためには、児童生徒の広範な向社会性の育成といった発達促進的指導から、いじめ等の諸課題への対応といった課題解決的指導まで、体系的、組織的に学校の指導体制を構築することで、その実現を図っていくことが重要となる。しかしながら、学校における実効的な指導体制の在り方や、そのような体制を構築していく上で留意すべき点、また、教育委員会としての支援の在り方等、どれもエビデンスベースの観点から明確になっているとは必ずしもいえない。したがって、地域や学校ごとに実情が異なる中で、実効的な学校の指導体制づくりを進める上で、課題となる点は何か、また、その課題を解決していくためにどのような方法が考えられるか等を明らかにする調査研究が求められており、「学校指導体制調査研究」はそのための基礎研究として位置付けられる。

---

<sup>10</sup> 文部科学省『生徒指導提要』（平成22年3月）の「まえがき」参照。

<sup>11</sup> 『第3期教育振興基本計画』（平成30年6月）のpp.50-51及びpp.81-82参照。

## 6. 中間報告書の構成

中間報告書の構成は、第1章において研究の目的について述べた。研究の目的としては、上述してきたとおり、「学校指導体制調査研究」の問題の所在、企画・実施の上で参考とした平成29・30年度ヒアリングの概要、先行研究としてレビューしたカリフォルニア州で実施されている Cal-SCHLS の概要、「学校指導体制調査研究」において設定した仮説モデル等について述べている。

第2章では、研究の方法について述べた。「中間報告書」は「学校指導体制調査研究」の令和元年度の調査を取りまとめたものであるが、令和元年度の調査対象、調査の実施時期、回答状況、そして、生徒調査や教員調査、管理職調査の調査方法について述べている。

第3章では、分析結果について述べた。生徒の教育的成果に肯定的な影響を及ぼす学校の指導体制の特色を検討する上で、まずは、生徒調査から生徒のパフォーマンスとした概念を確認する必要がある。そのため、分析結果では第1節で生徒調査の尺度の因子構造、仮説モデルへの適合度の検定、「学校とのつながり」といじめ加害経験の関連に関する検定の結果について述べた。第2節では教員調査の因子構造と仮説モデルへの適合度の検定の結果、第3節では管理職調査の因子構造の確認の結果、第4節では各調査間の相関分析の結果について述べている。

第4章は、第3章の分析結果を踏まえ、以下の三つの観点から考察を行った。第一は、生徒調査における「学校とのつながり」について、生徒指導上のアウトカムと見なしたときに、その他にも抽出された因子間との関連から、生徒指導を行う上での留意点について考察を行った。第二は、「学校とのつながり」を育んでいる学校の教職員集団の諸特性について、生徒調査と教員調査との相関分析の結果に基づき考察を行った。第三は、上記以外の分析結果として、教員調査における学年団、生徒指導部会及び教育相談部会の「チーム形成」と生徒調査の相関分析、また、管理職調査と教員調査の相関分析のそれぞれの結果から、今回、作成した調査票の課題を含めて、考察を行った。

補遺では、生徒調査の属性（教員調査と管理職調査の属性は巻末資料の基礎集計表に掲載）、生徒調査と教員調査で実施した共分散構造分析のパス図について掲載した。巻末資料では、令和元年度の「学校指導体制調査研究」で用いた各質問調査票と各基礎集計表を掲載している。



## 第2章 研究の方法



## 第2章 研究の方法

### 1. 令和元年度調査の位置付け

「学校指導体制調査研究」は、他者尊重や役割への責任感、自己有用感等の生徒の向社会的の育成やいじめ等の諸課題の未然防止といった児童生徒の多様で肯定的な教育的成果に関連する学校への愛着や所属意識である「学校とのつながり」と、実効的な学校の指導体制の諸特性との間に、どのような関連があるかを明らかにすることを試みるものである。令和元年度調査では、「①中学校での生活について」（以下「生徒用調査票」とする。）、「②中学校教員用質問調査票」（以下「教員用調査票」とする。）及び「③中学校管理職用質問調査票」（以下「管理職用調査票」とする。）の三つの質問調査票を開発し、二市を対象に、それぞれ公立中学校18校と22校の計40校に対して、質問紙調査を実施した。

この中間報告書では、令和元年度の一時点の調査を取りまとめたものであり、令和2及び3年度調査の予備調査としての位置付けである。中間報告書では、各質問調査票の尺度の因子構造や仮説モデルに対する適合度、各調査間の相関分析等を主に分析し、考察を行った。

### 2. 調査対象

「学校指導体制調査研究」は、二市を対象に、事前に市教育委員会に調査の趣旨説明等を行い、市内の公立中学校の3分の1相当に該当する学校を18校と22校、計40校選定し、上述の3種の質問調査票を送付した<sup>12</sup>。学校の選定に当たっては、小規模、中規模及び大規模の学校について、それぞれ規模別に学校数が均等となるように抽出した。各質問調査票の回答者は、以下のとおりである。

#### ① 生徒調査

- ・生徒に回答依頼
- ・調査票は各学校の生徒の人数配布

#### ② 教員調査

- ・教員（常勤（正規）、フルタイムの講師、臨時的任用教員、再任用教員）に回答依頼
- ・調査票は各学校の教員の人数配布

#### ③ 管理職調査

- ・管理職（校長、副校長及び教頭）に回答依頼
- ・調査票は各学校の管理職の人数配布

---

<sup>12</sup> 二市については、東日本と西日本それぞれから、人口規模約80万から100万人程度の政令指定都市を選定した。

### 3. 調査の実施時期と回答の状況

令和元年度調査における各質問調査の実施時期は、令和元年 11 月末～12 月末にかけて行った。また、令和元年度調査における各質問調査票の調査対象数や回答学校数、回答者数、回答者率は以下のとおりである（表 1）。

表 1 令和元年度調査における  
各質問調査票の調査対象数や回答学校数、回答者数、回答者率

	調査対象数（人）	回答学校数（校）	回答者数（人）	回答率（%）
生徒調査	18,802	40	17,276	91.9
教員調査	1,280	40	992	84.1
管理職調査			84	

※回収率は、回答者数を調査対象数で除して算出している。

### 4. 調査方法

教育委員会に調査実施前に調査に関する詳細な説明と協力依頼を行い、調査協力の承認が得られた中学校 40 校に対し、各調査票の発送・回収を行った。各学校の管理職と調査実施担当の教員（学級担任等）あてに各調査票とともに、調査依頼と実施の手順（注意事項や伝達事項）についても送付した。

生徒調査では、調査実施担当の教員から、テストではないこと、回答することを拒否する生徒がいた場合、無理に書かなくてもよいこと等を調査実施時の注意事項や伝達事項として、生徒に伝えて実施した。

#### （1）生徒調査

生徒調査の質問は 66 項目（属性に関する項目を除く）から成る（表 2）<sup>13</sup>。その内の 50 項目は、図 4 の仮説モデルをもとに作成し、4 件法での回答とした<sup>14</sup>。

生徒のアウトカムとしての学校への愛着や所属意識を設定した。また、学校の教育環境の観点から、教師の支持的態度と支援、規律に関する指導の充実、クラスの雰囲気、クラスにおける人間関係上の立場、クラスのストレスを設定した。そして、生徒指導を通して育まれる社会的な資質や態度、行動の観点から、学習への意欲、役割への責任感と行動、他者への思いやりや尊重、その他、生徒指導・進路指導研究センターの「いじめ追跡調査」で用いている自己有用感を設定した。

<sup>13</sup> 生徒調査の属性について、学年と性別、学校と性別のクロス集計表を補遺に掲載した。

<sup>14</sup> 間隔尺度として「当てはまる」（4 点）、「まあ当てはまる」（3 点）、「あまり当てはまらない」（2 点）、「当てはまらない」（1 点）にそれぞれ 4 点から 1 点の値の割当てを行った。逆転項目については、得点の付与は逆転させて値の再割当てを行った。

それ以外の 16 項目は、生徒指導・進路指導研究センターで実施している「いじめ追跡調査」で用いているいじめ被害経験といじめ加害経験について設定した。これらの 16 項目に対しては、5 件法での回答とした<sup>15</sup>。

表2 生徒調査で仮定した領域と質問項目数

仮定した領域（属性項目除く）	項目数
学校への愛着や所属意識	4 項目
教師の支持的態度と支援	7 項目
規律に関する指導の充実	4 項目
クラスの雰囲気	6 項目
クラスにおける人間関係上の立場	5 項目
クラスのストレス	5 項目
学習への意欲	4 項目
役割への責任感と行動	4 項目
他者への思いやりや尊重	8 項目
自己有用感	3 項目
いじめ被害経験	8 項目
いじめ加害経験	8 項目
合計	66 項目

## （2）教員調査

教員調査の質問は 89 項目（属性に関する項目を除く）から成る（表 3）<sup>16</sup>。その内の 35 項目は、図 5 の仮説モデルをもとに、全ての教員を対象として作成している。教員のアウトカムとして、生徒への指導や支援の充実の観点から、教師の支持的態度、生徒指導の充実、学習指導の充実を設定した。

また、生徒への指導や支援の充実に影響することが想定される教職員集団の支持的・意欲的な学校環境の観点から、仕事への意欲、教職員同士による学びの充実、良好な人間関係、生徒の情報や学校の課題、方針の共有と行動を設定した。

それ以外の 54 項目は、選択型の設問で、学年や生徒指導部会、教育相談部会に所属している教員を対象としたものである（それらの校務分掌に所属している場合にのみ回答）。学

<sup>15</sup> 回答の選択肢は、「いじめ被害経験（加害経験）」について「ぜんぜんされなかった（しなかった）」、「今までに 1～2 回くらい」、「1 か月に 2～3 回くらい」、「1 週間に 1 回くらい」、「1 週間に何度も」である。

<sup>16</sup> 教員調査の属性については、巻末資料の『『中学校教員用質問調査票』単純集計表』の Q01 から Q07 を参照。

年や生徒指導部会、教育相談部会に所属の教員を対象とした項目は、各分掌内「チーム形成」を想定し、それぞれ三つの校務分掌内での協働や情報共有、具体的な支援行動の観点から、作成した。上記の 89 項目に対し、4 件法での回答とした<sup>17</sup>。

表3 教員調査で仮定した領域と質問項目数

仮定した領域（属性項目除く）	項目数
<b>【全教員対象】</b>	
教師の支持的態度	4 項目
生徒指導の充実	7 項目
学習指導の充実	3 項目
仕事への意欲	3 項目
教職員同士による学びの充実	8 項目
良好な人間関係	4 項目
生徒の情報や学校の課題、方針の共有と行動	6 項目
<b>【学年、生徒指導部会及び教育相談部会所属の教員対象】</b>	
学年団のチーム形成	18 項目
生徒指導部会のチーム形成	18 項目
教育相談部会のチーム形成	18 項目
合計	89 項目

### （3）管理職調査

管理職調査の質問は 75 項目（属性に関する項目を除く）から成る（表 4）<sup>18</sup>。人間関係や情報共有、教職員による生徒への注意や指導の状況に関する管理職の評価の観点から、学校環境に関するものとして 25 項目を作成した。

また、前章の仮説で示した管理職による支援の観点から、生徒に関する情報共有への支援や生徒指導への支援、学習指導への支援、人間関係への支援について 18 項目を作成した。

それ以外の 32 項目は、各学年と学校全体に対して、生徒指導上の諸課題の程度について評価するものである。上記の 75 項目に対し、4 件法で回答を求めた<sup>19</sup>。

<sup>17</sup> 間隔尺度として「当てはまる」（4点）、「まあ当てはまる」（3点）、「あまり当てはまらない」（2点）、「当てはまらない」（1点）にそれぞれ4点から1点の値の割当てを行った。

<sup>18</sup> 管理職調査の属性については、巻末資料の「『中学校管理職用質問調査票』単純集計表」の Q01 から Q05 を参照。

<sup>19</sup> 間隔尺度として「当てはまる」（4点）、「まあ当てはまる」（3点）、「あまり当てはまら

表4 管理職調査で仮定した領域と質問項目数

仮定した領域（属性項目除く）	項目数
学校環境	25 項目
管理職による支援	18 項目
生徒指導上の諸課題	32 項目
合計	75 項目

ない」(2点), 「当てはまらない」(1点) にそれぞれ4点から1点の値の割当てを行った。





## 第 3 章 分析結果



## 第3章 分析結果

### 1. 生徒調査における尺度の因子構造と仮説モデルの検証

#### (1) 生徒調査の尺度の因子構造

##### ①「学校とのつながり」の尺度構成

生徒調査の仮説モデル(図4)では、いじめの未然防止をはじめ、向社会性の育成にも関連するであろうアウトカムとする要因として、学校への愛着や所属意識を設定した。これは「学校とのつながり」(school connectedness)として把握される概念と捉えられる。前述の先行研究のレビューで述べた Cal-SCHLS の「カリフォルニア州児童生徒健康調査」では、「私は、この学校の人々に親しみを感じている。」や「私は、この学校にすることが幸せだ。」「私は、この学校の一員であると感じている。」「この学校の先生は、生徒を公平に扱ってくれる。」「私は、学校が安全だと感じる。」といった項目で構成されている<sup>20</sup>。これらの項目を参考にし、学校への愛着や所属意識を想定した質問項目として、表5にある4項目を設定した。

表6は、この4項目について、因子分析(最尤法、バリマックス回転)を行った結果である<sup>21</sup>。固有値1以上を基準として1因子が抽出されたため、学校への愛着や所属意識を想定した4項目の因子を「学校とのつながり」と命名した。これらの4項目の回答傾向が似ているかを示す信頼性係数は $\alpha=.83$ であり、経験的な基準である.80を超えていることから、十分な信頼性があると判断した<sup>22</sup>。

なお、表6以降の因子分析の結果を示す表にある、「M」は平均値を、「SD」は選ばれた選択肢の散らばり具合を示す標準偏差を、「因子」は「学校とのつながり」因子が各項目に対して与える影響の大きさである因子負荷量を、「共通性」は各項目の選択肢の散らばり具合に対して因子によって説明される割合である共通性を示す。

例えば、表6について、今回調査に協力した生徒は「私は、この学校が好きである。」に対して肯定的に回答(M=3.28)しており、かつ「私は、学校を休みたいと思うことがよくある。」にもあまり当てはまるわけではない(逆転項目、M=3.00)と答えているが、「この学校が好きである」に比べれば、「休みたいと思うことがよくある」の方が選ばれた選択肢が散らばっている(SDはそれぞれ、0.79, 1.07)。すなわち、両質問とも平均値は似た値であるけれども、「休みたいと思うことがよくある」の方が「あまり当てはまら

---

<sup>20</sup> 前掲 URL <https://calschls.org/> (Cal-SCHLS の Web サイト)

Core Survey を参照。

<sup>21</sup> 中間報告書において実施した因子分析では、最尤法、バリマックス回転、固有値1以上で行うとともに、因子負荷量は.40に満たない項目は除き分析を行うこととした。

<sup>22</sup> 中間報告書において、信頼性については、クロンバックの $\alpha$ 係数を確認し、 $\alpha=.80$ 以上を採用することとした。

ない」以外の選択肢も多く選ばれている。これに加えて、「因子」の値を見ると、「学校とのつながり」因子からより影響を受けているのは「この学校が好きである」の方だと解釈できる。

以下に示す因子分析の各表も、以上の読み方を準用して解釈する。

表5 学校への愛着や所属意識を想定した質問項目  
(以下、「生徒用調査票」から抜粋)

学校への愛着や所属意識
Q01(ア)私は、この学校が好きである。
Q01(イ)私は、この学校にいと安心して過ごすことができる。
Q05(サ)私は、学校にいとつかれる。(逆転項目)
Q05(シ)私は、学校を休みたいと思うことがよくある。(逆転項目)

表6 「学校とのつながり」の因子分析結果 (N=17,014)

質問項目	M	SD	因子	共通性
第1因子：「学校とのつながり」因子 ( $\alpha = .83$ )				
Q01(イ)私は、この学校にいと安心して過ごすことができる。	3.16	0.81	<b>0.86</b>	0.73
Q01(ア)私は、この学校が好きである。	3.28	0.79	<b>0.85</b>	0.72
Q05(サ)私は、学校にいとつかれる。(逆)	2.89	1.05	<b>0.64</b>	0.42
Q05(シ)私は、学校を休みたいと思うことがよくある。(逆)	3.00	1.07	<b>0.62</b>	0.38
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			2.25	2.25
因子の寄与率 (%)			56.28	56.28

注) (逆) は逆転項目を示す。

## ②「支持的学校環境」の尺度構成

生徒調査の仮説モデル(図4)で示したように、生徒調査では、教員の意識や努力によって生徒に対して変化を及ぼすことができると想定されるインプットとなる要因として教師の支持的な態度や支援、規律に関する指導を設定した。そして、それらがクラスの雰囲気や生徒のクラス内での人間関係、クラスのストレスと関連するとみなした。これらは、学校の教育活動上の基盤となる学校環境に関する生徒の評価を表すものである。

表7は、教師の支持的態度や生徒指導の充実、クラスの雰囲気といった学校の教育環境を想定した質問項目である。「カリフォルニア州児童生徒健康調査」における補助モジュール

である「学校風土」を先行研究として参考にした<sup>23</sup>。この「学校風土」尺度は、「学習環境」や「教員の公正さ」、「校則の明確さ」等で構成されている。

「学習環境」は「この学校の大人たちは、私が進学や就職で成功するために努力するように励ましてくれる。」や「先生は、私が必要としているときに、一生懸命に勉強の手助けをしてくれる。」、「先生は、教室での授業が実際の生活にどのように役立つかを教えてくれる。」、「先生は、教室での議論や活動に生徒が参加する機会を与えてくれる。」、「この学校は、生徒が学ぶのに協力的で魅力的な場所である。」、「先生は、生徒のために全力を尽くしてくれる。」、「先生は、生徒が欠席したときに、追いつけるようにサポートしてくれる。」、「先生は、勉強に対して有益なフィードバックをくれる。」で構成されている。

また、「教師の公正さ」は、「この学校の大人は、すべての生徒に敬意を持って接している。」や「生徒は、教師に敬意を持って接している。」、「校則は、公平である。」、「学校の規則を破ったとき、すべての生徒は、公平に扱われている。」で構成されている。

「校則の明確さ」は、「この学校は、もし校則を破ったらどうなるかを生徒に明確に伝えている。」と「校則は、生徒に明確に伝えられている。」、「この学校は、生徒がどのように行動することが期待されているかを明確にしている。」から成る。

「カリフォルニア州児童生徒健康調査」の「学校風土」補助モジュールを参考にし、表7のとおり、教師の支持的態度や生徒指導の充実、クラスの雰囲気といった学校の教育環境を想定した27項目を設定した。とりわけ、「教師の支持的態度と支援」と「規律に関する指導の充実」は、教員の意識と努力で変化可能なインプットとなる要因（いわゆる「保護因子」）として設定し、これらの教員の指導や支援の影響を受けつつ、広く学校環境を表す概念としてクラスの雰囲気やクラスにおける人間関係、クラスのストレスといった環境に関する項目を設定した。

表8は、教師の支持的態度や生徒指導の充実、クラスの雰囲気といった27項目について、因子分析（最尤法、バリマックス回転）を行った結果である。因子負荷量は.40に満たない項目を除くこととし、固有値1以上を基準として6因子が抽出された。この6因子について、信頼性係数を確認したところ第5因子のみ $\alpha = .72$ と.80未満であった。そのため、第5因子のクラスの人間関係上の立場を想定していた五つの質問項目を削除し<sup>24</sup>、22項目で再度因子分析を行った結果が表9である。

---

<sup>23</sup> 前掲 URL <https://calschls.org/> (Cal-SCHLS の Web サイト)

School Climate Module を参照。

<sup>24</sup> 「Q05(ア)私は、クラスの中で、人気がある。」と「Q05(イ)私が仲良くしているグループは、クラスの中で、人気がある。」、「Q05(ウ)私は、クラスの中のどの人に対しても、自分の意見をはっきりと主張できる。」、「Q05(エ)私は、クラスの中で、自己主張することは難しいと感じる。」(逆転項目)、「Q05(オ)私は、クラスの中で、自分が言いたいことを相手に言い返せずに、我慢することがよくある。」(逆転項目)の5項目を除外した。

表9では、第1因子は、「この学校の先生は、私の話をよく聞いてくれる。」や「この学校の先生は、私のことを気にかけてくれる。」、「この学校の先生は、私が何か言いたいことがあるときに、相談にのってくれる。」等の負荷が高く、教師に対する親和的な認識を表していることから「教師による支援」(7項目)と命名した。

表7 教師の支持的態度や生徒指導の充実、クラスの雰囲気といった  
学校の教育環境を想定した質問項目  
(以下、「生徒用調査票」から抜粋)

教師の支持的態度と支援
Q03(ウ)この学校の先生は、私のことを気にかけてくれる。
Q03(エ)この学校の先生は、私の話をよく聞いてくれる。
Q03(オ)この学校の先生は、私が何か言いたいことがあるときに、相談にのってくれる。
Q03(カ)この学校の先生は、公平に接してくれる。
Q03(キ)この学校の先生の授業は、わかりやすく、おもしろい。
Q03(ク)この学校の先生の授業は、学習への興味や意欲を引き起こしてくれる。
Q03(ケ)この学校の先生は、授業でつまずいたときに、わかるように、手助けしてくれる。
規律に関する指導の充実
Q03(コ)この学校の先生は、校則や学校・クラスのきまりを守らない人に対して、きちんと注意、指導してくれる。
Q03(サ)この学校の先生は、冷やかしやからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意、指導してくれる。
Q03(シ)この学校の先生は、暴力があったときに、きちんと注意、指導してくれる。
Q03(ス)この学校の先生は、いじめがあったときに、きちんと注意、指導してくれる。
クラスの雰囲気
Q04(ア)私のクラスは、居心地がよい。
Q04(イ)私のクラスは、ルールや規則が守られている。
Q04(ウ)私のクラスは、お互いのことを大切にしている。
Q04(エ)私のクラスは、お互いに、協力でき、まとまりがある。
Q04(オ)私のクラスは、お互いに、よく勉強を教え合ったりしている。
Q04(カ)私のクラスは、勉強に集中できる環境である。
クラスにおける人間関係上の立場
Q05(ア)私は、クラスの中で、人気がある。
Q05(イ)私が仲良くしているグループは、クラスの中で、人気がある。
Q05(ウ)私は、クラスの中のどの人に対しても、自分の意見をはっきりと主張できる。
Q05(エ)私は、クラスの中で、自己主張することは難しいと感じる。(逆転項目)
Q05(オ)私は、クラスの中で、自分が言いたいことを相手に言い返せずに、我慢することがよくある。(逆転項目)
クラスのストレス (以下の5項目は全て逆転項目)
Q05(カ)私は、クラスの中で、いらいらすることがよくある。
Q05(キ)私は、クラスの中で、いやな気持ちになることがよくある。
Q05(ク)私は、クラスの中で、頭にくる(カッとなる)ことがよくある。
Q05(ケ)私は、クラスの中で、他の人に攻撃的な気持ちになることがよくある。
Q05(コ)私は、クラスの中にいるとストレスがたまる。

表8 生徒指導を通して育まれる社会的な資質や態度、行動を想定した  
質問項目の因子分析結果 (N= 15,930)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子	共通性
第1因子 ( $\alpha = .90$ )									
Q04(ウ)私のクラスは、お互いのことを大切にしている。	3.18	0.81	<b>0.78</b>	0.24	0.16	0.18	0.16	0.07	0.75
Q04(エ)私のクラスは、お互いに、協力でき、まとまりがある。	3.17	0.84	<b>0.77</b>	0.20	0.14	0.15	0.14	0.08	0.70
Q04(イ)私のクラスは、ルールや規則が守られている。	3.01	0.82	<b>0.71</b>	0.18	0.15	0.16	0.08	0.07	0.59
Q04(ア)私のクラスは、居心地がよい。	3.20	0.87	<b>0.66</b>	0.31	0.15	0.15	0.26	0.09	0.65
Q04(カ)私のクラスは、勉強に集中できる環境である。	2.76	0.91	<b>0.63</b>	0.21	0.12	0.10	0.11	0.14	0.50
Q04(オ)私のクラスは、お互いに、よく勉強を教え合ったりしている。	3.22	0.82	<b>0.59</b>	0.12	0.16	0.16	0.17	0.13	0.46
第2因子 ( $\alpha = .92$ )									
Q05(ク)私は、クラスの中で、頭にくる(カッとなる)ことがよくある。(逆)	2.90	1.00	0.18	<b>0.87</b>	0.08	0.07	0.07	0.04	0.80
Q05(カ)私は、クラスの中で、いらいらすることがよくある。(逆)	2.68	1.02	0.21	<b>0.82</b>	0.07	0.05	0.12	0.07	0.75
Q05(キ)私は、クラスの中で、いやな気持ちになることがよくある。(逆)	2.86	0.99	0.24	<b>0.80</b>	0.05	0.08	0.20	0.03	0.75
Q05(ケ)私は、クラスの中で、他の人に攻撃的な気持ちになることがよくある。(逆)	3.13	0.92	0.16	<b>0.73</b>	0.09	0.10	0.04	0.04	0.58
Q05(コ)私は、クラスの中にいるとストレスがたまる。(逆)	3.13	0.96	0.32	<b>0.70</b>	0.08	0.12	0.18	0.07	0.66
第3因子 ( $\alpha = .91$ )									
Q03(エ)この学校の先生は、私の話をよく聞いてくれる。	3.17	0.81	0.19	0.08	<b>0.85</b>	0.31	0.08	0.13	0.88
Q03(ウ)この学校の先生は、私のことを気にかけてくれる。	3.15	0.79	0.19	0.09	<b>0.78</b>	0.31	0.09	0.16	0.77
Q03(オ)この学校の先生は、私が何か言いたいことがあるときに、相談にのってくれる。	3.15	0.83	0.18	0.07	<b>0.76</b>	0.33	0.07	0.15	0.76
Q03(カ)この学校の先生は、公平に接してくれる。	2.94	0.95	0.21	0.13	<b>0.56</b>	0.34	(0.00)	0.31	0.58
Q03(ケ)この学校の先生は、授業でつまづいたときに、わかるように、手助けしてくれる。	3.10	0.81	0.21	0.09	<b>0.45</b>	0.38	0.07	0.45	0.60
第4因子 ( $\alpha = .91$ )									
Q03(ス)この学校の先生は、いじめがあったときに、きちんと注意、指導してくれる。	3.44	0.78	0.18	0.10	0.27	<b>0.84</b>	0.05	0.10	0.83
Q03(シ)この学校の先生は、暴力があったときに、きちんと注意、指導してくれる。	3.48	0.74	0.17	0.08	0.28	<b>0.83</b>	0.03	0.10	0.82
Q03(サ)この学校の先生は、冷やかしやからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意、指導してくれる。	3.29	0.82	0.20	0.12	0.31	<b>0.72</b>	0.05	0.16	0.69
Q03(ソ)この学校の先生は、校則や学校・クラスのきまりを守らない人に対して、きちんと注意、指導してくれる。	3.41	0.77	0.21	0.11	0.29	<b>0.62</b>	0.04	0.18	0.55
第5因子 ( $\alpha = .72$ )									
Q05(ウ)私は、クラスの中のどの人に対しても、自分の意見をはっきりと主張できる。	2.78	0.96	0.17	0.04	0.09	0.07	<b>0.66</b>	0.06	0.47
Q05(ア)私は、クラスの中で、人気がある。	2.17	0.84	0.24	0.05	0.08	0.02	<b>0.64</b>	0.07	0.48
Q05(イ)私が仲良くしているグループは、クラスの中で、人気がある。	2.58	0.93	0.27	0.06	0.06	0.07	<b>0.61</b>	0.06	0.46
Q05(エ)私は、クラスの中で、自己主張することは難しいと感じる。(逆)	2.52	1.02	(0.02)	0.18	(0.02)	(0.02)	<b>0.50</b>	(0.03)	0.28
Q05(オ)私は、クラスの中で、自分が言いたいことを相手に言い返せずに、我慢することがよくある。(逆)	2.58	1.01	0.00	0.36	(0.02)	0.00	<b>0.41</b>	(0.03)	0.30
第6因子 ( $\alpha = .86$ )									
Q03(ク)この学校の先生の授業は、学習への興味や意欲を引き起こしてくれる。	2.89	0.84	0.25	0.08	0.40	0.27	0.08	<b>0.69</b>	0.78
Q03(キ)この学校の先生の授業は、わかりやすく、おもしろい。	3.06	0.82	0.23	0.08	0.39	0.31	0.07	<b>0.65</b>	0.73
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			3.75	3.65	3.22	3.21	1.92	1.42	17.16
因子の寄与率 (%)			13.90	13.50	11.94	11.88	7.10	5.25	63.56

注) (逆) は逆転項目を示す。括弧内は数値はマイナスの意味。

第2因子は、「私のクラスは、お互いのことを大切にしている。」「私のクラスは、お互いに、協力でき、まとまりがある。」等の負荷が高く、クラスの雰囲気に対する認識を表しているため「クラスの雰囲気」(6項目)と命名した。

第3因子は、「私は、クラスの中で、頭にくる(カッとなる)ことがよくある。」や「私は、クラスの中で、いらいらすることがよくある。」「私は、クラスの中で、いやな気持ちになることがよくある。」等の負荷が高く、クラス内での苛立ちや怒り、不快な感情認識を表しているため「クラスのストレス」(5項目)と命名した。

第4因子は、「この学校の先生は、いじめがあったときに、きちんと注意、指導してくれる。」「この学校の先生は、暴力があったときに、きちんと注意、指導してくれる。」等の負荷が高く学校内の校則やルール、問題行動等に対する教師の指導に対する生徒の認識を表しているため「規律に関する指導」(4項目)と命名した。

これら4因子のそれぞれの信頼性係数は、「教師による支援」では $\alpha = .92$ 、「クラスの雰囲気

気」では $\alpha=.90$ 、「クラスのストレス」では $\alpha=.92$ 、「規律に関する指導」では $\alpha=.91$ であり、十分な信頼性があると判断した。また、これら4因子から構成される教師の支持的態度や生徒指導の充実、クラスの雰囲気について「支持的学校環境」と命名した。

表9 「支持的学校環境」の因子分析結果 (N=16,552)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	共通性
第1因子：「教師による支援」因子 ( $\alpha=.92$ )							
Q03(エ)この学校の先生は、私の話をよく聞いてくれる。	3.17	0.81	<b>0.87</b>	0.17	0.09	0.19	0.83
Q03(ウ)この学校の先生は、私のことを気にかけてくれる。	3.15	0.79	<b>0.83</b>	0.18	0.10	0.20	0.77
Q03(オ)この学校の先生は、私が何か言いたいことがあるときに、相談にのってくれる。	3.15	0.83	<b>0.82</b>	0.16	0.08	0.23	0.75
Q03(カ)この学校の先生は、公平に接してくれる。	2.93	0.95	<b>0.67</b>	0.19	0.14	0.27	0.57
Q03(ケ)この学校の先生は、授業でつまずいたときに、わかるように、手助けしてくれる。	3.10	0.81	<b>0.60</b>	0.23	0.10	0.32	0.53
Q03(ク)この学校の先生の授業は、学習への興味や意欲を引き起こしてくれる。	2.88	0.84	<b>0.59</b>	0.28	0.09	0.23	0.49
Q03(キ)この学校の先生の授業は、わかりやすく、おもしろい。	3.06	0.82	<b>0.59</b>	0.26	0.10	0.26	0.49
第2因子：「クラスの雰囲気」因子 ( $\alpha=.90$ )							
Q04(ウ)私のクラスは、お互いのことを大切にしている。	3.19	0.81	0.21	<b>0.78</b>	0.26	0.16	0.74
Q04(エ)私のクラスは、お互いに、協力でき、まとまりがある。	3.18	0.84	0.19	<b>0.78</b>	0.21	0.12	0.70
Q04(イ)私のクラスは、ルールや規則が守られている。	3.01	0.82	0.20	<b>0.70</b>	0.19	0.14	0.58
Q04(ア)私のクラスは、居心地がよい。	3.20	0.87	0.20	<b>0.68</b>	0.33	0.13	0.63
Q04(カ)私のクラスは、勉強に集中できる環境である。	2.76	0.91	0.18	<b>0.64</b>	0.21	0.09	0.49
Q04(ク)私のクラスは、お互いに、よく勉強を教え合ったりしている。	3.22	0.82	0.22	<b>0.61</b>	0.13	0.14	0.46
第3因子：「クラスのストレス」因子 ( $\alpha=.92$ )							
Q05(カ)私は、クラスの中で、頭にくる(カッとなる)ことがよくある。(逆)	2.90	1.00	0.09	0.17	<b>0.88</b>	0.06	0.81
Q05(カ)私は、クラスの中で、いらいらすることがよくある。(逆)	2.69	1.02	0.09	0.22	<b>0.83</b>	0.04	0.74
Q05(キ)私は、クラスの中で、いやな気持ちになることがよくある。(逆)	2.86	0.99	0.08	0.26	<b>0.81</b>	0.07	0.73
Q05(ケ)私は、クラスの中で、他の人に攻撃的な気持ちになることがよくある。(逆)	3.14	0.92	0.11	0.14	<b>0.73</b>	0.09	0.57
Q05(コ)私は、クラスの中にいるとストレスがたまる。(逆)	3.13	0.95	0.12	0.34	<b>0.71</b>	0.11	0.65
第4因子：「規律に関する指導」因子 ( $\alpha=.91$ )							
Q03(ス)この学校の先生は、いじめがあったときに、きちんと注意、指導してくれる。	3.44	0.78	0.40	0.18	0.11	<b>0.79</b>	0.83
Q03(シ)この学校の先生は、暴力があったときに、きちんと注意、指導してくれる。	3.48	0.74	0.41	0.15	0.09	<b>0.79</b>	0.82
Q03(サ)この学校の先生は、冷やかしかからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意、指導してくれる。	3.29	0.82	0.44	0.20	0.13	<b>0.67</b>	0.69
Q03(ソ)この学校の先生は、校則や学校・クラスのまわりを守らない人に対して、きちんと注意、指導してくれる。	3.41	0.77	0.41	0.21	0.11	<b>0.57</b>	0.55
因子負荷量の2乗和(因子寄与)			4.60	3.68	3.58	2.58	14.43
因子の寄与率(%)			20.89	16.73	16.28	11.71	65.60

注) (逆)は逆転項目を示す。

### ③「社会的資質・行動」の尺度構成

生徒調査の仮説モデル(図4)では、教師の支持的態度や生徒指導の充実、クラスの雰囲気といった学校の教育環境の充実があって、生徒指導が目指す社会性の育成として捉えられる社会的な資質や態度、行動が育まると想定している。「カリフォルニア州児童生徒健康調査」の「学校風土」補助モジュールでは、良好な学校風土のもとで生徒に育まれる資質・行動や環境の状態として、「学習意欲の高い環境」や「多様性の尊重」、「生徒同士の関係性」、「いじめ防止の風土」等が設定されている<sup>25</sup>。

「学習意欲の高い環境」では、「この学校の生徒は、学ぶことに意欲的である。」、「生徒は、

<sup>25</sup> 前掲 URL <https://calschls.org/> (Cal-SCHLS の Web サイト)

School Climate Module を参照。



授業に集中している。],「生徒は,学校でベストを尽くしている。],「生徒は,ふだんから,学校のルールを守っている。],「生徒は,宿題を期限内に提出している。」で構成されている。

「多様性の尊重」では,「生徒は,お互いの違いを尊重している。」と「この学校の大人は,生徒の違いを尊重している。],「先生は,人種や文化の異なる生徒が仲良くすることは重要だと示している。」で構成されている。

「生徒同士の関係性」では,「生徒は,学校での活動中,一緒に何かをするのを楽しんでいる。],「生徒は,お互いのことを気づかっている。],「生徒は,お互いに敬意を持って接している。」及び「生徒は,お互いに仲良くしている。」から成る。

「いじめ防止の風土」では,「他の生徒が私をいじめたら,私は,この学校の先生や職員の誰かに言う。」や「生徒は,他の生徒がいじめられているとき,先生に伝える。],「誰かが私をいじめていると先生に言えば,先生は何かしてくれる。],「生徒は,いじめを見たら止めようとする。」が設定されている。

上記の項目を参考としつつ,「学校指導体制調査研究」では生徒指導を通して育まれる社会的な資質や態度,行動を想定した質問項目として表 10 にある 19 項目を設定した。この社会的な資質や態度,行動を想定した 19 項目は,自己有用感や学習への意欲,役割への責任感と行動,他者への思いやりや尊重といった我が国の学校教育において重視されている諸概念を仮定した。

表 11 は,この 19 項目について,因子分析(最尤法,バリマックス回転)を行い,因子負荷量が.40 に満たない 3 項目を除き<sup>26</sup>, 16 項目で再度,因子分析を行った結果である。固有値 1 以上を基準として 4 因子が抽出されたため,信頼性係数を確認したところ第 3 因子のみ  $\alpha = .74$  と .80 未満であった。そのため,第 3 因子の学習への意欲を想定していた 3 項目を更に削除し<sup>27</sup>, 13 項目で再度因子分析を行った結果が表 12 である。

表 12 では,第 1 因子は,「私は,クラスの人と一緒にいるとき,相手の気持ちを考えて行動している。」や「私は,クラスの人との違いを認め,その人のよさを大切にしている。],「私は,クラスの人のことを,気にかけている。」等の負荷が高く,クラスの同級生に対する思いやりや配慮といった尊重への認識を表していることから「他者尊重」(8 項目)と命名した。

---

<sup>26</sup> 「Q01(オ)私は,将来の目標がある。],「Q03(ア)私は,この学校の校則や学校・クラスのきまりについて,よく理解している。」及び「Q03(イ)私は,挨拶や時間を守ること,役割を守ること等,礼儀やマナー,責任感の大切さについて,理解して,行動している。」の 3 項目を除外した。

<sup>27</sup> 「Q01(ウ)私は,学校の授業がよくわかる。],「Q01(エ)私は,学校の授業に熱心に取り組んでいる。」及び「Q01(カ)私は,学校の勉強をすることに,目的意識を持っている。」の 3 項目を除外した。

表 10 生徒指導を通して育まれる社会的な資質や態度，行動を想定した質問項目  
(以下，「生徒用調査票」から抜粋)

学習への意欲
Q01(ウ)私は，学校の授業がよくわかる。
Q01(エ)私は，学校の授業に熱心に取り組んでいる。
Q01(オ)私は，将来の目標がある。
Q01(カ)私は，学校の勉強をすることに，目的意識を持っている。
役割への責任感と行動
Q01(キ)私は，クラスの中で与えられた役割（例，係活動など）は，他人まかせにせず，責任感を持って行っている。
Q01(ク)私は，学校の中で与えられた役割（例，生徒会や委員会活動など）は，他人まかせにせず，責任感を持って行っている。
Q03(ア)私は，この学校の校則や学校・クラスのきまりについて，よく理解している。
Q03(イ)私は，挨拶や時間を守ること，役割を守ること等，礼儀やマナー，責任感の大切さについて，理解して，行動している。
他者への思いやりや尊重
Q01(ケ)私は，クラスの人の違いを認め，その人のよさを大切にしている。
Q01(コ)私は，クラスの人のことを，気にかけている。
Q01(サ)私は，クラスの人とお互いに，仲良くしている。
Q01(シ)私は，クラスの人と一緒にいるとき，相手の気持ちを考えて行動している。
Q01(ス)私は，自分がされていやなことは，クラスの人にしないようにしている。
Q01(セ)私は，クラスの人が困っているとき，相手を助けている。
Q01(ソ)私は，いじめられている生徒がいたら，先生や学校の大人に伝える。
Q01(タ)私は，いじめが起きていることを見たら，いじめを止めようとする。
自己有用感
Q02(ア)自分（自分たち）のしたことで，他の人に喜んでもらった。
Q02(イ)自分（自分たち）のしたことで，他の人から感謝された。
Q02(ウ)自分（自分たち）のしたことで，他の人の役に立った。

第2因子は，「自分（自分たち）のしたことで，他の人から感謝された。」や「自分（自分たち）のしたことで，他の人に喜んでもらった。」，「自分（自分たち）のしたことで，他の人の役に立った。」であり，学校での活動を通して獲得した人の役に立っている，認められているといった社会性の基礎となる意識を表すものであり，生徒指導・進路指導研究センターにおいて「自己有用感」（3項目）としてこれまでに用いてきた項目である。

第3因子は，「私は，学校の中で与えられた役割（例，生徒会や委員会活動など）は，他人まかせにせず，責任感を持って行っている。」，「私は，クラスの中で与えられた役割（例，係活動など）は，他人まかせにせず，責任感を持って行っている。」であり，生徒の学級や学校における役割活動等への責任感を表すものであり「役割責任行動」（2項目）と命名した。

これら3因子のそれぞれの信頼性係数は，「他者尊重」では $\alpha = .87$ ，「自己有用感」では $\alpha$

=.94, 「役割責任行動」では $\alpha=.87$ であり, 十分な信頼性があると判断した。また, これら3因子から構成される生徒指導を通して育まれる社会的な資質や態度, 行動について「社会的資質・行動」と命名した。

表 11 生徒指導を通して育まれる社会的な資質や態度, 行動を想定した  
質問項目の因子分析結果 (N=16,604)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	共通性
第1因子 ( $\alpha=.87$ )							
Q01(シ)私は, クラスの人と一緒にいるとき, 相手の気持ちを考えて行動している。	3.39	0.67	<b>0.71</b>	0.08	0.20	0.17	0.58
Q01(コ)私は, クラスの人のことを, 気にかけている。	3.22	0.76	<b>0.70</b>	0.11	0.21	0.15	0.56
Q01(ケ)私は, クラスの人の違いを認め, その人のよさを大切にしている。	3.40	0.68	<b>0.69</b>	0.07	0.22	0.19	0.57
Q01(セ)私は, クラスの人が困っているとき, 相手を助けている。	3.24	0.73	<b>0.69</b>	0.12	0.17	0.19	0.56
Q01(ス)私は, 自分がされていやなことは, クラスの人にしないようにしている。	3.44	0.68	<b>0.64</b>	0.04	0.20	0.19	0.48
Q01(サ)私は, クラスの人とお互いに, 仲良くしている。	3.48	0.70	<b>0.60</b>	0.10	0.20	0.12	0.43
Q01(ソ)私は, いじめられている生徒がいたら, 先生や学校の大人に伝える。	3.05	0.90	<b>0.56</b>	0.05	0.14	0.12	0.35
Q01(タ)私は, いじめが起きていることを見たら, いじめを止めようとする。	2.96	0.87	<b>0.56</b>	0.06	0.12	0.10	0.34
第2因子 ( $\alpha=.94$ )							
Q02(イ)自分(自分たち)のしたことで, 他の人から感謝された。	3.13	0.85	0.11	<b>0.93</b>	0.07	0.05	0.88
Q02(ア)自分(自分たち)のしたことで, 他の人に喜んでもらった。	3.11	0.83	0.10	<b>0.90</b>	0.07	0.04	0.82
Q02(ウ)自分(自分たち)のしたことで, 他の人の役に立った。	3.08	0.84	0.12	<b>0.88</b>	0.10	0.08	0.80
第3因子 ( $\alpha=.74$ )							
Q01(エ)私は, 学校の授業に熱心に取り組んでいる。	3.17	0.74	0.32	0.08	<b>0.71</b>	0.20	0.65
Q01(ウ)私は, 学校の授業がよくわかる。	3.07	0.74	0.20	0.07	<b>0.62</b>	0.09	0.44
Q01(カ)私は, 学校の勉強をすることに, 目的意識を持っている。	2.93	0.83	0.29	0.09	<b>0.56</b>	0.17	0.43
第4因子 ( $\alpha=.87$ )							
Q01(キ)私は, クラスの中で与えられた役割(例, 係活動など)は, 他人まかせにせず, 責任感を持って行っている。	3.44	0.70	0.36	0.09	0.24	<b>0.77</b>	0.79
Q01(ク)私は, 学校の中で与えられた役割(例, 生徒会や委員会活動など)は, 他人まかせにせず, 責任感を持って行っている。	3.43	0.72	0.36	0.09	0.23	<b>0.74</b>	0.74
因子負荷量の2乗和(因子寄与)			3.87	2.53	1.60	1.43	9.43
因子の寄与率(%)			24.16	15.83	10.01	8.92	58.92

表 12 「社会的資質・行動」の因子分析結果 (N=16,713)

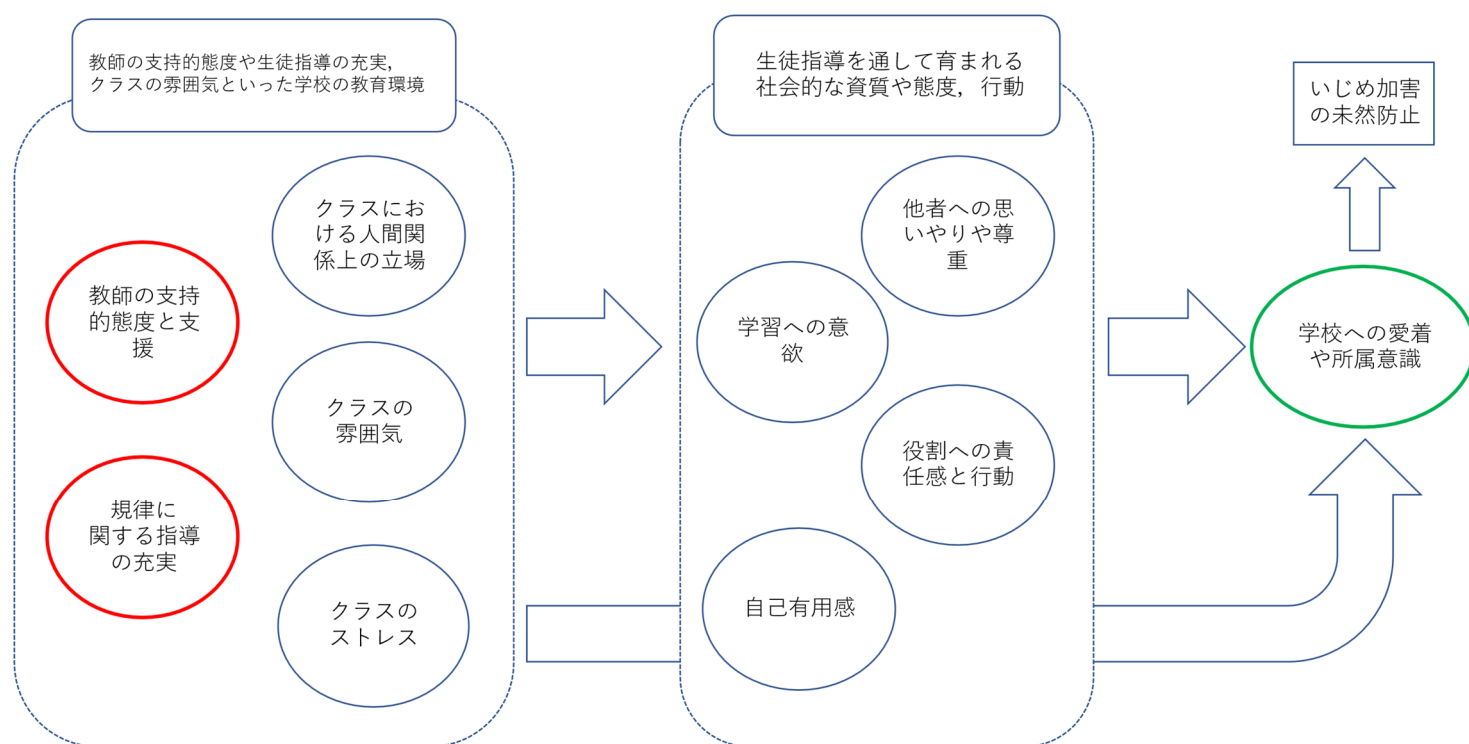
質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
第1因子: 「他者尊重」因子 ( $\alpha=.87$ )						
Q01(シ)私は, クラスの人と一緒にいるとき, 相手の気持ちを考えて行動している。	3.39	0.67	<b>0.74</b>	0.08	0.20	0.59
Q01(ケ)私は, クラスの人の違いを認め, その人のよさを大切にしている。	3.39	0.68	<b>0.72</b>	0.08	0.22	0.57
Q01(コ)私は, クラスの人のことを, 気にかけている。	3.22	0.76	<b>0.72</b>	0.12	0.18	0.56
Q01(セ)私は, クラスの人が困っているとき, 相手を助けている。	3.24	0.73	<b>0.70</b>	0.12	0.21	0.55
Q01(ス)私は, 自分がされていやなことは, クラスの人にしないようにしている。	3.44	0.68	<b>0.66</b>	0.04	0.22	0.48
Q01(サ)私は, クラスの人とお互いに, 仲良くしている。	3.48	0.70	<b>0.63</b>	0.11	0.15	0.43
Q01(ソ)私は, いじめられている生徒がいたら, 先生や学校の大人に伝える。	3.05	0.90	<b>0.57</b>	0.06	0.14	0.34
Q01(タ)私は, いじめが起きていることを見たら, いじめを止めようとする。	2.96	0.87	<b>0.56</b>	0.06	0.12	0.33
第2因子: 「自己有用感」因子 ( $\alpha=.94$ )						
Q02(イ)自分(自分たち)のしたことで, 他の人から感謝された。	3.13	0.85	0.11	<b>0.93</b>	0.06	0.88
Q02(ア)自分(自分たち)のしたことで, 他の人に喜んでもらった。	3.11	0.83	0.10	<b>0.90</b>	0.05	0.82
Q02(ウ)自分(自分たち)のしたことで, 他の人の役に立った。	3.08	0.84	0.13	<b>0.88</b>	0.09	0.80
第3因子: 「役割責任行動」因子 ( $\alpha=.87$ )						
Q01(ク)私は, 学校の中で与えられた役割(例, 生徒会や委員会活動など)は, 他人まかせにせず, 責任感を持って行っている。	3.43	0.72	0.36	0.09	<b>0.80</b>	0.77
Q01(キ)私は, クラスの中で与えられた役割(例, 係活動など)は, 他人まかせにせず, 責任感を持って行っている。	3.44	0.70	0.39	0.09	<b>0.77</b>	0.75
因子負荷量の2乗和(因子寄与)			3.85	2.54	1.51	7.89
因子の寄与率(%)			29.58	19.51	11.64	60.73

## (2) 「学校とのつながり」の仮説モデルの検定

生徒調査の仮説モデル(図4)に基づき、生徒調査において因子として抽出された「学校とのつながり」をアウトカムとしての潜在変数、教師の意識の注力や努力により変化可能な「教師による支援」と「規律に関する指導」をインプットとしての潜在変数と規定した。

また、「教師による支援」と「規律に関する指導」を含む、「クラスの雰囲気」や「クラスのストレス」の4因子で構成される概念を学校の教育活動の基盤となる「支持的環境」とした。

そして、「自己有用感」、「他者尊重」及び「役割責任行動」の3因子で構成される概念について、生徒指導を通して育まれる「社会的資質・行動」とした。



【再掲】 図4 生徒調査の仮説モデル

これら計8因子の因子構造の関係について、生徒調査の仮説モデル(図4)との適合度を共分散構造分析(多重指標モデル)にて検定した。図6は、「学校とのつながり」をアウトカムの潜在変数とし、「教師による支援」と「規律に関する指導」とを相関するインプットの潜在変数として因子間の関係を示したパス図である<sup>28</sup>。

<sup>28</sup> 図6は、各質問項目の観測変数と誤差変数を除き、潜在変数のみを抽出しパス図として示したものである。以下に示す構造方程式モデルの適合度から、おおむね適合していると判

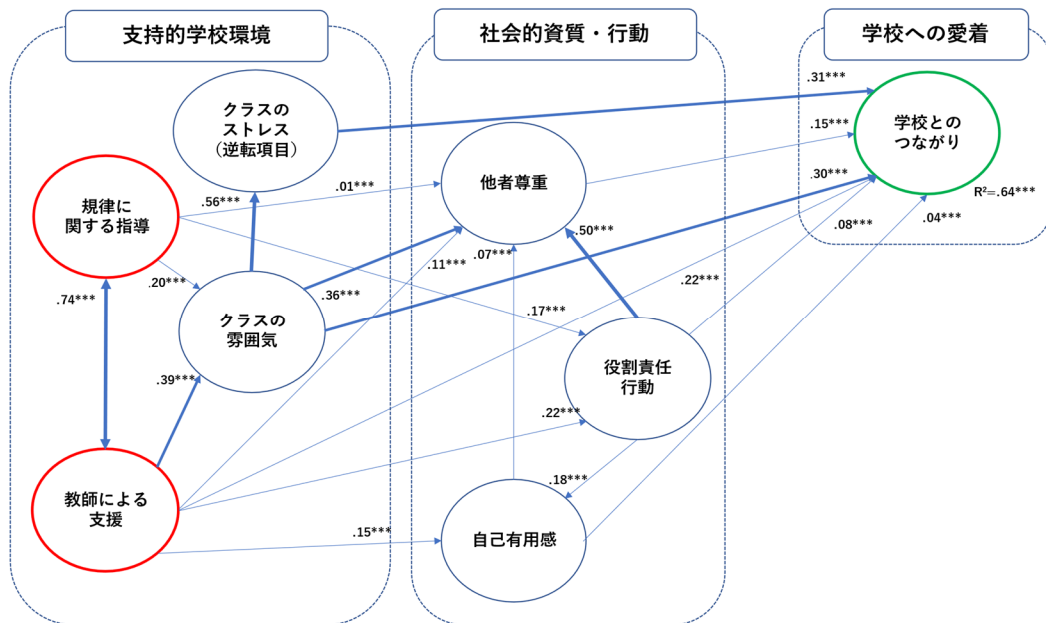


図6 生徒調査の仮説モデルをもとにしたパス図 (N=15,449)

図6について、以下に記述する要素間の関連は、全て  $p < .001$  で統計的に有意であることが確認された。「教師による支援」と「規律に関する指導」とは相互に.74の関連があった。

「教師による支援」は「クラスの雰囲気」に.39、「自己有用感」に.15、「役割責任行動」に.22、「他者尊重」に.11、「学校とのつながり」に.22の関連があった。

「規律に関する指導」は「クラスの雰囲気」に.20、「役割責任行動」に.17、「他者尊重」に.01の関連があった。

「クラスストレス」は「学校とのつながり」に.31の関連があった。この「クラスストレス」は逆転項目のため、ストレスが小さいほど「学校とのつながり」が強い傾向を意味する。

「自己有用感」は「学校とのつながり」に.04の関連があった。「役割責任行動」は「学校とのつながり」に.08の関連があった。「他者尊重」は「学校とのつながり」に.15の関連があった。

### (3) 「学校とのつながり」といじめの加害経験との関連

生徒調査の仮説モデル(図4)では、「学校とのつながり」について、支持的環境を基盤とした生徒指導を通じた社会的資質・行動の育成の一つの帰結として想定している。この生

断した。各適合度は、GFI=.86, AGFI=.84, CFI=.90, RMSEA=.06, RMR=.04であった。なお、観測変数と誤差変数を含めた構造方程式モデルは補遺に掲載した。

徒のアウトカムとしての「学校とのつながり」について、生徒指導に関する学校パフォーマンスを識別する上での妥当性と有用性の観点から、いじめの加害経験との関連について検証した。

生徒調査では、いじめの加害経験について、表 13 にあるとおりそれぞれ 8 項目を用意し、各項目に対して 5 件法で回答する設計にしている。回答の選択肢は、「いじめ加害経験」について「ぜんぜんしなかった」、「今までに 1～2 回くらい」、「1 か月に 2～3 回くらい」、「1 週間に 1 回くらい」、「1 週間に何度も」である。社会的資質・行動の育成の一つの帰結として、生徒が加害行動に向かわないことは重要である。そこで「いじめの加害経験」について「ぜんぜんしなかった」を 0、加害経験があるとみなせるそれ以外の選択肢を 1 と割り当て直し分析した。すなわち、いじめ加害経験ダミーとして、加害経験の有無でダミー変数化し、「学校とのつながり」を説明変数、いじめの加害経験ダミーを従属変数とするロジスティック回帰分析を行った。

表 13 いじめ加害経験に関する質問項目  
(以下、「生徒用調査票」から抜粋)

いじめ加害経験に関する項目
Q7(ア)仲間はずれにしたり、無視したり、影で悪口を言ったりした。
Q7(イ)からかったり、冷やかしたり、悪口やおどし文句、いやなことを言ったりした。
Q7(ウ)軽くぶつかったり、遊ぶふりをして、たたいたり、けったりした。
Q7(エ)ひどくぶつかったり、たたいたり、けったりした。
Q7(オ)お金や物をとりあげたり、物を買わせたりした。
Q7(カ)物を隠したり、盗んだり、壊したり、捨てたりした。
Q7(キ)いやなことや恥ずかしいこと、危険なことを、(友達に対して)したり、させたりした。
Q7(ク)パソコンやスマートフォン、携帯電話などで、いやなことをした。

表 14 から表 21 は、「学校とのつながり」と各種のいじめ加害経験の有無について、ロジスティック回帰分析の結果をそれぞれ示したものである。これらの結果から、「学校とのつながり」を説明変数、各種のいじめ加害経験の有無のダミー変数を従属変数としたモデルについては、全て  $p < .001$  で統計的に有意であったことが確認された。

また、表 14 から表 21 の偏回帰係数  $b$  は全てマイナスであり、いじめ加害経験を有することに対し、負の効果があることから、「学校とのつながり」が強いほど、いじめ加害経験がない傾向にあることが示された。したがって、生徒のアウトカムとして設定した「学校とのつながり」は、少なくともいじめの加害経験の観点において、生徒指導に関する学校パフォーマンスとしての妥当性と有用性を有することが確認された<sup>29</sup>。

<sup>29</sup> 生徒調査では、いじめ被害経験についても、いじめ加害経験と同じ類型で 8 項目を設定している。「学校とのつながり」を説明変数とし、いじめ被害経験の有無を従属変数とする分析も可能であるが結果の解釈が困難であることから、いじめ被害経験については巻末資料の基礎集計表において単純集計のみを掲載した。

表 14 「仲間はずれ・無視・陰口加害」についてのロジスティック回帰分析

	b	S.E.	exp(b)
学校とのつながり	-.44	.02***	.65
- 2対数尤度	18099.36		
Cox and Snell R <sup>2</sup>	.02		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	.03		
N	16,884		

注：\*\*\*p<.001

表 15 「からかい・冷やかし・悪口加害」についてのロジスティック回帰分析

	b	S.E.	exp(b)
学校とのつながり	-.34	.03***	.71
- 2対数尤度	16234.71		
Cox and Snell R <sup>2</sup>	.01		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	.02		
N	16,885		

注：\*\*\*p<.001

表 16 「軽くぶつかる・<sup>たた</sup>叩く・蹴る加害」についてのロジスティック回帰分析

	b	S.E.	exp(b)
学校とのつながり	-.31	.03***	.73
- 2対数尤度	11913.48		
Cox and Snell R <sup>2</sup>	.01		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	.01		
N	16,889		

注：\*\*\*p<.001

表 17 「ひどくぶつかる・<sup>たた</sup>叩く・蹴る加害」についてのロジスティック回帰分析

	b	S.E.	exp(b)
学校とのつながり	-.54	.05***	.58
- 2対数尤度	5281.42		
Cox and Snell R <sup>2</sup>	.01		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	.03		
N	16,898		

注：\*\*\*p<.001

表 18 「お金・物を取り上げた加害」についてのロジスティック回帰分析

	b	S.E.	exp(b)
学校とのつながり	-.61	.09***	.54
- 2対数尤度	1750.89		
Cox and Snell R <sup>2</sup>	.00		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	.02		
N	16,901		

注：\*\*\*p<.001

表 19 「窃盗・所有物の損壊等加害」についてのロジスティック回帰分析

	b	S.E.	exp(b)
学校とのつながり	-.47	.06***	.62
- 2対数尤度	4093.38		
Cox and Snell R <sup>2</sup>	.00		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	.02		
N	16,894		

注：\*\*\*p<.001



表 20 「嫌なこと・恥ずかしいこと・侮辱加害」についてのロジスティック回帰分析

	b	S.E.	exp(b)
学校とのつながり	-.51	.07***	.60
- 2対数尤度	3255.66		
Cox and Snell R <sup>2</sup>	.00		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	.02		
N	16,901		

注：\*\*\*p<.001

表 21 「ネット加害」についてのロジスティック回帰分析

	b	S.E.	exp(b)
学校とのつながり	-.71	.07***	.49
- 2対数尤度	3117.58		
Cox and Snell R <sup>2</sup>	.01		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	.04		
N	16,901		

注：\*\*\*p<.001

## 2. 教員調査における尺度の因子構造と仮説モデルの検証

### (1) 教員調査の尺度の因子構造

#### ① 「生徒への指導・支援の充実」の尺度構成

教員調査の仮説モデル（図5）では、教職員集団による支持的・意欲的な学校環境が形成されることを基盤として、教師の支持的態度や生徒指導の充実、授業の工夫・改善へとつながることを仮定している。すなわち、アウトプットとなる要因には、生徒指導や教育相談、学習指導の充実・改善が設定されている。

Cal-SCHLS の「カリフォルニア州教職員調査」では、教員の認識として「児童生徒の学習環境」や「職場環境」、「同僚性」、「教育上の公平性」、「多様性の尊重」、「生徒の学習活動への有意義な参加」、「教職員と児童生徒との思いやりのある関係性」、「児童生徒同士の関係性」、「保護者の関わりの促進」、「いじめ防止の風土」、「学習への準備状況」、「『社会性と感情の学習』への支援」、「公平さと校則の明確さ」、「規律」、「各種の問題行動」等の各因子で

構成されている<sup>30</sup>。これらは、教職員から見た全般的な「学校風土」、いわゆる、教職員集団の職場環境や教職員が認識している児童生徒への指導や支援の状況、児童生徒の状態の評価等で構成されているといえる。

表 22 生徒への指導や支援の充実を想定した質問項目  
(以下、「教員用調査票」から抜粋)

教師の支援的態度
Q09(1)生徒のことをよく気にかけている。
Q09(2)生徒の話をよく聞いている。
Q09(3)生徒の相談に、いつも誠実に向き合っている。
Q09(4)生徒に公平に接している。
生徒指導の充実
Q09(5)校則や学校・クラスのきまりを、共通理解している。
Q09(6)校則や学校・クラスのきまりを、生徒に、明確に伝えている。
Q09(7)生徒に対して、挨拶や時間を守ること、役割を守ること等、礼儀やマナー、責任の大切さについて、指導を徹底している。
Q09(8)校則や学校・クラスのきまりを守らない生徒に対して、きちんと注意や指導をしている。
Q09(9)冷やかしかからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意や指導をしている。
Q09(10)暴力があったときに、きちんと注意や指導をしている。
Q09(11)いじめがあったときに、きちんと注意や指導をしている。
学習指導の充実
Q09(12)わかりやすく、丁寧な授業を行っている。
Q09(13)学習への興味や意欲を引き起こすように工夫した授業を行っている。
Q09(14)授業についていくことが難しい生徒がいたときに、何かしらの支援や手立てを行っている。

「カリフォルニア州教職員調査」では、「児童生徒の学習環境」は、「この学校は、児童生徒が学ぶのに協力的で魅力的な場所である。」、「この学校は、全ての児童生徒の学業成績に高い基準を設けている。」、「この学校は、全ての児童生徒に学業的な成功を促進させている。」、「この学校は、児童生徒が必要としているときに学業面で支援することを重視している。」、「この学校は、児童生徒に適した方法で授業を行うことを重視している。」、「この学校

<sup>30</sup> 前掲 URL <https://calschls.org/> (Cal-SCHLS の Web サイト)

California School Staff Survey を参照。

は、児童生徒にとって安全な場所である。』、「この学校は、大人が安全で協力的な学習環境を確保するために努力している。』、「この学校は、児童生徒の学習意欲を高めている。』、「教師は、児童生徒のために全力を尽くしている。』で構成されている。

『社会性と感情の学習』への支援は、「この学校は、児童生徒が自分の行動に責任を感じることを勧めている。』や「児童生徒は、正しくしていると褒められることが多い。』、「この学校は、他の人がどのように考え、感じるかを理解することを児童生徒に勧めている。』、「児童生徒は、自分の行動は自分でコントロールできることを教えられている。』、「この学校は、児童生徒同士の対立を解決する手助けをしてくれる。』、「この学校は、他人の気持ちを気遣うことを児童生徒に勧めている。』で構成されている。

「教職員と児童生徒との思いやりのある関係性」は、「この学校の大人は、児童生徒一人一人を本当に大切にしている。』や「この学校の大人は、児童生徒を認め、注意を払っている。』、「この学校の大人は、すべての児童生徒がベストを尽くすことを望んでいる。』、「この学校の大人は、児童生徒の話に耳を傾けている。』、「この学校の大人は、全ての児童生徒が成功できると信じている。』、「この学校の大人は、全ての児童生徒を公平に扱っている。』で構成されている。

「公正さと校則の明確さ」は、「この学校は、校則を破った場合の結果を児童生徒に明確に伝えている。』や「この学校は、規律の問題を公平に扱っている。』、「この学校の大人は、全ての児童生徒に敬意を持って接している。』、「校則は、公平である。』、「校則は、児童生徒に明確に伝えられている。』、「この学校は、もし校則を破ったらどうなるかを児童生徒に明確に伝えている。』、「児童生徒は、校則が何であるか知っている。』、「この学校は、児童生徒がどのように行動することが期待されているかを明確にしている。』で構成されている。これらの各因子を構成する質問項目は、教職員集団の望ましい学校環境の形成の先にある指導・支援の充実として捉えることが可能であり、アウトプットとして参考にした。

上記の項目を参考としつつ、「学校指導体制調査研究」の教員調査では、アウトプットとして表 22 にあるとおり、14 項目を作成した。この生徒への指導や支援の充実に関する 14 項目は、教師の支援的態度、生徒指導の充実及び学習指導の充実といった我が国の学校教育において重視されていると考えられる諸概念を想定した。

以下、生徒調査と同様に教員調査においても、因子分析は最尤法、バリマックス回転、固有値 1 以上で実施し、因子負荷量は.40 に満たない項目を除き分析を行った。信頼性については、経験的な基準である.80 以上を採用することとした。

表 23 は、この 14 項目について、因子分析を行った結果で、3 因子が抽出された。第 1 因子は、「校則や学校・クラスのきまりを守らない生徒に対して、きちんと注意や指導をしている。』や「生徒に対して、挨拶や時間を守ること、役割を守ること等、礼儀やマナー、責任の大切さについて、指導を徹底している。』、「校則や学校・クラスのきまりを、生徒に、明確に伝えている。』等の負荷が高く、生徒指導の共通理解、共通実践、諸課題等への指導の徹底として捉えられることから「指導の充実」(7 項目)と命名した。

第2因子は、「生徒の話をよく聞いている。」や「生徒のことをよく気にかけている。」、「生徒の相談に、いつも誠実に向き合っている。」等であり、生徒指導や教育相談を実施する上で教員と生徒との信頼関係形成上、重要なスタンスを表すものであり、「支援的態度」（4項目）と命名した。

第3因子は、「学習への興味や意欲を引き起こすように工夫した授業を行っている。」と「わかりやすく、丁寧な授業を行っている。」、「授業についていくことが難しい生徒がいたときに、何かしらの支援や手立てを行っている。」であり、教員の授業に関する学習指導上の工夫や充実を表すものであり「授業改善」（3項目）と命名した。

これら3因子のそれぞれの信頼性係数は、「指導の充実」では $\alpha=.90$ 、「支援的態度」では $\alpha=.88$ 、「授業改善」では $\alpha=.81$ であり、十分な信頼性があると判断した。また、これら3因子から構成される教職員集団の支持的・意欲的な学校環境を通して形成されるアウトプットについて「生徒への指導・支援の充実」と命名した。

表 23 「生徒への指導・支援の充実」の因子分析結果 (N=963)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
第1因子：「指導の充実」因子 ( $\alpha=.90$ )						
Q09(8)校則や学校・クラスのきまりを守らない生徒に対して、きちんと注意や指導をしている。	3.16	0.66	<b>0.79</b>	0.19	0.22	0.70
Q09(7)生徒に対して、挨拶や時間を守ること、役割を守ること等、礼儀やマナー、責任の大切さについて、指導を徹底している。	3.09	0.70	<b>0.74</b>	0.23	0.18	0.63
Q09(6)校則や学校・クラスのきまりを、生徒に、明確に伝えている。	3.01	0.67	<b>0.69</b>	0.24	0.20	0.58
Q09(9)冷やかしやからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意や指導をしている。	3.30	0.63	<b>0.68</b>	0.27	0.28	0.61
Q09(5)校則や学校・クラスのきまりを、共通理解している。	2.98	0.69	<b>0.65</b>	0.26	0.15	0.51
Q09(10)暴力があったときに、きちんと注意や指導をしている。	3.53	0.57	<b>0.59</b>	0.28	0.24	0.49
Q09(11)いじめがあったときに、きちんと注意や指導をしている。	3.55	0.56	<b>0.53</b>	0.35	0.27	0.48
第2因子：「支援的態度」因子 ( $\alpha=.88$ )						
Q09(2)生徒の話をよく聞いている。	3.23	0.60	0.25	<b>0.78</b>	0.26	0.74
Q09(1)生徒のことをよく気にかけている。	3.33	0.58	0.29	<b>0.75</b>	0.21	0.69
Q09(3)生徒の相談に、いつも誠実に向き合っている。	3.31	0.58	0.34	<b>0.72</b>	0.29	0.72
Q09(4)生徒に公平に接している。	3.23	0.62	0.40	<b>0.53</b>	0.31	0.54
第3因子：「授業改善」因子 ( $\alpha=.81$ )						
Q09(13)学習への興味や意欲を引き起こすように工夫した授業を行っている。	3.08	0.58	0.21	0.25	<b>0.82</b>	0.78
Q09(12)わかりやすく、丁寧な授業を行っている。	3.14	0.55	0.27	0.24	<b>0.76</b>	0.71
Q09(14)授業についていくことが難しい生徒がいたときに、何かしらの支援や手立てを行っている。	2.90	0.67	0.27	0.27	<b>0.50</b>	0.40
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			3.77	2.65	2.14	8.56
因子の寄与率 (%)			26.91	18.92	15.28	61.11

## ②「支持的・意欲的な学校環境」の尺度構成

教員調査の仮説モデル（図5）では、教職員集団による支持的・意欲的な学校環境が、生徒への指導・支援の充実というアウトカムに影響を及ぼすことを仮定している。とりわけ、教職員同士の学びや良好な人間関係をインプットとして、教員の仕事への意欲、生徒の情報や学校の課題、方針の共有と行動へと関連すると捉え、それらを広く含み込んだ概念として支持的・意欲的な学校環境として仮定している。

「カリフォルニア州教職員調査」のフレームワークを参考に、まずは、アウトプットに

つながるであろう良好な教職員集団の状況のアセスメント項目をインプットとする要因として検討した。「カリフォルニア州教職員調査」の「職場環境」は、「この学校は、教職員が働く上で、協力的で、魅力的な場所である。」や「この学校は、教職員間の信頼と仲間意識を促進している。」、「この学校は、仕事を効果的に行うために必要な物品や資源、研修が提供されている。」、「この学校は、教職員にとって安全な場所である。」、「この学校は、意思決定への教職員の参加を促進している。」で構成されている。

「同僚性」は、「この学校の大人は、お互いに密接な専門職としての関係性を持っている。」と「この学校の大人は、お互いに尊敬の念を持って接し、サポートし合っている。」、「この学校の大人は、この学校を改善していく責任感を持っている。」で構成されている。これらの各因子を構成する質問項目は、教職員集団の望ましい学校環境を形成していく上で変容可能な介入の標的（保護因子）として捉えることが可能であり、インプットとなる要因として参考にした。

上記の項目を参考としつつ、「学校指導体制調査研究」の教員調査では、表 24 にあるとおり、教職員集団の支持的・意欲的な学校環境を想定した 21 項目を作成した。この 21 項目は、平成 29・30 年度のヒアリングも参考にし、仕事への意欲や教職員同士の学びの充実、良好な人間関係、生徒の情報や学校の課題、方針の共有と行動で構成されるものとして設定した。とりわけ、教職員同士の学びの充実と良好な人間関係は、管理職等による支援や介入により変容可能なインプットとなる要因として仮定することとした。

この 21 項目について因子分析を行い、因子負荷量が.40 に満たない 4 項目を除き<sup>31</sup>、17 項目で再度、因子分析を行った結果が表 25 である。

表 25 では、第 1 因子は、「この学校の教職員から、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことが多い。」や「この学校の教職員から、生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことが多い。」、「この学校の教職員から、学級経営について学ぶことが多い。」等の負荷が高く、学校における教職員同士の学びの質に関する認識を表していることから「教職員同士の学び」（8 項目）と命名した。

第 2 因子は、「特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をしている。」や「不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をしている。」等であり、生徒に関する情報共有の程度を表すものであり、「生徒の情報共有」（4 項目）と命名した。

第 3 因子は、「この学校での仕事に、やる気を感じている。」、「この学校での仕事に、誇りを感じている。」及び「この学校での仕事に、満足している。」であり、教員の仕事に対する意欲を表していると捉えられることから「仕事への意欲」（3 項目）と命名した。

第 4 因子は、「この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針を意識して行動して

---

<sup>31</sup> 「Q09(15)教職員と管理職の関係は良好である。」と「Q09(16)教職員同士の関係は良好である。」「Q09(17)教職員と生徒の関係は良好である。」、「Q09(18)教職員と保護者の関係は良好である。」の 4 項目を除外した。

いる。」と「この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識している。」であり、教員間での学校の課題や方針の共有とそれらに基づく行動に対する意識であり「課題・方針の共有と行動」（2項目）と命名した。

表 24 教職員集団の支持的・意欲的な学校環境を想定した質問項目  
(以下、「教員用調査票」から抜粋)

仕事への意欲
Q08(1)この学校での仕事に、満足している。
Q08(2)この学校での仕事に、誇りを感じている。
Q08(3)この学校での仕事に、やる気を感じている。
教職員同士による学びの充実
Q08(4)この学校の教職員から、生徒への接し方や指導・支援の仕方について学ぶことが多い。
Q08(5)この学校の教職員から、教科の指導の仕方について学ぶことが多い。
Q08(6)この学校の教職員から、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の方法について学ぶことが多い。
Q08(7)この学校の教職員から、学級経営について学ぶことが多い。
Q08(8)この学校の教職員から、学年での取組について学ぶことが多い。
Q08(9)この学校の教職員から、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことが多い。
Q08(10)この学校の教職員から、生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことが多い。
Q09(21)お互いの仕事に対して、よい点を積極的に評価し、認め合っている。
良好な人間関係
Q09(15)教職員と管理職の関係は良好である。
Q09(16)教職員同士の関係は良好である。
Q09(17)教職員と生徒の関係は良好である。
Q09(18)教職員と保護者の関係は良好である。
生徒の情報や学校の課題、方針の共有と行動
Q09(19)この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識している。
Q09(20)この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針を意識して行動している。
Q09(22)生徒のいじめについて、よく情報共有をしている。
Q09(23)不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をしている。
Q09(24)特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をしている。
Q09(25)上記に該当しない生徒についても、よく情報共有をしている。

表 25 「支持的・意欲的な学校環境」の因子分析結果 (N=962)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	共通性
第1因子：「教職員同士の学び」因子 ( $\alpha = .91$ )							
Q08(9)この学校の教職員から、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことが多い。	2.98	0.74	<b>0.78</b>	0.21	0.19	0.15	0.71
Q08(10)この学校の教職員から、生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことが多い。	3.04	0.72	<b>0.77</b>	0.23	0.17	0.13	0.69
Q08(7)この学校の教職員から、学級経営について学ぶことが多い。	2.88	0.76	<b>0.77</b>	0.18	0.19	0.11	0.67
Q08(4)この学校の教職員から、生徒への接し方や指導・支援の仕方について学ぶことが多い。	3.10	0.76	<b>0.75</b>	0.19	0.24	0.12	0.67
Q08(8)この学校の教職員から、学年での取組について学ぶことが多い。	2.97	0.76	<b>0.73</b>	0.24	0.19	0.13	0.64
Q08(6)この学校の教職員から、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の方法について学ぶことが多い。	2.88	0.74	<b>0.66</b>	0.17	0.15	0.14	0.51
Q08(5)この学校の教職員から、教科の指導の仕方について学ぶことが多い。	2.79	0.83	<b>0.57</b>	0.11	0.23	0.17	0.42
Q09(21)お互いの仕事に対して、よい点を積極的に評価し、認め合っている。	2.87	0.70	<b>0.41</b>	0.40	0.25	0.35	0.51
第2因子：「生徒の情報共有」因子 ( $\alpha = .91$ )							
Q09(24)特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をしている。	3.15	0.68	0.20	<b>0.85</b>	0.12	0.16	0.80
Q09(23)不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をしている。	3.21	0.66	0.19	<b>0.84</b>	0.15	0.16	0.79
Q09(25)上記に該当しない生徒についても、よく情報共有をしている。	3.07	0.65	0.26	<b>0.74</b>	0.14	0.17	0.66
Q09(22)生徒のいじめについて、よく情報共有をしている。	3.31	0.62	0.23	<b>0.73</b>	0.14	0.18	0.64
第3因子：「仕事への意欲」因子 ( $\alpha = .91$ )							
Q08(3)この学校での仕事に、やる気を感じている。	3.01	0.75	0.29	0.17	<b>0.83</b>	0.11	0.82
Q08(2)この学校での仕事に、誇りを感じている。	3.07	0.74	0.26	0.16	<b>0.83</b>	0.14	0.80
Q08(1)この学校での仕事に、満足している。	3.01	0.76	0.29	0.15	<b>0.76</b>	0.15	0.70
第4因子：「課題・方針の共有と行動」因子 ( $\alpha = .89$ )							
Q09(20)この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針を意識して行動している。	2.83	0.66	0.22	0.28	0.15	<b>0.92</b>	1.00
Q09(19)この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識している。	2.91	0.63	0.27	0.29	0.19	<b>0.69</b>	0.67
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			4.36	3.17	2.42	1.75	11.70
因子の寄与率 (%)			25.66	18.66	14.20	10.30	68.83

これら4因子のそれぞれの信頼性係数は、「教職員同士の学び」では $\alpha = .91$ 、「生徒の情報共有」では $\alpha = .91$ 、「仕事への意欲」では $\alpha = .91$ 、「課題・方針の共有と行動」では $\alpha = .89$ であり、十分な信頼性があると判断した。また、これら4因子から構成される教職員集団の支持的・意欲的な学校環境について「支持的・意欲的な学校環境」と命名した。

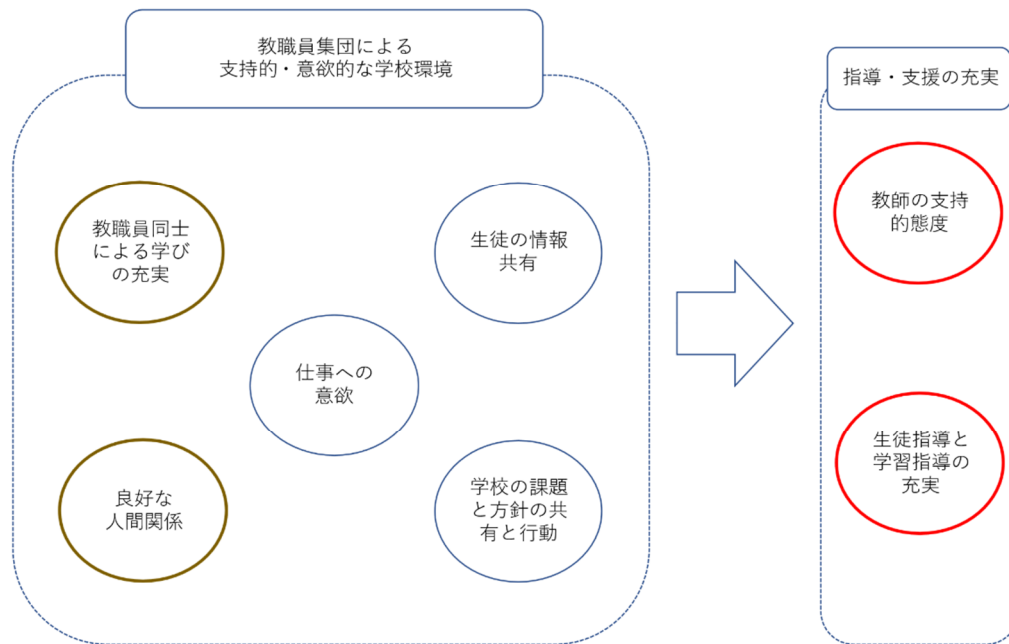
なお、この因子分析の結果から、当初インプットとなる要因として想定していた「良好な人間関係」は除くこととなり、「教職員同士の学び」についてのみをインプットの潜在変数とすることとした。

## (2) 「生徒への指導・支援の充実」の仮説モデルの検定

教員調査の全教員対象の31項目から得られたデータより「支持的・意欲的な学校環境」の下位尺度として「教職員同士の学び」と「仕事への意欲」、「生徒の情報共有」、「課題・方針の共有と行動」の4因子が確認できた。また、「生徒への指導・支援の充実」の下位尺度として「指導の充実」、「授業改善」及び「支援的態度」の3因子が確認できた。これらの因子構造の関係について、図5の教員調査の仮説モデルをもとに、共分散構造分析(多重指標モデル)を用いて仮説モデルの適合度について検定を実施した。

図7は、抽出された因子間の構造をパス図で示したものである<sup>32</sup>。

<sup>32</sup> 図7は、各質問項目の観測変数と誤差変数を除き、潜在変数のみを抽出しパス図として示したものである。以下に示す構造方程式モデルの適合度から、おおむね適合していると判断した。各適合度は、GFI=.84, AGFI=.82, CFI=.90, RMSEA=.07, RMR=.03 であっ



【再掲】 図5 教員調査の仮説モデル

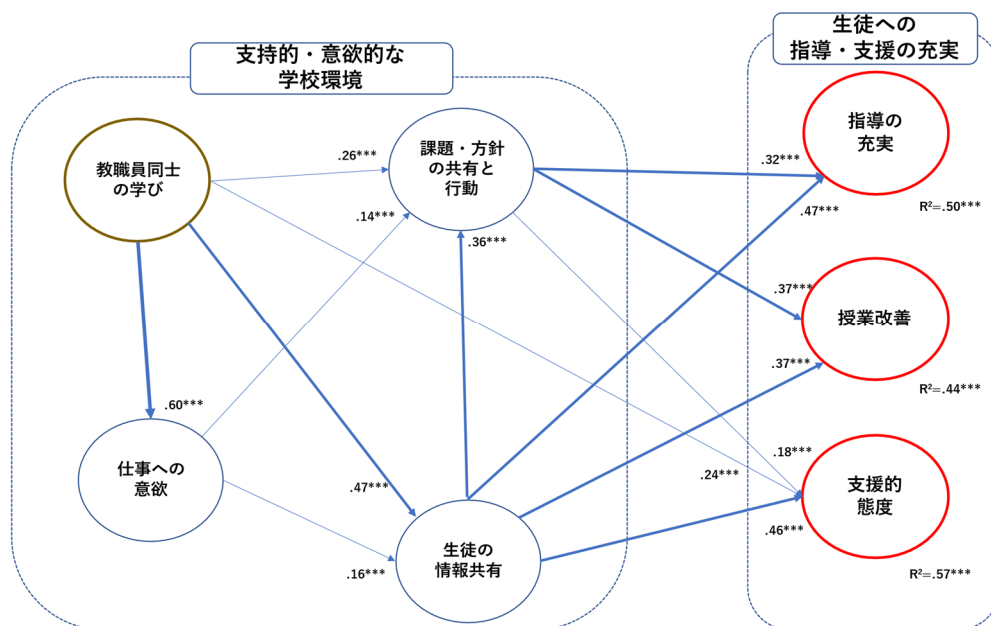


図7 教員調査の仮説モデルをもとにしたパス図 (N=942)

た。なお、観測変数と誤差変数を含めた構造方程式モデルは補遺に掲載した。



図7について、以下に記述する要素間の関連は、全て  $p < .001$  で統計的に有意であることが確認された。「教職員同士の学び」は「仕事への意欲」に.60, 「生徒の情報共有」に.47, 「課題・方針の共有と行動」に.26, 「支援の充実」に.24の関連があった。

「仕事への意欲」は「生徒の情報共有」に.16, 「課題・方針の共有と行動」に.14の関連があった。

「生徒の情報共有」は「課題・方針の共有と行動」に.36, 「指導の充実」に.47, 「授業改善」に.37, 「支援の充実」に.46の関連があった。

「課題・方針の共有と行動」は「指導の充実」に.32, 「授業改善」に.37, 「支援の充実」に.18の関連があった。

アウトカムとして想定した3因子の決定係数については、「指導の充実」は  $R^2 = .50$ , 「授業改善」は  $R^2 = .44$ , 「支援的態度」は  $R^2 = .57$  であった。

### (3) 「チーム形成」に関する尺度構成

教員調査では、上述の全教員を対象とした支持的意欲的な学校環境や生徒への指導・支援の充実とは別に、校務分掌組織としての学年団や生徒指導部会、教育相談部会に所属している教員のみを対象としたそれぞれ18項目で構成される「チーム形成」に関する尺度を作成した。「チーム形成」で想定している構成概念は、分掌内での同僚に対する気配りや配慮、それぞれが担当している仕事量等の理解、意見の調整等の葛藤解決に関するコミュニケーション、教え合いや学び合い、分掌内での情報交換とその情報に基づき具体的な指導・支援につなげる行動力等であり、これらに関する質問項目を設定している(表26)。

学年団、生徒指導部会及び教育相談部会に共通する「チーム形成」を想定した分掌ごとの18項目について、因子分析を行った結果がそれぞれ表27、表28及び表29である。

学年の「チーム形成」の因子分析結果からは、2因子が抽出された(表27)。一方、生徒指導部会の「チーム形成」及び教育相談部会の「チーム形成」の因子分析結果からはそれぞれ3因子が抽出された(表28と表29)。

これら三つの校務分掌の「チーム形成」においてそれぞれに共通する因子として抽出できたものが表27、表28及び表29の色塗りの箇所である。これらは、「ふだんから、学年内の(部会内で)生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。」、「ふだんから、学年内の(部会内で)不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。」、「ふだんから、学年内の(部会内で)特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。」及び「ふだんから、(部会内で)上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。」の4項目であり、分掌内での生徒指導上の諸課題に関する情報共有とそれに基づき具体的な指導・支援につないでいるかを表すものであった。

表 26 分掌における「チーム形成」を想定した質問項目  
 (以下は学年団に所属の教員に対する質問項目、「教員用調査票」から抜粋)

チーム形成
Q12(1)ふだんから、学年内の教育活動の振り返りをしている。
Q12(2)ふだんから、学年内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。
Q12(3)学年内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。
Q12(4)学年内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。
Q12(5)学年内で問題や課題が発生したときに、学年の教職員と協力して解決を試みている。
Q12(6)学年内で教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。
Q12(7)学年内で教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。
Q12(8)学年内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。
Q12(9)学年内で抱えている課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。
Q12(10)学年内の課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。
Q12(11)学年内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意識的につくっている。
Q12(12)学年の教職員が支援を必要としているとき、学年内の教職員同士で積極的に援助、助言している。
Q12(13)ふだんから、学年の教職員の人間関係が良好となるよう行動している。
Q12(14)学年の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。
Q12(15)ふだんから、学年内の生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。
Q12(16)ふだんから、学年内の不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。
Q12(17)ふだんから、学年内の特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。
Q12(18)ふだんから、上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。

表 27 学年団の「チーム形成」を想定した質問項目の因子分析結果 (N=865)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	共通性
第1因子 ( $\alpha = .95$ )					
Q12(9)学年内で抱えている課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。	3.17	0.62	<b>0.73</b>	0.36	0.66
Q12(13)ふだんから、学年の教職員の人間関係が良好となるよう行動している。	3.23	0.66	<b>0.73</b>	0.37	0.67
Q12(10)学年内の課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。	3.10	0.62	<b>0.71</b>	0.32	0.61
Q12(14)学年の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。	3.17	0.72	<b>0.71</b>	0.40	0.66
Q12(8)学年内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。	3.29	0.67	<b>0.70</b>	0.34	0.60
Q12(6)学年内で教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。	3.00	0.74	<b>0.69</b>	0.33	0.58
Q12(12)学年の教職員が支援を必要としているとき、学年内の教職員同士で積極的に援助、助言している。	3.20	0.65	<b>0.69</b>	0.41	0.64
Q12(11)学年内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意識的につくっている。	3.10	0.72	<b>0.69</b>	0.38	0.61
Q12(7)学年内で教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。	3.00	0.71	<b>0.66</b>	0.28	0.51
Q12(4)学年内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。	3.05	0.71	<b>0.65</b>	0.35	0.55
Q12(2)ふだんから、学年内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。	3.03	0.73	<b>0.64</b>	0.36	0.54
Q12(3)学年内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。	3.09	0.65	<b>0.64</b>	0.34	0.52
Q12(5)学年内で問題や課題が発生したときに、学年の教職員と協力して解決を試みている。	3.37	0.65	<b>0.61</b>	0.44	0.57
Q12(1)ふだんから、学年内の教育活動の振り返りをしている。	2.81	0.68	<b>0.52</b>	0.31	0.37
第2因子 ( $\alpha = .93$ )					
Q12(16)ふだんから、学年内の不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.21	0.66	0.37	<b>0.83</b>	0.83
Q12(17)ふだんから、学年内の特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.21	0.67	0.39	<b>0.82</b>	0.82
Q12(18)ふだんから、上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.15	0.65	0.39	<b>0.77</b>	0.74
Q12(15)ふだんから、学年内の生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.31	0.61	0.46	<b>0.70</b>	0.70
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			6.95	4.24	11.19
因子の寄与率 (%)			38.61	23.55	62.16

表 28 生徒指導部会の「チーム形成」を想定した質問項目の因子分析結果 (N=236)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
第1因子 ( $\alpha = .93$ )						
Q14(11)部会内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意識的につくっている。	3.18	0.67	<b>0.73</b>	0.27	0.28	0.69
Q14(13)ふだんから、部会内の教職員の人間関係が良好となるよう行動している。	3.28	0.65	<b>0.73</b>	0.29	0.33	0.73
Q14(14)部会内の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。	3.31	0.62	<b>0.68</b>	0.33	0.40	0.73
Q14(12)部会内の教職員が支援を必要としているとき、積極的に援助、助言している。	3.19	0.63	<b>0.67</b>	0.25	0.25	0.58
Q14(10)生徒指導に関する課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。	3.21	0.59	<b>0.63</b>	0.42	0.25	0.64
Q14(8)部会内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。	3.42	0.56	<b>0.60</b>	0.37	0.34	0.61
Q14(7)部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。	3.14	0.62	<b>0.56</b>	0.47	0.20	0.58
Q14(9)学校が抱えている生徒指導上の課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。	3.29	0.56	<b>0.49</b>	0.48	0.31	0.57
第2因子 ( $\alpha = .90$ )						
Q14(2)ふだんから、部会内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。	3.22	0.66	0.32	<b>0.72</b>	0.31	0.71
Q14(3)部会内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。	3.26	0.60	0.34	<b>0.72</b>	0.23	0.69
Q14(5)部会内で問題や課題が発生したときに、部会内の教職員と協力して解決を試みている。	3.35	0.60	0.36	<b>0.65</b>	0.42	0.73
Q14(1)ふだんから、部会内で、校内の生徒指導の取組の振り返りをしている。	3.34	0.64	0.21	<b>0.61</b>	0.21	0.46
Q14(4)部会内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。	3.14	0.67	0.36	<b>0.59</b>	0.35	0.60
Q14(6)部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。	3.22	0.63	0.47	<b>0.48</b>	0.38	0.60
第3因子 ( $\alpha = .93$ )						
Q14(17)ふだんから、部会内で特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.30	0.65	0.30	0.31	<b>0.83</b>	0.87
Q14(16)ふだんから、部会内で不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.34	0.64	0.31	0.28	<b>0.83</b>	0.86
Q14(18)ふだんから、部会内で上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.19	0.70	0.36	0.33	<b>0.67</b>	0.69
Q14(15)ふだんから、部会内で生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.37	0.59	0.36	0.36	<b>0.65</b>	0.68
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			4.49	3.91	3.61	12.00
因子の寄与率 (%)			24.93	21.72	20.03	66.67

表 29 教育相談部会の「チーム形成」を想定した質問項目の因子分析結果 (N=133)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
第1因子 ( $\alpha = .95$ )						
Q15(7)部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。	3.06	0.64	<b>0.79</b>	0.18	0.27	0.73
Q15(6)部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。	3.13	0.63	<b>0.79</b>	0.26	0.37	0.82
Q15(8)部会内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。	3.34	0.61	<b>0.66</b>	0.35	0.30	0.66
Q15(9)学校が抱えている教育相談上の課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。	3.17	0.62	<b>0.62</b>	0.49	0.27	0.70
Q15(13)ふだんから、部会内の教職員の人間関係が良好となるよう行動している。	3.19	0.62	<b>0.61</b>	0.40	0.29	0.62
Q15(10)教育相談に関する課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。	3.13	0.62	<b>0.58</b>	0.56	0.24	0.71
Q15(14)部会内の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。	3.23	0.60	<b>0.57</b>	0.54	0.23	0.67
Q15(11)部会内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意図的につづけている。	3.09	0.65	<b>0.57</b>	0.42	0.32	0.59
Q15(12)部会内の教職員が支援を必要としているとき、積極的に援助、助言している。	3.12	0.66	<b>0.56</b>	0.48	0.28	0.62
第2因子 ( $\alpha = .93$ )						
Q15(16)ふだんから、部会内で不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.25	0.60	0.29	<b>0.87</b>	0.28	0.92
Q15(17)ふだんから、部会内で特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.22	0.58	0.30	<b>0.85</b>	0.29	0.89
Q15(15)ふだんから、部会内で生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.19	0.59	0.33	<b>0.74</b>	0.39	0.81
Q15(18)ふだんから、部会内で上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.06	0.65	0.30	<b>0.60</b>	0.34	0.56
第3因子 ( $\alpha = .91$ )						
Q15(2)ふだんから、部会内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。	3.09	0.65	0.34	0.33	<b>0.75</b>	0.80
Q15(1)ふだんから、部会内で、校内の教育相談の取組の振り返りをしている。	3.02	0.69	0.21	0.28	<b>0.73</b>	0.65
Q15(3)部会内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。	3.04	0.67	0.49	0.31	<b>0.65</b>	0.76
Q15(4)部会内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。	2.98	0.70	0.50	0.27	<b>0.53</b>	0.59
Q15(5)部会内で問題や課題が発生したときに、部会内の教職員と協力して解決を試みている。	3.12	0.64	0.49	0.46	<b>0.51</b>	0.71
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			5.02	4.57	3.22	12.81
因子の寄与率 (%)			27.87	25.40	17.90	71.16

一方、生徒指導部会の「チーム形成」の第1因子と第2因子、教育相談部会の「チーム形成」の第1因子と第3因子の質問項目の構成は若干異なり、また、学年団の「チーム形成」ではこれらの項目は全て第1因子となっていた。

そのため、これらに関する項目を除外し、再度、学年団、生徒指導部会及び教育相談部会で共通した各4項目について、それぞれ因子分析を行った結果が表30、表31及び表32である。

表 30 「学年団情報交換・具体的行動」の因子分析結果 (N=874)

質問項目	M	SD	因子	共通性
第1因子：「学年団情報交換・具体的行動」因子 ( $\alpha = .93$ )				
Q12(16)ふだんから、学年内の不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.21	0.66	<b>0.91</b>	0.84
Q12(17)ふだんから、学年内の特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.20	0.66	<b>0.90</b>	0.82
Q12(18)ふだんから、上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.15	0.65	<b>0.86</b>	0.74
Q12(15)ふだんから、学年内の生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.30	0.61	<b>0.83</b>	0.69
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			3.08	3.08
因子の寄与率 (%)			77.04	77.04

これら4項目に影響を与える潜在変数について、校務分掌を横断して「チーム形成」に関わる因子として捉え、それぞれ「学年団情報交換・具体的行動」、「生徒指導部情報交換・具体的行動」及び「教育相談部情報交換・具体的行動」と命名した。

なお、信頼性係数については、「学年団情報交換・具体的行動」では $\alpha = .93$ 、「生徒指導部情報交換・具体的行動」では $\alpha = .93$ 、「教育相談部情報交換・具体的行動」では $\alpha = .93$ であり、十分な信頼性があると判断した。

表 31 「生徒指導部情報交換・具体的行動」の因子分析結果 (N=240)

質問項目	M	SD	因子	共通性
第1因子：「生徒指導部情報交換・具体的行動」因子 ( $\alpha = .93$ )				
Q14(17)ふだんから、部会内で特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.30	0.65	<b>0.94</b>	0.88
Q14(16)ふだんから、部会内で不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.35	0.64	<b>0.92</b>	0.85
Q14(18)ふだんから、部会内で上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.20	0.70	<b>0.83</b>	0.69
Q14(15)ふだんから、部会内で生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.37	0.59	<b>0.81</b>	0.65
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			3.08	3.08
因子の寄与率 (%)			76.90	76.90

表 32 「教育相談部情報交換・具体的行動」の因子分析結果 (N=133)

質問項目	M	SD	因子	共通性
第1因子：「教育相談部情報交換・具体的行動」因子 ( $\alpha = .93$ )				
Q15(16)ふだんから、部会内で不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.25	0.60	<b>0.96</b>	0.93
Q15(17)ふだんから、部会内で特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.22	0.58	<b>0.95</b>	0.90
Q15(15)ふだんから、部会内で生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.19	0.59	<b>0.89</b>	0.78
Q15(18)ふだんから、部会内で上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	3.06	0.65	<b>0.74</b>	0.54
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			3.15	3.15
因子の寄与率 (%)			78.73	78.73

### 3. 管理職調査における尺度の因子構造の検証

#### (1) 管理職調査の尺度の因子構造

管理職調査の75項目(属性に関する項目を除く)のうち、中間報告書の分析では、管理職による支援として作成した18項目について行った(表33)。以下、生徒調査及び教員調査と同様に管理職調査においても、因子分析は最尤法、バリマックス回転、固有値1以上で実施し、因子負荷量は.40に満たない項目を除き分析を行うこととした。また、信頼性については、経験的な基準である.80以上を採用することとした。

表34は、管理職による支援を想定した18項目について、因子分析を行った結果である。4因子が抽出されたため、信頼性係数を確認したところ第4因子のみ $\alpha = .78$ と.80未満であった。そのため、第4因子に関する三つの質問項目を削除し<sup>33</sup>、15項目で再度因子分析を

<sup>33</sup> 「Q07(11)教職員同士が、教え合い、学び合うように、校内の人員配置や校務分掌に配慮している。」、「Q07(13)教職員が、教科の指導の仕方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。」及び「Q07(14)教職員が、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の方法について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。」の3項目を除外した。

行った。因子負荷量が.40 に満たない 1 項目を除き<sup>34</sup>、14 項目で再度因子分析を行った結果が表 35 である。

表 33 管理職による教員等への支援を想定した質問項目  
(以下、「管理職用調査票」から抜粋)

管理職による支援
Q7(1)教職員と管理職の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(2)教職員同士の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(3)教職員と生徒の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(4)教職員と保護者の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(5)教職員が、この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識することができるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(6)教職員が、この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針に沿って意識的に行動することができるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(7)教職員が、生徒のいじめについて、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(8)教職員が、不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(9)教職員が、特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(10)教職員が、上記に該当しない生徒についても、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(11)教職員同士が、教え合い、学び合うように、校内の人員配置や校務分掌に配慮している。
Q7(12)教職員が、生徒への接し方や指導・支援の仕方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(13)教職員が、教科の指導の仕方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(14)教職員が、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の方法について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(15)教職員が、学級経営について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(16)教職員が、学年での取組について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(17)教職員が、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。
Q7(18)教職員が、生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。

<sup>34</sup> 「Q07(5)教職員が、この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識することができるように、具体的な取組や行動をしている。」の 1 項目を除外した。

表 35 では、第 1 因子は、「教職員が、学級経営について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。」や「教職員が、学年での取組について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。」「教職員が、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。」等の負荷が高く、教職員が生徒指導や教育相談、学級経営、保護者対応等について学ぶことができるような具体的な取組や行動の自己評価であり「教職員同士の学び支援」（6 項目）と命名した。

第 2 因子は、「教職員が、特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。」や「教職員が、不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。」「教職員が、生徒のいじめについて、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。」等の負荷が高く、教職員間で生徒に関する情報共有が円滑になるような具体的な取組や行動の自己評価であり「情報共有支援」（4 項目）と命名した。

表 34 管理職による支援を想定した質問項目の因子分析結果 (N=84)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	共通性
第1因子 ( $\alpha = .88$ )							
Q07(9)教職員が、特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。	3.44	0.61	<b>0.85</b>	0.07	0.19	0.23	0.82
Q07(8)教職員が、不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。	3.56	0.52	<b>0.82</b>	0.11	0.16	0.20	0.74
Q07(7)教職員が、生徒のいじめについて、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。	3.58	0.52	<b>0.79</b>	0.12	0.16	0.18	0.69
Q07(10)教職員が、上記に該当しない生徒についても、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。	3.21	0.64	<b>0.73</b>	0.26	0.16	0.03	0.62
Q07(5)教職員が、この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識することができるように、具体的な取組や行動をしている。	3.15	0.50	<b>0.42</b>	0.37	0.33	(0.07)	0.42
第2因子 ( $\alpha = .87$ )							
Q07(15)教職員が、学級経営について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	2.79	0.58	0.11	<b>0.78</b>	0.13	0.29	0.72
Q07(16)教職員が、学年での取組について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	2.85	0.55	0.10	<b>0.76</b>	0.09	0.23	0.65
Q07(17)教職員が、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	2.88	0.57	0.06	<b>0.67</b>	0.31	0.19	0.58
Q07(18)教職員が、生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	3.11	0.56	0.22	<b>0.58</b>	0.19	0.13	0.44
Q07(12)教職員が、生徒への接し方や指導・支援の仕方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	3.06	0.57	0.27	<b>0.54</b>	0.29	0.44	0.63
Q07(6)教職員が、この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針に沿って意識的に行動することができるように、具体的な取組や行動をしている。	3.05	0.51	0.38	<b>0.48</b>	0.26	0.09	0.45
第3因子 ( $\alpha = .88$ )							
Q07(4)教職員と保護者の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。	3.11	0.62	0.07	0.10	<b>0.83</b>	0.22	0.75
Q07(2)教職員同士の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。	3.07	0.56	0.16	0.24	<b>0.81</b>	0.11	0.75
Q07(3)教職員と生徒の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。	3.05	0.60	0.25	0.31	<b>0.74</b>	0.06	0.71
Q07(1)教職員と管理職の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。	3.18	0.52	0.26	0.15	<b>0.64</b>	0.10	0.51
第4因子 ( $\alpha = .78$ )							
Q07(14)教職員が、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の方法について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	2.92	0.70	0.06	0.28	0.15	<b>0.81</b>	0.76
Q07(13)教職員が、教科の指導の仕方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	3.01	0.61	0.32	0.27	0.21	<b>0.62</b>	0.61
Q07(11)教職員同士が、教え合い、学び合うように、校内の人員配置や校務分掌に配慮している。	3.08	0.56	0.30	0.32	0.05	<b>0.45</b>	0.40
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			3.37	3.16	2.88	1.84	11.24
因子の寄与率 (%)			18.73	17.53	15.99	10.22	62.47

注) 括弧内は数値はマイナスの意味。

第 3 因子は、「教職員と保護者の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。」や「教職員同士の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。」「教職員と生徒の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。」の負荷が高く、人間関係に対する支援として捉えられる項目であり「人間関係支援」（4 項目）と命名した。

これら 3 因子のそれぞれの信頼性係数は、「教職員同士の学び支援」では  $\alpha = .87$ 、「情報共有支援」では  $\alpha = .90$ 、「人間関係支援」では  $\alpha = .88$  であり、十分な信頼性があると判断した。また、これら 3 因子から構成される教職員に対する管理職の支援について「管理職による支援」と命名した。

表 35 「管理職による支援」の因子分析結果 (N=84)

質問項目	M	SD	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
第1因子：「教職員同士の学び支援」因子 ( $\alpha = .87$ )						
Q07(15)教職員が、学級経営について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	2.79	0.58	<b>0.83</b>	0.13	0.13	0.72
Q07(16)教職員が、学年での取組について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	2.85	0.55	<b>0.78</b>	0.10	0.10	0.63
Q07(17)教職員が、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	2.88	0.57	<b>0.72</b>	0.07	0.30	0.61
Q07(12)教職員が、生徒への接し方や指導・支援の仕方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	3.06	0.57	<b>0.63</b>	0.31	0.30	0.59
Q07(18)教職員が、生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。	3.11	0.56	<b>0.62</b>	0.22	0.18	0.46
Q07(6)教職員が、この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針に沿って意識的に行動することができるように、具体的な取組や行動をしている。	3.05	0.51	<b>0.45</b>	0.36	0.26	0.40
第2因子：「情報共有支援」因子 ( $\alpha = .90$ )						
Q07(9)教職員が、特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。	3.44	0.61	0.13	<b>0.86</b>	0.21	0.80
Q07(8)教職員が、不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。	3.56	0.52	0.15	<b>0.84</b>	0.17	0.76
Q07(7)教職員が、生徒のいじめについて、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。	3.58	0.52	0.16	<b>0.82</b>	0.16	0.72
Q07(10)教職員が、上記に該当しない生徒についても、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。	3.21	0.64	0.25	<b>0.69</b>	0.16	0.57
第3因子：「人間関係支援」因子 ( $\alpha = .88$ )						
Q07(4)教職員と保護者の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。	3.11	0.62	0.17	0.09	<b>0.82</b>	0.71
Q07(2)教職員同士の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。	3.07	0.56	0.25	0.16	<b>0.82</b>	0.76
Q07(3)教職員と生徒の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。	3.05	0.60	0.31	0.24	<b>0.73</b>	0.69
Q07(1)教職員と管理職の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。	3.18	0.52	0.16	0.27	<b>0.64</b>	0.51
因子負荷量の2乗和 (因子寄与)			3.13	3.07	2.72	8.92
因子の寄与率 (%)			22.33	21.95	19.44	63.71

#### 4. 各調査間の相関分析

##### (1) 「生徒への指導・支援の充実」(教員調査)と「支持的学校環境」(生徒調査)の相関分析

生徒調査では、「教師による支援」と「規律に関する指導」、「クラスの雰囲気」、「クラスのストレス(逆転項目)」からなる「支持的学校環境」について、「社会的資質・行動」さらには「学校とのつながり」を育む基盤として捉えた。とりわけ、「支持的学校環境」の「教師による支援」と「規律に関する指導」は生徒調査のインプットとする要因とした。

また、教員調査では「教職員同士の学び」等から成る「支持的・意欲的な学校環境」が、結果として「生徒への指導・支援の充実」につながると捉えた。上記に関する仮説モデルは、先に述べたように令和元年度の「学校指導体制調査研究」で得られたデータからは一定程度の適合度が示された。

本節では、生徒調査と教員調査、教員調査と管理職調査の変数間の関係を検討するために、各因子の下位尺度得点間の相関分析を行った<sup>35</sup>。まず、本項の教員調査と生徒調査をひも付ける上での観測単位は学校とし、学校ごとの教員調査と生徒調査の各因子の下位尺度得点の平均値を用いて相関分析を行った。

具体的には、教員調査における「生徒への指導・支援の充実」の下位尺度である「指導の充実」、「支援的態度」及び「授業改善」の3変数と、生徒調査における「支持的学校環境」の下位尺度である「教師による支援」と「規律に関する指導」、「クラスの雰囲気」、「クラスのストレス(逆転項目)」の4変数、計7変数の相関分析を行い、変数間の関係を検討した。

<sup>35</sup> 各因子の下位尺度得点の算出方法については、下位尺度に含まれる項目得点の合計を質問項目数で除したものとした。



表 36 は、各変数の平均値と標準偏差、相関分析の結果を示したものである。表 36 の色塗りの欄は、教員調査の「支援的態度（教員）」、「指導の充実（教員）」及び「授業改善（教員）」の 3 変数と、生徒調査の「教師による支援（生徒）」と「規律に関する指導（生徒）」、「クラスの雰囲気（生徒）」、「クラスのストレス（生徒）」の 4 変数との相関関係を示した箇所である。

表 36 「生徒への指導・支援の充実」（教員調査）及び「支持的学校環境」（生徒調査）の各下位尺度得点間の相関関係

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	M	SD
(1)支援的態度（教員）	-	.58**	.73**	.37*	.38*	.31	.21	3.29	0.16
(2)指導の充実（教員）		-	.59**	.30	.53**	.40**	.49**	3.22	0.18
(3)授業改善（教員）			-	.41**	.49**	.48**	.49**	3.04	0.17
(4)教師による支援（生徒）				-	.83**	.79**	.52**	3.08	0.13
(5)規律に関する指導（生徒）					-	.87**	.75**	3.42	0.15
(6)クラスの雰囲気（生徒）						-	.81**	3.10	0.18
(7)クラスのストレス（生徒）							-	2.93	0.18

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

注) クラスのストレスは逆転項目である。

「支援的態度（教員）」とそれぞれ「教師による支援（生徒）」、「規律に関する指導（生徒）」との間に、正の相関関係が見られた。また、「指導の充実（教員）」とそれぞれ「規律に関する指導（生徒）」、「クラスの雰囲気（生徒）」、「クラスのストレス（逆転項目）（生徒）」との間に、正の相関関係が見られた。さらに、「授業改善（教員）」とそれぞれ「教師による支援（生徒）」、「規律に関する指導（生徒）」、「クラスの雰囲気」、「クラスのストレス（逆転項目）（生徒）」との間に正の相関関係が見られた。すなわち、この結果から、教員側による生徒への指導や支援に関する評価と生徒側による教員の指導や支援への評価を含む学校環境の評価との間には弱から中程度の相関があり、教員の生徒指導や教育相談に関する注力や努力は生徒の学校環境に影響を及ぼす可能性が示唆された。

## (2) 校務分掌の「チーム形成」（教員調査）と「支持的学校環境」（生徒調査）の相関分析

教員調査では校務分掌の「チーム形成」に関する質問項目を設定し探索的に因子分析を行い、学年団、生徒指導部及び教育相談部において共通する「情報交換・具体的行動」因子が抽出された。

そこで、校務分掌の「チーム形成」の一側面として想定した教員調査の「情報交換・具体的行動」と、生徒調査における「支持的学校環境」の下位尺度である「教師による支援」と「規律に関する指導」、「クラスの雰囲気」、「クラスのストレス（逆転項目）」の 4 変数、計 5 変数の相関分析を行い、変数間の関係を検討した。

表 37、表 38 及び表 39 は、学年団、生徒指導部及び教育相談部それぞれの「情報交換・

具体的行動」と生徒の「支持的学校環境」の各変数の平均値と標準偏差、相関分析の結果を示したものである。表 37 で示した「学年団情報交換・具体的行動」と「支持的学校環境」の相関分析では、教員調査と生徒調査をひも付ける上での観測単位について、学年とした。つまり、学年ごとの教員調査と生徒調査の各因子の下位尺度得点の平均値を用いて相関分析を行った。

表 38 と表 39 で示した教員調査による生徒指導部及び教育相談部の「情報交換・具体的行動」と、生徒調査の「支持的学校環境」との相関分析では教員調査と生徒調査をひも付ける上での観測単位について、生徒指導部及び教育相談部とも各学校に設置される場合は一つであるため、観測単位は学校とした。学校ごとの教員調査と生徒調査の各因子の下位尺度得点の平均値を用いて相関分析を行った。

表 37 の色塗りの欄は、学年団所属の教員による「学年団情報交換・具体的行動（教員・学年）」と、生徒調査の「教師による支援（生徒）」と「規律に関する指導（生徒）」、「クラスの雰囲気（生徒）」、「クラスのストレス（逆転項目）（生徒）」の 4 変数との相関関係を示した箇所である。

「学年団情報交換・具体的行動（教員・学年）」とそれぞれ「教師による支援（生徒）」、「規律に関する指導（生徒）」及び「クラスの雰囲気」との間に弱い正の相関関係が見られた。つまり、学年団の「チーム形成」の一側面と想定した学年団による情報交換とそれに基づく具体的な取組は、弱い相関ではあるが、生徒の学校環境に影響を及ぼす可能性が示唆された。

表 37 「学年団情報交換・具体的行動」（教員調査）及び「支持的学校環境」（生徒調査）の各下位尺度間の相関関係

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	M	SD
(1)学年団情報交換・具体的行動（教員・学年）	-	.37**	.39**	.26**	.14	3.24	0.32
(2)教師による支援（生徒）		-	.83**	.66**	.42**	3.08	0.18
(3)規律に関する指導（生徒）			-	.67**	.57**	3.42	0.19
(4)クラスの雰囲気（生徒）				-	.79**	3.10	0.22
(5)クラスのストレス（生徒）					-	2.93	0.22

\*p<.05, \*\*p<.01

注) クラスのストレスは逆転項目である。

表 38 の色塗りの欄は、生徒指導部会に所属の教員による「生徒指導部情報交換・具体的行動（教員）」と、生徒調査の「教師による支援（生徒）」と「規律に関する指導（生徒）」、「クラスの雰囲気（生徒）」、「クラスのストレス（逆転項目）（生徒）」の 4 変数との相関関係を示した箇所である。

今回の結果からは、「生徒指導部情報交換・具体的行動」（教員調査）と「支持的学校環境」（生徒調査）の間には、統計的に有意な相関は見られなかった。

表 38 「生徒指導部情報交換・具体的行動」(教員調査)及び  
「支持的学校環境」(生徒調査)の各下位尺度間の相関関係

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	M	SD
生徒指導部情報交換・具体的行動(教員)	-	.10	.17	.17	.02	3.30	0.27
教師による支援(生徒)		-	.83**	.79**	.52**	3.08	0.13
規律に関する指導(生徒)			-	.87**	.75**	3.42	0.15
クラスの雰囲気(生徒)				-	.81**	3.10	0.18
クラスのストレス(生徒)					-	2.93	0.18

\*p<.05, \*\*p<.01

注) クラスのストレスは逆転項目である。

表 39 「教育相談部情報交換・具体的行動」(教員調査)及び  
「支持的学校環境」(生徒調査)の各下位尺度間の相関関係

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	M	SD
教育相談部情報交換・具体的行動(教員)	-	.19	.13	.14	.08	3.17	0.33
教師による支援(生徒)		-	.83**	.79**	.52**	3.08	0.13
規律に関する指導(生徒)			-	.87**	.75**	3.42	0.15
クラスの雰囲気(生徒)				-	.81**	3.10	0.18
クラスのストレス(生徒)					-	2.93	0.18

\*p<.05, \*\*p<.01

注) クラスのストレスは逆転項目である。

表 39 の色塗りの欄は、教育相談部会に所属の教員による「教育相談部情報交換・具体的行動(教員)」と、生徒調査の「教師による支援(生徒)」と「規律に関する指導(生徒)」, 「クラスの雰囲気(生徒)」, 「クラスのストレス(逆転項目)(生徒)」の4変数との相関関係を示した箇所である。

今回の結果からは、「教育相談部情報交換・具体的行動」(教員調査)と「支持的学校環境」(生徒調査)との間には、統計的に有意な相関は見られなかった。

### (3) 「管理職による支援」(管理職調査)と「支持的・意欲的な学校環境」(教員調査)の相関分析

管理職調査では、教職員に対する管理職への支援に関する質問項目を設定し、探索的に因子分析を行い、「教職員同士の学び支援」, 「情報共有支援」及び「人間関係支援」の3因子が抽出された。そこで、管理職の支援の各側面を想定したこれら「教職員同士の学び支援」, 「情報共有支援」及び「人間関係支援」の3変数と、教員調査における「教職員集団による支持的・意欲的な学校環境」の下位尺度である「教職員同士の学び」と「仕事への意欲」, 「課題・方針の共有と行動」, 「生徒の情報共有」の4変数、計7変数の相関分析を行い、変数間の関係を検討した。

表 40 は、各変数の平均値と標準偏差、相関分析の結果を示したものである。なお、管理職調査と教員調査をひも付ける上での観測単位は、学校とし、学校ごとの管理職調査と教員調査の各因子の下位尺度得点の平均値を用いて相関分析を行った。

表 40 の色塗りの欄は、管理職による「教職員同士の学び支援（管理職）」、「情報共有支援（管理職）」及び「人間関係支援（管理職）」と、教員調査におけるそれぞれ「教職員同士の学び（教員）」と「仕事への意欲（教員）」、「課題・方針の共有と行動（教員）」、「生徒の情報共有（教員）」の 4 変数との相関関係を示した箇所である。

今回の結果からは、「管理職による支援」（管理職調査）と「支持的・意欲的な学校環境」（教員調査）との間には、統計的に有意な相関は見られなかった。

表 40 「管理職による支援」（管理職調査）及び「支持的・意欲的な学校環境」（教員調査）の各下位尺度間の相関関係

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	M	SD
(1)教職員同士の学び支援（管理職）	-	.50**	.49**	.05	-.02	.09	.06	2.96	0.33
(2)情報共有支援（管理職）		-	.27	-.06	.19	.15	.15	3.46	0.38
(3)人間関係支援（管理職）			-	.24	.16	-.01	.10	3.11	0.36
(4)教職員同士の学び（教員）				-	.58**	.60**	.52**	2.93	0.20
(5)仕事への意欲（教員）					-	.55**	.47**	3.04	0.19
(6)課題・方針の共有と行動（教員）						-	.57**	2.87	0.19
(7)生徒の情報共有（教員）							-	3.21	0.19

\*p<.05, \*\*p<.01

## 第4章 考察



## 第4章 考察

本章では、第3章の分析結果を踏まえて、以下の三つの観点から考察を行った。

第一は、生徒調査における「学校とのつながり」を生徒指導上のアウトカムと見なしたときに、その他にも抽出された因子間との関連から、学校の生徒指導の取組を振り返る上での留意点について考察した。

第二は、生徒調査で明らかとなった「学校とのつながり」について、それを基軸に、生徒が「学校とのつながり」の意識を育てている学校の教職員集団の諸特性について、教員調査の因子構造の分析や、生徒調査と教員調査との相関分析の結果に基づき考察した。この学校の教職員集団の諸特性の検討は、学校の生徒指導体制を整備・構築する上で、ある一つの側面からの留意点を提供するものである。

第三は、上記以外の分析結果として、教員調査における学年団、生徒指導部会及び教育相談部会の「チーム形成」と生徒調査の相関分析、また、管理職調査と教員調査の相関分析のそれぞれの結果から、今回、作成した調査票の課題を含めて、考察した。

### 1. 「学校とのつながり」の構造から見る生徒指導の留意点

生徒調査からは、支持的な学校環境が基盤となり、生徒指導の目指すところの社会的資質や行動、態度の育成へとつながり、学校への愛着や帰属意識としての「学校とのつながり」に帰結していくという仮説と（図6）、その「学校とのつながり」を強固なものにすることで、生徒がいじめ加害へと向かうことを防止しうることについて（表11から表18）、一定のエビデンスをもって示すことができた。

生徒調査では、支持的な学校環境を想定するものとして、とりわけ、教員の意識の注力や努力によって変化しうる要因をインプットとなる「保護因子」として設定した。それは、教員の支持的態度や生徒指導の共通理解・共通実践に関する生徒側からの評価であり「教師による支援」と「規律に関する指導」という因子として抽出されたものである。これらには強い相関が確認された。つまり、教員による支援的なスタンスと規律に関する指導の充実が相互に関連しつつ、生徒にとって、より安心・安全を感じられるクラスの雰囲気へとつながり、それが生徒の抱えるクラス内でのストレスの緩和に肯定的な影響を及ぼしうる。

一方、生徒調査においてアウトカムに設定した「学校とのつながり」は、「社会的資質・行動」として設定した「役割責任行動」や「自己有用感」、「他者尊重」からの影響よりも、「クラスの雰囲気」や「クラスのストレス」といった「支持的学校環境」に関する因子からの影響をより強く受けている可能性が示された。「社会的資質・行動」の育成は「学校とのつながり」に肯定的な影響があると考えられるものの、その関連の程度については、令和元年度調査のデータからは必ずしも強いものとはいえなかった。また、「支持的学校環境」に関する各因子から、「社会的資質・行動」への各因子に対しても、関連はあるものの、関連の程度は強いものとはいえなかった。

上記の生徒調査の仮説の分析を通して、学校の生徒指導の取組を振り返る上での留意点について考察を行う。生徒調査において、「学校とのつながり」に関する因子間の関係を構造的に確認したことは、学校の生徒指導の取組を振り返る上での留意点を示唆するものになったといえる。まず、留意点として挙げられることは、上述の生徒側による教員の支援的態度や規律に関する指導の充実に関する評価の意義についてである。

「学校とのつながり」の意識は、教員の介入によって直接的に高めることは困難であると推測される。だが、「教師による支援」と「規律に関する指導」は、上述したように教員の意識的な取組によって変容可能な動的要因と見なすことができる。そのため、例えば、「教師による支援」と「規律に関する指導」の因子から影響を受けている項目である「この学校の先生は、私の話をよく聞いてくれる。」や「この学校の先生は、私のことを気にかけてくれる。」、「この学校の先生は、私が何か言いたいことがあるときに、相談にのってくれる。」、また、「この学校の先生は、いじめがあったときに、きちんと注意、指導してくれる。」や「この学校の先生は、暴力があったときに、きちんと注意、指導してくれる。」、「この学校の先生は、冷やかしやからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意、指導してくれる。」等について、肯定的に回答する生徒がどれほどいるのかを定期的に確認する等の取組は、教員の生徒指導に対する生徒の側からの評価の情報であり、学校や学年、あるいは、教員自身で生徒指導の取組を振り返る上での検討材料になりうると考える。

生徒調査から確認できた「学校とのつながり」を構成するものは「教師による支援」と「規律に関する指導」だけではない。より詳細に学校の生徒指導の取組を振り返るとすれば、「クラスの雰囲気」や「クラスのストレス」の項目によって、学校に対する生徒の安心・安全感を確認すること、「自己有用感」の項目から、生徒が人の役に立っている、人に承認されていると思えるような取組を学校として用意することができているどうかを確認すること、加えて、他者への思いやりや役割活動への責任意識と行動に関する生徒自身の自己評価も、生徒指導の取組を振り返る上で、教員側にとって一定の観点からのフィードバック情報を提供するものになるであろう。

だが、今回の生徒調査は、「学校とのつながり」について、それを構成するであろう幾つかの要因を想定しつつ、限定的な側面から、描き出したものにすぎない。先に述べたように、令和元年度調査のデータからは、「学校とのつながり」の構造について、「支持的学校環境」の形成から、「社会的資質・行動」の育成の一つの帰結として捉えることが一定程度示されたものの、「支持的学校環境」と「社会的資質・行動」との関連、また、「社会的資質・行動」から「学校とのつながり」との関連について、強い関連は確認されなかった。

この「中間報告書」における令和元年度調査の分析結果を踏まえ、今後、「学校とのつながり」を中核とした生徒指導の学校パフォーマンスをある一定の側面から識別できるかどうかについて、今回の生徒調査で用いた「生徒用調査票」の部分的活用も含めて、令和2・3年度調査の分析の足掛かりとすることとしたい。



## 2. 学校の生徒指導体制づくりの留意点

「学校とのつながり」とその因子構造から見た生徒指導の振り返りの留意点は、生徒への日頃の教育活動について教員自身に振り返りを促すものとなる。これは、教員から生徒に向かうベクトルに関する振り返りといえる。一方、教員調査の尺度の因子構造と仮説モデルの検証から明らかになったことは、教員から教員に向かうベクトルに関する振り返りを促すものである。

平成 29・30 年度のヒアリングからは、教職員集団の年齢構成の変化をはじめとした現代的課題に直面する学校にとって、教職員同士の学びの文化・風土を醸成し、若手教員やミドルリーダーとなる中核的中堅教員を自校の中で育成していくことが、学校の指導体制づくりにおいて鍵概念となることが示唆された。それにヒントを得た今回の「学校指導体制調査研究」において、教員調査の結果から、「教職員同士の学び」因子をインプットとして、それが教員にとっての「支持的・意欲的な学校環境」の核となり、「生徒への指導・支援の充実」というアウトプットへとつながることが、一定程度のエビデンスをもって示すことができた（図 7）。

生徒調査と同様に、教員調査においてもインプットとなる「教職員同士の学び」因子は、教員による意識の注力や努力で変化する動的要因である「保護因子」としての特徴を有するものとして設定しており、平成 29・30 年度のヒアリングで得られた知見や Cal-SCHLS の「カリフォルニア州教職員調査」で使用されている「同僚性」(collegiality) 概念に近いものである。この「教職員同士の学び」因子は、教員の仕事に対する意欲や生徒の情報共有、学校の課題・方針の共有とそれに基づく行動へと影響を与えている。そして、そのことが、教員による学校の指導・支援の充実の程度に関する評価へと一定程度影響していることが明らかとなった。

ここで重要となるのは、教員側<sup>がわ</sup>による生徒への指導・支援の充実度の評価（教員調査で「支援的態度」、「指導の充実」及び「授業改善」として抽出された 3 因子）が、果たして生徒側<sup>がわ</sup>による教員の取組への評価を含む「支持的学校環境」（生徒調査で「規律に関する指導」と「教師による支援」、「クラスの雰囲気」、「クラスのストレス」として抽出された 4 因子）と関連があるのかどうか、また、あるとしたらどの程度の関連があるのかということである。これは、教員調査においてアウトプットとして設定した「生徒への指導・支援の充実」の尺度に関する妥当性の検証にもつながるものである。そして、前述の表 33 で示したとおり、それぞれの変数間で弱から中程度の相関が示され、教員調査における「生徒への指導・支援の充実」の妥当性について、一定程度確認することができた。

上記の教員調査の仮説の分析を通して、学校の生徒指導体制づくりの取組を振り返る上での留意点について考察を行う。教員調査のアウトプットと生徒調査のインプットは、決して因果関係を示すものではないが、関連性があることを踏まえると、教員による生徒への指導・支援の充実に関する評価や意識を高めるために、教員にとって支持的・意欲的な学校環境を管理職や教職員同士で、どのように醸成、構築していくことができるか、当事者間で検

討していくことは意義があると考え。これが、今回の教員調査の結果に基づく学校の生徒指導体制づくりの留意点である。

「教職員同士の学び」因子から影響を受けている項目は、「この学校の教職員から、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことが多い。」や「この学校の教職員から、生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことが多い。」、「この学校の教職員から、学級経営について学ぶことが多い。」、「この学校の教職員から、生徒への接し方や指導・支援の仕方について学ぶことが多い。」等である。学校の生徒指導の改善・向上にとって、生徒指導体制の整備・構築が重要であることは、『生徒指導提要』（文部科学省、平成22年3月）においても示されてきたところである。今回の教員調査では、生徒指導の方針・基準の明確化・具体化や全ての教職員による共通理解・共通実践、PDCAサイクルを通じた実効性のある組織・運営の在り方の構築について、「教職員同士の学び」の形成からアプローチすることについて、一考を促すものといえる。

だが、教員調査からは、「教職員同士の学び」が直接的にアウトプットとしての「生徒への指導・支援の充実」に関連するものとしては示されなかった。「教職員同士の学び」と同様に「支持的・意欲的な学校環境」を構成する「生徒の情報共有」や「課題・方針の共有と行動」は、「教職員同士の学び」よりも「生徒への指導・支援の充実」へと関連があることが確認された。そして、これら「生徒の情報共有」と「課題・方針の共有と行動」についても、「教職員同士の学び」と同様に、教員による意識の注力と努力で変容可能な「保護因子」として捉えることができる。

「生徒の情報共有」と「課題・方針の共有と行動」の因子から影響を受けている項目は「生徒のいじめについて、よく情報共有をしている。」や「不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をしている。」、「特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をしている。」、また、「この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識している。」と「この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針を意識して行動している。」等である。これらの項目も「教職員同士の学び」と合わせて、教員間で定期的に確認等することによって、教員による学校環境に関する評価を確認することができる。それは、生徒指導体制づくりを行う上で、一定の観点からの検討材料を提供するものとなる。

しかしながら、今回の教員調査についても生徒調査と同様に、「生徒への指導・支援の充実」と「支持的・意欲的な学校環境」について、限定的な側面から、描き出したにすぎない。教員調査と生徒調査の関連については、用いる調査票を含めて更に検討が必要である。今回の教員調査で用いた「教員用調査票」の部分的活用も含めて、今後の令和2・3年度調査の分析課題としたい。

### 3. その他の分析結果の考察

#### (1) 校務分掌における共通するチーム形成要因の把握の課題

平成29・30年度のヒアリングでは、主に管理職から、生徒指導に関して学年団をはじめ

幾つかの校務分掌の重要性に関する回答が得られた。そのため、「学校指導体制調査研究」では、上記の教員調査における教員（常勤・フルタイム）全員を対象とした「支持的・意欲的な学校環境」と「生徒への指導・支援の充実」とは別に、とりわけ、生徒指導に関連があると想定される学年団、生徒指導部会及び教育相談部会の三つの分掌組織に対して、ヒアリングで得られた回答を参考に、分掌内での同僚に対する気配りや配慮、それぞれが担当している仕事量等の理解、意見の調整等の葛藤解決に関するコミュニケーション、教え合いや学び合い、分掌内での情報交換とその情報に基づき具体的な指導・支援につなげる行動力等について、「チーム形成」として捉え、質問項目（三つの分掌組織に対して共通する各 18 項目）を作成した。

探索的に行った因子分析からは、三つの分掌組織に共通する「チーム形成」の一側面として示されたものは「情報交換・具体的行動」（4 項目）であった。それ以外の分掌内での同僚に対する気配りや配慮、仕事量等の理解、コミュニケーション、教え合いや学び合いに関連する 14 項目は、分掌間で共通した形で因子抽出がなされなかった。

これは、学年団や生徒指導部会、教育相談部会に所属する教員にとって、それぞれの分掌における集団としての凝集性に関する教員のイメージが異なること、つまり、学年としてまとまりがあり効果的に機能することと、生徒指導部会や教育相談部会のそれぞれのメンバーが集団として凝集性を有し、効果的に活動し、分掌組織が機能することは、それぞれに所属する教員としての意識や認識が異なる可能性が推測される。また、学年と生徒指導部会、教育相談部会が学校で果たす役割や機能もそれぞれに異なるため、今回の質問項目では、分掌を横断して共通するチーム形成要因の把握が困難であった。

そして、分掌間に共通した「情報交換・具体的行動」因子と生徒調査の「支持的学校環境」との相関分析では、「学年団情報交換・具体的行動」についてのみ、弱い相関が見られた。しかしながら、「生徒指導部情報交換・具体的行動」と「教育相談部情報交換・具体的行動」については、生徒調査の「支持的学校環境」との間に統計的に有意な相関関係は示されなかった。この分析結果から、「チーム形成」については妥当性の観点で課題が残された。生徒指導部会や教育相談部会における「チーム形成」とはどのようなものか、どのように把握しうるのか、また、それらの分掌の「チーム形成」なるものが、生徒に肯定的な影響を及ぼすとしたら生徒の意識調査でどのような観点から描き出せるものか等をより質的調査から明らかにし、仮説をブラッシュアップした上で、新たな項目を作成する等のが求められよう。分掌における「チーム形成」については、今回の分析を踏まえ、令和 2・3 年度調査の分析の足掛かりとしたい。

## （2）管理職と教員との認識

今回の管理職調査と教員調査の相関分析は、管理職調査の一部のみを用いた限定的なものである。だが、管理職側による教員への支援について、教員側の「支持的・意欲的な学校環境」との相関分析に関しては、統計的に有意な相関は確認されなかった。

「管理職による支援」の下位尺度は、「教職員同士の学び支援」、「情報共有支援」及び「人間関係支援」の3因子であり、これらの因子に影響を受ける各項目は、管理職自身による教職員集団に対する支援行動の程度を表す自己評価である。一方、教員調査の「支持的・意欲的な学校環境」の下位尺度は「教職員同士の学び」や「仕事への意欲」、「課題・方針の共有と行動」、「生徒の情報共有」の4因子であり、自分自身や学校に対する評価である。これらに関連が示されなかったことは、管理職側の支援に対する自己評価と教員側の受け止めに隔たりがあることが示唆される。もし、そうであれば、管理職は自らの支援行動を過剰評価せずに、教員側の声に耳を傾け、自身の支援行動を振り返ることが求められよう。

しかしながら、管理職調査における調査票自体の課題も考えられる。管理職による支援の自己評価の項目が抽象的であった等、項目自体の課題のために、社会的に望ましいとされる回答へと偏る等、管理職の支援に関するパフォーマンスを十分に弁別できなかった可能性がある。また、管理職調査では、単純集計のみで統計分析に用いなかった項目もあることから、それらの項目のさらなる分析も含め、令和2・3年度調査の分析の足掛かりとしたい。

# 補 遺



## 1. 生徒調査における回答者の属性

生徒調査では、調査対象である二市の中学校、それぞれ18校と22校、計40校の第1～3学年の生徒を対象に実施している。表41は、学年と性別のクロス表である。学年又は性別のいずれかにおける無回答等は120名であった。各学年の男女比については、第1学年は男子51.2%、女子48.8%、第2学年は男子51.4%、女子48.6%、第3学年は男子51.1%、女子48.9%であった。

表42は、生徒調査における学校と性別のクロス表である。40校に対して1から40の番号を割り振り示した。各学校の男子の割合は46.5%から56.3%の間であった。各学校の女子の割合は43.7%から53.5%の間であった。

表41 生徒調査における学年と性別のクロス表

	男子	女子	合計
第1学年	2,979 (51.2%)	2,842 (48.8%)	5,821 (100.0%)
第2学年	2,875 (51.4%)	2,718 (48.6%)	5,593 (100.0%)
第3学年	2,932 (51.1%)	2,810 (48.9%)	5,742 (100.0%)
合計	8,786 (51.2%)	8,370 (48.8%)	17,156 (100.0%)

表 42 生徒調査における学校と性別のクロス表

	男子	女子	合計
1 中学校	441 (49.8%)	444 (50.2%)	885 (100.0%)
2 中学校	91 (54.2%)	77 (45.8%)	168 (100.0%)
3 中学校	249 (54.0%)	212 (46.0%)	461 (100.0%)
4 中学校	136 (51.5%)	128 (48.5%)	264 (100.0%)
5 中学校	224 (51.9%)	208 (48.1%)	432 (100.0%)
6 中学校	192 (50.3%)	190 (49.7%)	382 (100.0%)
7 中学校	181 (50.3%)	179 (49.7%)	360 (100.0%)
8 中学校	443 (52.2%)	405 (47.8%)	848 (100.0%)
9 中学校	225 (46.5%)	259 (53.5%)	484 (100.0%)
10 中学校	262 (51.7%)	245 (48.3%)	507 (100.0%)
11 中学校	119 (49.4%)	122 (50.6%)	241 (100.0%)
12 中学校	32 (54.2%)	27 (45.8%)	59 (100.0%)
13 中学校	392 (51.3%)	372 (48.7%)	764 (100.0%)
14 中学校	266 (53.6%)	230 (46.4%)	496 (100.0%)
15 中学校	121 (48.4%)	129 (51.6%)	250 (100.0%)
16 中学校	140 (52.8%)	125 (47.2%)	265 (100.0%)
17 中学校	76 (55.1%)	62 (44.9%)	138 (100.0%)
18 中学校	261 (49.2%)	270 (50.8%)	531 (100.0%)
19 中学校	185 (53.5%)	161 (46.5%)	346 (100.0%)
20 中学校	241 (52.7%)	216 (47.3%)	457 (100.0%)
21 中学校	268 (50.5%)	263 (49.5%)	531 (100.0%)
22 中学校	144 (49.7%)	146 (50.3%)	290 (100.0%)
23 中学校	471 (52.7%)	423 (47.3%)	894 (100.0%)
24 中学校	205 (48.5%)	218 (51.5%)	423 (100.0%)
25 中学校	104 (48.6%)	110 (51.4%)	214 (100.0%)
26 中学校	424 (52.2%)	389 (47.8%)	813 (100.0%)
27 中学校	189 (52.8%)	169 (47.2%)	358 (100.0%)
28 中学校	115 (50.9%)	111 (49.1%)	226 (100.0%)
29 中学校	379 (51.2%)	361 (48.8%)	740 (100.0%)
30 中学校	195 (51.5%)	184 (48.5%)	379 (100.0%)
31 中学校	104 (52.3%)	95 (47.7%)	199 (100.0%)
32 中学校	316 (56.3%)	245 (43.7%)	561 (100.0%)
33 中学校	188 (48.8%)	197 (51.2%)	385 (100.0%)
34 中学校	70 (49.0%)	73 (51.0%)	143 (100.0%)
35 中学校	402 (52.8%)	359 (47.2%)	761 (100.0%)
36 中学校	212 (48.1%)	229 (51.9%)	441 (100.0%)
37 中学校	80 (51.0%)	77 (49.0%)	157 (100.0%)
38 中学校	349 (50.5%)	342 (49.5%)	691 (100.0%)
39 中学校	216 (47.5%)	239 (52.5%)	455 (100.0%)
40 中学校	78 (49.7%)	79 (50.3%)	157 (100.0%)
合計	8786 (51.2%)	8370 (48.8%)	17156 (100.0%)



## 2. 「学校とのつながり」の構造方程式モデルの情報

生徒調査における尺度の因子構造の分析をもとに、「学校とのつながり」をアウトカムとして計8因子について、生徒調査の仮説モデル（図4）との適合度を共分散構造分析（多重指標モデル）にて検定した。

図8は、「学校とのつながり」をアウトカムの潜在変数とし、「教師による支援」と「規律に関する指導」とを相関するインプットの潜在変数として、観測変数（質問項目）と誤差変数を含む因子間の関係を示した構造方程式モデルのパス図である。

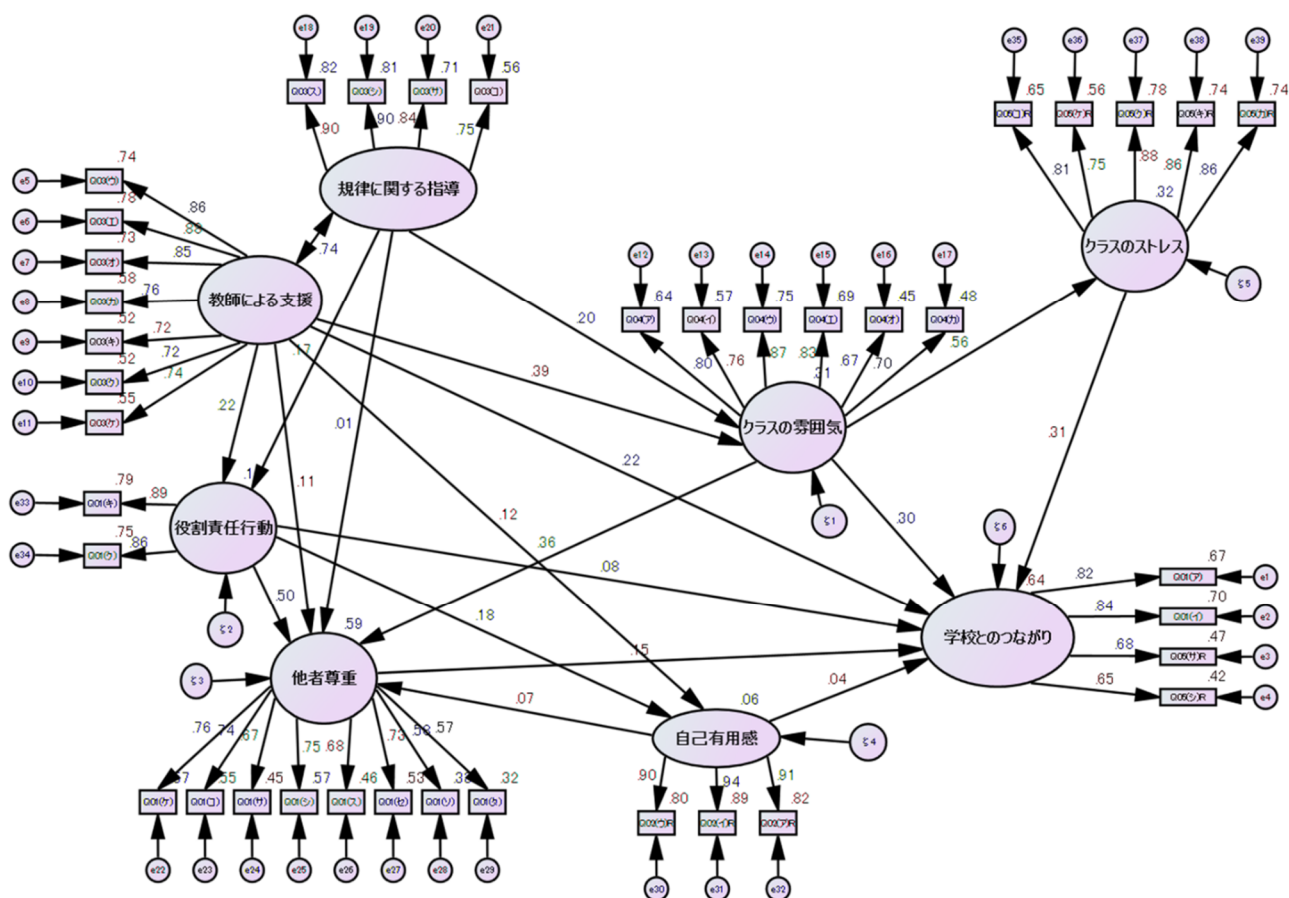


図8 「学校とのつながり」の構造方程式モデル (N=15,449)

表43に、「学校とのつながり」の構造方程式モデルの標準化係数を示した。また、表44に、重相関係数の平方（決定係数）を示した。

表 43 「学校とのつながり」の構造方程式モデルの標準化係数

		推定値
役割責任行動	<---	教師による支援 .22
役割責任行動	<---	規律に関する指導 .17
クラスの雰囲気	<---	規律に関する指導 .20
クラスの雰囲気	<---	教師による支援 .39
自己有用感	<---	役割責任行動 .18
自己有用感	<---	教師による支援 .12
他者尊重	<---	規律に関する指導 .01
他者尊重	<---	自己有用感 .07
クラスのストレス	<---	クラスの雰囲気 .57
他者尊重	<---	教師による支援 .11
他者尊重	<---	役割責任行動 .50
他者尊重	<---	クラスの雰囲気 .36
学校とのつながり	<---	教師による支援 .22
学校とのつながり	<---	クラスのストレス .31
学校とのつながり	<---	役割責任行動 .08
学校とのつながり	<---	他者尊重 .15
学校とのつながり	<---	自己有用感 .04
学校とのつながり	<---	クラスの雰囲気 .30
Q01(ア)	<---	学校とのつながり .82
Q01(イ)	<---	学校とのつながり .84
Q01(キ)	<---	役割責任行動 .89
Q01(ク)	<---	役割責任行動 .87
Q01(ケ)	<---	他者尊重 .76
Q01(コ)	<---	他者尊重 .74
Q01(サ)	<---	他者尊重 .67
Q01(シ)	<---	他者尊重 .75
Q01(ス)	<---	他者尊重 .68
Q01(セ)	<---	他者尊重 .73
Q01(ソ)	<---	他者尊重 .58
Q01(タ)	<---	他者尊重 .57
Q02(ア)(逆転項目)	<---	自己有用感 .91
Q02(イ)(逆転項目)	<---	自己有用感 .94
Q02(ウ)(逆転項目)	<---	自己有用感 .90
Q03(ウ)	<---	教師による支援 .86
Q03(エ)	<---	教師による支援 .89
Q03(オ)	<---	教師による支援 .85
Q03(カ)	<---	教師による支援 .76
Q03(キ)	<---	教師による支援 .72
Q03(ク)	<---	教師による支援 .72
Q03(ケ)	<---	教師による支援 .74
Q03(コ)	<---	規律に関する指導 .75
Q03(サ)	<---	規律に関する指導 .84
Q03(シ)	<---	規律に関する指導 .90
Q03(ス)	<---	規律に関する指導 .90
Q04(ア)	<---	クラスの雰囲気 .80
Q04(イ)	<---	クラスの雰囲気 .76
Q04(ウ)	<---	クラスの雰囲気 .87
Q04(エ)	<---	クラスの雰囲気 .83
Q04(オ)	<---	クラスの雰囲気 .67
Q04(カ)	<---	クラスの雰囲気 .70
Q05(カ)(逆転項目)	<---	クラスのストレス .86
Q05(キ)(逆転項目)	<---	クラスのストレス .86
Q05(ク)(逆転項目)	<---	クラスのストレス .88
Q05(ケ)(逆転項目)	<---	クラスのストレス .75
Q05(コ)(逆転項目)	<---	クラスのストレス .81
Q05(サ)(逆転項目)	<---	学校とのつながり .69
Q05(シ)(逆転項目)	<---	学校とのつながり .65

表 44 「学校とのつながり」の構造方程式モデルの重相関係数の平方

	推定値
役割責任行動	.14
自己有用感	.06
クラスの雰囲気	.31
クラスのストレス	.32
他者尊重	.59
学校とのつながり	.64
Q01(ア)	.67
Q01(イ)	.70
Q01(キ)	.79
Q01(ク)	.75
Q01(ケ)	.57
Q01(コ)	.55
Q01(サ)	.45
Q01(シ)	.57
Q01(ス)	.46
Q01(セ)	.53
Q01(ソ)	.33
Q01(タ)	.32
Q02(ア)(逆転項目)	.82
Q02(イ)(逆転項目)	.89
Q02(ウ)(逆転項目)	.80
Q03(ウ)	.74
Q03(エ)	.78
Q03(オ)	.73
Q03(カ)	.58
Q03(キ)	.52
Q03(ク)	.52
Q03(ケ)	.55
Q03(コ)	.56
Q03(サ)	.71
Q03(シ)	.81
Q03(ス)	.82
Q04(ア)	.64
Q04(イ)	.58
Q04(ウ)	.75
Q04(エ)	.69
Q04(オ)	.45
Q04(カ)	.49
Q05(カ)(逆転項目)	.74
Q05(キ)(逆転項目)	.74
Q05(ク)(逆転項目)	.78
Q05(ケ)(逆転項目)	.56
Q05(コ)(逆転項目)	.65
Q05(サ)(逆転項目)	.47
Q05(シ)(逆転項目)	.42

### 3. 「生徒への指導・支援の充実」の構造方程式モデルの情報

教員調査における尺度の因子構造の分析をもとに、「生徒への指導・支援の充実」の下位尺度である「支援的態度」、「指導の充実」及び「授業改善」の3因子をアウトカムとした計7因子について、教員調査の仮説モデル（図5）との適合度を共分散構造分析（多重指標モデル）にて検定した。

図9は、「生徒への指導・支援の充実」の3因子をアウトカムの潜在変数とし、「教職員同士の学び」、「課題・方針の共有と行動」をインプットの潜在変数として、観測変数（質問項目）と誤差変数を含む因子間の関係を示した構造方程式モデルのパス図である。

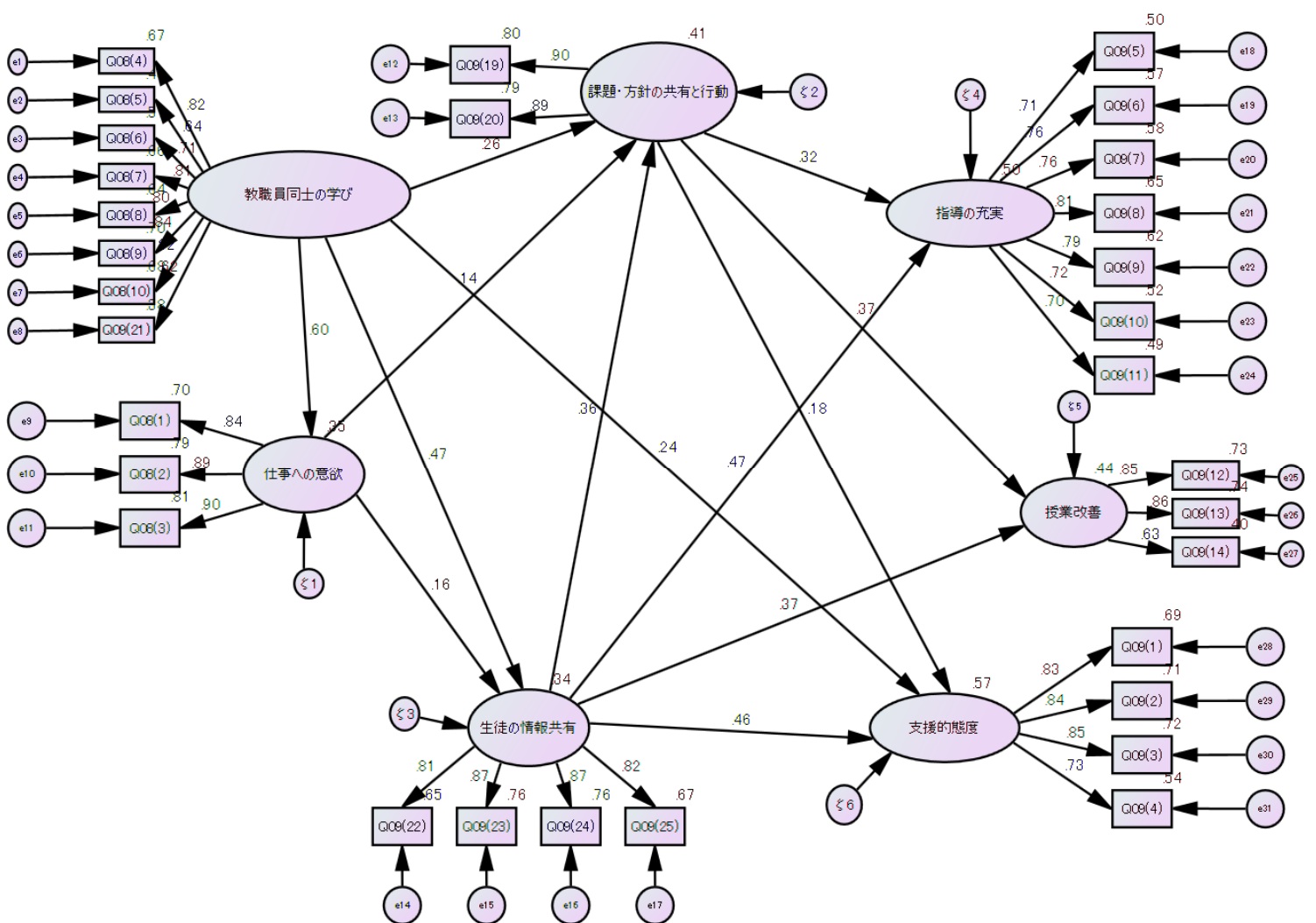


図9 「生徒への指導・支援の充実」のパス図 (N=942)

表 45 に、「生徒への指導・支援の充実」の構造方程式モデルの標準化係数を示した。また、表 46 に、重相関係数の平方（決定係数）を示した。

表 45 「生徒への指導・支援の充実」の構造方程式モデルの標準化係数

			推定値
仕事への意欲	<---	教職員同士の学び	.60
生徒の情報共有	<---	教職員同士の学び	.47
生徒の情報共有	<---	仕事への意欲	.16
課題・方針の共有と行動	<---	仕事への意欲	.14
課題・方針の共有と行動	<---	生徒の情報共有	.36
課題・方針の共有と行動	<---	教職員同士の学び	.26
支援的態度	<---	課題・方針の共有と行動	.18
支援的態度	<---	教職員同士の学び	.24
指導の充実	<---	課題・方針の共有と行動	.32
授業改善	<---	課題・方針の共有と行動	.38
指導の充実	<---	生徒の情報共有	.47
授業改善	<---	生徒の情報共有	.37
支援的態度	<---	生徒の情報共有	.46
Q08(1)	<---	仕事への意欲	.84
Q08(2)	<---	仕事への意欲	.89
Q08(3)	<---	仕事への意欲	.90
Q08(4)	<---	教職員同士の学び	.82
Q08(5)	<---	教職員同士の学び	.64
Q08(6)	<---	教職員同士の学び	.71
Q08(7)	<---	教職員同士の学び	.81
Q08(8)	<---	教職員同士の学び	.80
Q08(9)	<---	教職員同士の学び	.84
Q08(10)	<---	教職員同士の学び	.83
Q09(1)	<---	支援的態度	.83
Q09(2)	<---	支援的態度	.84
Q09(3)	<---	支援的態度	.85
Q09(4)	<---	支援的態度	.73
Q09(5)	<---	指導の充実	.71
Q09(6)	<---	指導の充実	.76
Q09(7)	<---	指導の充実	.76
Q09(8)	<---	指導の充実	.81
Q09(9)	<---	指導の充実	.79
Q09(10)	<---	指導の充実	.72
Q09(11)	<---	指導の充実	.70
Q09(12)	<---	授業改善	.85
Q09(13)	<---	授業改善	.86
Q09(14)	<---	授業改善	.63
Q09(19)	<---	課題・方針の共有と行動	.90
Q09(20)	<---	課題・方針の共有と行動	.89
Q09(21)	<---	教職員同士の学び	.62
Q09(22)	<---	生徒の情報共有	.81
Q09(23)	<---	生徒の情報共有	.87
Q09(24)	<---	生徒の情報共有	.87
Q09(25)	<---	生徒の情報共有	.82

表 46 「生徒への指導・支援の充実」の構造方程式モデルの重相関係数の平方

	推定値
仕事への意欲	.36
生徒の情報共有	.34
課題・方針の共有と行動	.41
授業改善	.44
支援的態度	.57
指導の充実	.50
Q08(1)	.70
Q08(2)	.79
Q08(3)	.81
Q08(4)	.67
Q08(5)	.41
Q08(6)	.51
Q08(7)	.66
Q08(8)	.64
Q08(9)	.70
Q08(10)	.68
Q09(1)	.69
Q09(2)	.71
Q09(3)	.72
Q09(4)	.54
Q09(5)	.50
Q09(6)	.57
Q09(7)	.58
Q09(8)	.65
Q09(9)	.62
Q09(10)	.52
Q09(11)	.50
Q09(12)	.73
Q09(13)	.74
Q09(14)	.40
Q09(19)	.80
Q09(20)	.79
Q09(21)	.38
Q09(22)	.65
Q09(23)	.76
Q09(24)	.76
Q09(25)	.67

## 卷末資料





## 中学校での学校生活について

国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター

	中学校		年		組	出席番号		性別	男・女
--	-----	--	---	--	---	------	--	----	-----

氏名

Q01 あなたは、次のア～タのそれぞれについて、どのくらい当てはまると思いますか。「当てはまる」から「当てはまらない」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
ア	私は、この学校が好きである。	1	2	3	4
イ	私は、この学校にいると安心して過ごすことができる。	1	2	3	4
ウ	私は、学校の授業がよくわかる。	1	2	3	4
エ	私は、学校の授業に熱心に取り組んでいる。	1	2	3	4
オ	私は、将来の目標がある。	1	2	3	4
カ	私は、学校の勉強をすることに、目的意識を持っている。	1	2	3	4
キ	私は、クラスの中で与えられた役割（例、係活動など）は、他人まかせにせず、責任感を持って行っている。	1	2	3	4
ク	私は、学校の中で与えられた役割（例、生徒会や委員会活動など）は、他人まかせにせず、責任感を持って行っている。	1	2	3	4
ケ	私は、クラスの人の違いを認め、その人のよさを大切にしている。	1	2	3	4
コ	私は、クラスの人のことを、気にかけている。	1	2	3	4
サ	私は、クラスの人とお互いに、仲良くしている。	1	2	3	4
シ	私は、クラスの人と一緒にいるとき、相手の気持ちを考えて行動している。	1	2	3	4
ス	私は、自分がされていやなことは、クラスの人にしないようにしている。	1	2	3	4
セ	私は、クラスの人が困っているとき、相手を助けている。	1	2	3	4
ソ	私は、いじめられている生徒がいたら、先生や学校の大人に伝える。	1	2	3	4
タ	私は、いじめが起きていることを見たら、いじめを止めようとする。	1	2	3	4

Q02 あなたは、今の学年になってから、次のア～ウのそれぞれについて、どのくらい当てはまると思われますか。「よくあった」から「まったくなかった」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

		よくあった	少しあった	あまりなかった	まったくなかった
ア	自分（自分たち）のしたことで、他の人に喜んでもらえた。	1	2	3	4
イ	自分（自分たち）のしたことで、他の人から感謝された。	1	2	3	4
ウ	自分（自分たち）のしたことで、他の人の役に立った。	1	2	3	4

Q03 あなたは、次のア～スのそれぞれについて、どのくらい当てはまると思われますか。「当てはまる」から「当てはまらない」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
ア	私は、この学校の校則や学校・クラスのきまりについて、よく理解している。	1	2	3	4
イ	私は、挨拶や時間を守ること、役割を守ること等、礼儀やマナー、責任感の大切さについて、理解して、行動している。	1	2	3	4
ウ	この学校の先生は、私のことを気にかけてくれる。	1	2	3	4
エ	この学校の先生は、私の話をよく聞いてくれる。	1	2	3	4
オ	この学校の先生は、私が何か言いたいことがあるときに、相談にのってくれる。	1	2	3	4
カ	この学校の先生は、公平に接してくれる。	1	2	3	4
キ	この学校の先生の授業は、わかりやすく、おもしろい。	1	2	3	4
ク	この学校の先生の授業は、学習への興味や意欲を引き起こしてくれる。	1	2	3	4
ケ	この学校の先生は、授業でつまずいたときに、わかるように、手助けしてくれる。	1	2	3	4
コ	この学校の先生は、校則や学校・クラスのきまりを守らない人に対して、きちんと注意、指導してくれる。	1	2	3	4
サ	この学校の先生は、冷やかしやからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意、指導してくれる。	1	2	3	4
シ	この学校の先生は、暴力があったときに、きちんと注意、指導してくれる。	1	2	3	4
ス	この学校の先生は、いじめがあったときに、きちんと注意、指導してくれる。	1	2	3	4

Q04 **あなたのクラスは**、次のア～カのそれぞれについて、どのくらい当てはまると思われますか。「当てはまる」から「当てはまらない」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
ア	私のクラスは、居心地がよい。	1	2	3	4
イ	私のクラスは、ルールや規則が守られている。	1	2	3	4
ウ	私のクラスは、お互いのことを大切にしている。	1	2	3	4
エ	私のクラスは、お互いに、協力でき、まとまりがある。	1	2	3	4
オ	私のクラスは、お互いに、よく勉強を教え合ったりしている。	1	2	3	4
カ	私のクラスは、勉強に集中できる環境である。	1	2	3	4

Q05 あなたは、次のア～シのそれぞれについて、どのくらい当てはまると思われますか。「当てはまる」から「当てはまらない」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
ア	私は、クラスの中で、人気がある。	1	2	3	4
イ	私が仲良くしているグループは、クラスの中で、人気がある。	1	2	3	4
ウ	私は、クラスの中のどの人に対しても、自分の意見をはっきりと主張できる。	1	2	3	4
エ	私は、クラスの中で、自己主張することは難しいと感じる。	1	2	3	4
オ	私は、クラスの中で、自分が言いたいことを相手に言い返せずに、我慢することがよくある。	1	2	3	4
カ	私は、クラスの中で、いらいらすることがよくある。	1	2	3	4
キ	私は、クラスの中で、いやな気持ちになることがよくある。	1	2	3	4
ク	私は、クラスの中で、頭にくる（カッとなる）ことがよくある。	1	2	3	4
ケ	私は、クラスの中で、他の人に攻撃的な気持ちになることがよくある。	1	2	3	4
コ	私は、クラスの中にいるとストレスがたまる。	1	2	3	4
サ	私は、学校にいるとつかれる。	1	2	3	4
シ	私は、学校を休みたいと思うことがよくある。	1	2	3	4

Q06 あなたは、今の学年になってから、次のようなことを学校の友達のだれかからどのくらいされましたか。  
次のア～クのそれぞれについて、五つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

		ぜんぜん されなかった	今までに 1～2回くらい	1か月に 2～3回くらい	1週間に 1回くらい	1週間に 何度も
ア	仲間はずれにされたり、無視されたり、影で悪口を言われたりした。	1	2	3	4	5
イ	からかわれたり、冷やかされたり、悪口やおどし文句、いやなことを言われたりした。	1	2	3	4	5
ウ	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして、たたかれたり、けられたりした。	1	2	3	4	5
エ	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、けられたりした。	1	2	3	4	5
オ	お金や物をとりあげられたり、物を買わされたりした。	1	2	3	4	5
カ	物を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりした。	1	2	3	4	5
キ	いやなことや恥ずかしいこと、危険なことを、されたり、させられたりした。	1	2	3	4	5
ク	パソコンやスマートフォン、携帯電話などで、いやなことをされた。	1	2	3	4	5

Q07 あなたは、今の学年になってから、次のようなことを学校の友達のだれかに対して、どのくらいしましたか。次のア～クのそれぞれについて、五つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

		ぜんぜん しなかった	今までに 1～2回くらい	1か月に 2～3回くらい	1週間に 1回くらい	1週間に 何度も
ア	仲間はずれにしたり、無視したり、影で悪口を言ったりした。	1	2	3	4	5
イ	からかったり、冷やかしたり、悪口やおどし文句、いやなことを言ったりした。	1	2	3	4	5
ウ	軽くぶつかったり、遊ぶふりをして、たたいたり、けったりした。	1	2	3	4	5
エ	ひどくぶつかったり、たたいたり、けったりした。	1	2	3	4	5
オ	お金や物をとりあげたり、物を買わせたりした。	1	2	3	4	5
カ	物を隠したり、盗んだり、壊したり、捨てたりした。	1	2	3	4	5
キ	いやなことや恥ずかしいこと、危険なことを、(友達に対して)したり、させたりした。	1	2	3	4	5
ク	パソコンやスマートフォン、携帯電話などで、いやなことをした。	1	2	3	4	5

これで終わりです。ありがとうございました。

## 中学校教員用質問調査票

国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター

I 全ての教員の方にお尋ねします。

Q01 学校名を記入してください。 \_\_\_\_\_ 中学校

Q02 あなたの年齢（令和2年3月31日現在）を以下に数字で記入してください。

\_\_\_\_\_ 歳

Q03 あなたの本校における現在の雇用形態について、該当するものに一つ〇を付けてください。「4 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。

- 1 常勤（正規）      2 講師又は臨時的任用教員（フルタイム）      3 再任用（フルタイム）  
4 その他（ \_\_\_\_\_ ）

Q04 あなたの本校における職階について、該当するものに一つ〇を付けてください。「8 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。

- 1 主幹教諭      2 指導教諭      3 教諭      4 講師      5 養護教諭  
6 養護助教諭      7 栄養教諭      8 その他（ \_\_\_\_\_ ）

Q05 あなたの教員としての勤務年数は何年ですか（令和2年3月31日現在として算出）。数字を記入してください。なお、教員としての勤務年数には、公立学校の教員としての勤務年数のほか、国立大学法人の附属学校や私立学校での教員としての勤務年数を含みます。民間の教育機関（学習塾等）の勤務年数は含みません。該当しない場合は、0と記入してください。

(1)	<u>常勤（正規）の教員としての通算勤務年数</u> ※教員の人事異動として、公的な機関（教育委員会や教育研究所・センター、首長部局等）での勤務経験がある方はその年数も含めてください。 ※常勤（正規）の教員としての勤務年数のみ記入し、フルタイムの講師・再任用・臨時的任用教員の勤務年数は含めないでください。	年	か月
(2)	<u>フルタイムの講師・再任用・臨時的任用の教員としての通算勤務年数</u>	年	か月
(3)	<u>現在の学校での勤務年数</u> ※常勤（正規）とフルタイム（講師・再任用・臨時的任用教員）の両方を含めて記入してください（例、臨時的任用教員（フルタイム）6か月と常勤（正規）の教員2年の勤務年数の場合、2年6か月と記入）。	年	か月



Q09 あなたの学校の教職員について，以下のことがどの程度当てはまりますか。(1)～(25)のそれぞれの項目について，四つの中から，最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
(1)	生徒のことをよく気にかけている。	1	2	3	4
(2)	生徒の話をよく聞いている。	1	2	3	4
(3)	生徒の相談に，いつも誠実に向き合っている。	1	2	3	4
(4)	生徒に公平に接している。	1	2	3	4
(5)	校則や学校・クラスのきまりを，共通理解している。	1	2	3	4
(6)	校則や学校・クラスのきまりを，生徒に，明確に伝えている。	1	2	3	4
(7)	生徒に対して，挨拶や時間を守ること，役割を守ること等，礼儀やマナー，責任の大切さについて，指導を徹底している。	1	2	3	4
(8)	校則や学校・クラスのきまりを守らない生徒に対して，きちんと注意や指導をしている。	1	2	3	4
(9)	冷やかしゃからかい，悪口，無視があったときに，きちんと注意や指導をしている。	1	2	3	4
(10)	暴力があったときに，きちんと注意や指導をしている。	1	2	3	4
(11)	いじめがあったときに，きちんと注意や指導をしている。	1	2	3	4
(12)	わかりやすく，丁寧な授業を行っている。	1	2	3	4
(13)	学習への興味や意欲を引き起こすように工夫した授業を行っている。	1	2	3	4
(14)	授業についていくことが難しい生徒がいたときに，何かしらの支援や手立てを行っている。	1	2	3	4
(15)	教職員と管理職の関係は良好である。	1	2	3	4
(16)	教職員同士の関係は良好である。	1	2	3	4
(17)	教職員と生徒の関係は良好である。	1	2	3	4
(18)	教職員と保護者の関係は良好である。	1	2	3	4
(19)	この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識している。	1	2	3	4
(20)	この学校の抱えている課題に対して，目指すべき方針を意識して行動している。	1	2	3	4
(21)	お互いの仕事に対して，よい点を積極的に評価し，認め合っている。	1	2	3	4
(22)	生徒のいじめについて，よく情報共有をしている。	1	2	3	4
(23)	不登校やその傾向のある生徒について，よく情報共有をしている。	1	2	3	4
(24)	特別な支援や配慮を要する生徒について，よく情報共有をしている。	1	2	3	4
(25)	上記に該当しない生徒についても，よく情報共有をしている。	1	2	3	4

Ⅲ 学年に所属している方（学年主任・副主任，学級担任・副担任等）にお尋ねします。なお，学年に所属していない教員の方は，次の設問Ⅳへお進みください。

Q10 あなたが所属している学年は，第何学年ですか。該当するものに一つ○を付けてください。

- 1 第1学年      2 第2学年      3 第3学年      4 特別支援学級      5 その他

Q11 あなたが所属している学年について，以下のことがどの程度当てはまりますか。(1)～(8)のそれぞれの項目について，四つの中から，最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
(1)	生徒の学習意欲のばらつきに関する問題が大きい。	1	2	3	4
(2)	生徒の社会性に関する問題が大きい。	1	2	3	4
(3)	発達上の特別なニーズを抱えている生徒に関する問題が大きい。	1	2	3	4
(4)	生徒の暴力に関する問題が大きい。	1	2	3	4
(5)	生徒のいじめに関する問題が大きい。	1	2	3	4
(6)	生徒の不登校に関する問題が大きい。	1	2	3	4
(7)	教職員と保護者との関係に関する問題が大きい。	1	2	3	4
(8)	経済的な課題を抱えている生徒に関する問題が大きい。	1	2	3	4



Q12 あなたが所属している学年について、学年でどのように連携して働いていますか。(1)～(18)のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。なお、単学級(学年に一学級のみ)の教員の方は、よく連携する学年とのこととして○を付けてください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
(1)	ふだんから、学年内の教育活動の振り返りをしている。	1	2	3	4
(2)	ふだんから、学年内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。	1	2	3	4
(3)	学年内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。	1	2	3	4
(4)	学年内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。	1	2	3	4
(5)	学年内で問題や課題が発生したときに、学年の教職員と協力して解決を試みている。	1	2	3	4
(6)	学年内で教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。	1	2	3	4
(7)	学年内で教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。	1	2	3	4
(8)	学年内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。	1	2	3	4
(9)	学年内で抱えている課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。	1	2	3	4
(10)	学年内の課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。	1	2	3	4
(11)	学年内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意識的につくっている。	1	2	3	4
(12)	学年の教職員が支援を必要としているとき、学年内の教職員同士で積極的に援助、助言している。	1	2	3	4
(13)	ふだんから、学年の教職員の人間関係が良好となるように行動している。	1	2	3	4
(14)	学年の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。	1	2	3	4
(15)	ふだんから、学年内の生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4
(16)	ふだんから、学年内の不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4
(17)	ふだんから、学年内の特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4
(18)	ふだんから、上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4

Ⅳ 生徒指導部会（生徒指導委員会等含む）又は教育相談部会（教育相談委員会等含む）に所属している方にお尋ねします。なお、どちらの部会にも所属していない方は、ここで回答は終了となります。

Q13 あなたの所属について、以下、四つの中から、該当するものに一つ○を付けてください。そして、矢印の先の質問項目に回答してください。

- 1 生徒指導部会と教育相談部会の両方に所属 （Q14 と Q15 両方回答）
- 2 生徒指導部会と教育相談部会が、同一組織であり、その部会に所属 （Q14 のみ回答）
- 3 生徒指導部会にのみ所属 （Q14 のみ回答）
- 4 教育相談部会にのみ所属 （Q15 のみ回答）

Q14 あなたが所属している生徒指導部会について、部会内でどのように連携して働いていますか。(1)～(18)のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。なお、生徒指導部会の構成員があなたお一人である場合は、管理職（校長、副校長・教頭）との連携のこととして○を付けてください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
(1)	ふだんから、部会内で、校内の生徒指導の取組の振り返りをしている。	1	2	3	4
(2)	ふだんから、部会内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。	1	2	3	4
(3)	部会内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。	1	2	3	4
(4)	部会内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。	1	2	3	4
(5)	部会内で問題や課題が発生したときに、部会内の教職員と協力して解決を試みている。	1	2	3	4
(6)	部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。	1	2	3	4
(7)	部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。	1	2	3	4
(8)	部会内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。	1	2	3	4
(9)	学校が抱えている生徒指導上の課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。	1	2	3	4
(10)	生徒指導に関する課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。	1	2	3	4
(11)	部会内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意識的につくっている。	1	2	3	4
(12)	部会内の教職員が支援を必要としているとき、積極的に援助、助言している。	1	2	3	4
(13)	ふだんから、部会内の教職員の人間関係が良好となるよう行動している。	1	2	3	4
(14)	部会内の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。	1	2	3	4
(15)	ふだんから、部会内で生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4
(16)	ふだんから、部会内で不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4
(17)	ふだんから、部会内で特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4
(18)	ふだんから、部会内で上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4

➔ Q15 あなたが所属している教育相談部会について、部会内でどのように連携して働いていますか。(1)～(18)のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。なお、教育相談部会の構成員があなたお一人である場合は、管理職(校長、副校長・教頭)との連携のこととして○を付けてください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
(1)	ふだんから、部会内で、校内の教育相談の取組の振り返りをしている。	1	2	3	4
(2)	ふだんから、部会内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。	1	2	3	4
(3)	部会内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。	1	2	3	4
(4)	部会内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。	1	2	3	4
(5)	部会内で問題や課題が発生したときに、部会内の教職員と協力して解決を試みている。	1	2	3	4
(6)	部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。	1	2	3	4
(7)	部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。	1	2	3	4
(8)	部会内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。	1	2	3	4
(9)	学校が抱えている教育相談上の課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。	1	2	3	4
(10)	教育相談に関する課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。	1	2	3	4
(11)	部会内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意識的につくっている。	1	2	3	4
(12)	部会内の教職員が支援を必要としているとき、積極的に援助、助言している。	1	2	3	4
(13)	ふだんから、部会内の教職員の人間関係が良好となるよう行動している。	1	2	3	4
(14)	部会内の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。	1	2	3	4
(15)	ふだんから、部会内で生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4
(16)	ふだんから、部会内で不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4
(17)	ふだんから、部会内で特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4
(18)	ふだんから、部会内で上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	1	2	3	4

Q16 生徒指導に関することで、今後、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの調査研究として取り組んでほしいことがありましたら、自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。



# 中学校管理職用質問調査票

国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター

I 全ての管理職（校長、副校長・教頭）の方にお尋ねします。

Q01 学校名を記入してください。 \_\_\_\_\_ 中学校

Q02 あなたの年齢（令和2年3月31日現在）を以下に数字で記入してください。

\_\_\_\_\_ 歳

Q03 あなたの本校における現在の雇用形態について、該当するものに一つ○を付けてください。「3 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。

- 1 常勤（正規）
- 2 再任用（フルタイム）
- 3 その他（ \_\_\_\_\_ ）

Q04 あなたの本校における職階について、該当するものに一つ○を付けてください。

- 1 校長
- 2 副校長
- 3 教頭

Q05 あなたの教員としての勤務年数（令和2年3月31日現在）について、以下に示す（1）～（5）のそれぞれの項目に数字を記入してください。なお、教員としての勤務年数には、公立学校の教員としての勤務年数のほか、国立大学法人の附属学校や私立学校での教員としての勤務年数を含みます。民間の教育機関（学習塾等）の勤務年数は含みません。該当しない箇所は、0と記入してください。

(1)	常勤（正規）の教員としての <u>通算勤務年数</u> （管理職や教育委員会、教育研究所・センター、首長部局等の勤務年数を含む）	年	か月
(2)	<u>学校の管理職</u> （校長・副校長・教頭）としての <u>通算勤務年数</u>	年	か月
(3)	<u>現在の学校</u> での管理職（校長・副校長・教頭）としての勤務年数	年	か月
(4)	教育委員会や教育研究所・センター、首長部局等の <u>通算勤務年数</u>	年	か月
(5)	フルタイムの講師・再任用・臨時的任用の教員としての <u>通算勤務年数</u>	年	か月

II 全ての管理職（校長、副校長・教頭）の方にお尋ねします。校長の方は、校長として、副校長又は教頭の方は、副校長又は教頭として、自身のお立場（職階）から、お答えください。

Q06 あなたの学校の教職員について、以下のことがどの程度当てはまりますか。（1）～（25）のそれぞれの項目について最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
(1)	生徒のことをよく気にかけている。	1	2	3	4
(2)	生徒の話をよく聞いている。	1	2	3	4
(3)	生徒の相談に、いつも誠実に向き合っている。	1	2	3	4
(4)	生徒に公平に接している。	1	2	3	4
(5)	校則や学校・クラスのきまりを、共通理解している。	1	2	3	4
(6)	校則や学校・クラスのきまりを、生徒に、明確に伝えている。	1	2	3	4
(7)	生徒に対して、挨拶や時間を守ること、役割を守ること等、礼儀やマナー、責任の大切さについて、指導を徹底している。	1	2	3	4
(8)	校則や学校・クラスのきまりを守らない生徒に対して、きちんと注意や指導をしている。	1	2	3	4
(9)	冷やかしやからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意や指導をしている。	1	2	3	4
(10)	暴力があったときに、きちんと注意や指導をしている。	1	2	3	4
(11)	いじめがあったときに、きちんと注意や指導をしている。	1	2	3	4
(12)	わかりやすく、丁寧な授業を行っている。	1	2	3	4
(13)	学習への興味や意欲を引き起こすように工夫した授業を行っている。	1	2	3	4
(14)	授業についていくことが難しい生徒がいたときに、何かしらの支援や手立てを行っている。	1	2	3	4
(15)	教職員と管理職の関係は良好である。	1	2	3	4
(16)	教職員同士の関係は良好である。	1	2	3	4
(17)	教職員と生徒の関係は良好である。	1	2	3	4
(18)	教職員と保護者の関係は良好である。	1	2	3	4
(19)	この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識している。	1	2	3	4
(20)	この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針を意識して行動している。	1	2	3	4
(21)	お互いの仕事に対して、よい点を積極的に評価し、認め合っている。	1	2	3	4
(22)	生徒のいじめについて、よく情報共有をしている。	1	2	3	4
(23)	不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をしている。	1	2	3	4
(24)	特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をしている。	1	2	3	4
(25)	上記に該当しない生徒についても、よく情報共有をしている。	1	2	3	4

Q07 あなた自身について, 本校に着任してから今日までを振り返り, 以下のことがどの程度当てはまりますか。

(1) ~ (18) のそれぞれの項目について, 四つの中から, 最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。

		当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	当てはまる
(1)	教職員と管理職の関係が良好となるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(2)	教職員同士の関係が良好となるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(3)	教職員と生徒の関係が良好となるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(4)	教職員と保護者の関係が良好となるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(5)	教職員が, この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識することができるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(6)	教職員が, この学校の抱えている課題に対して, 目指すべき方針に沿って意識的に行動することができるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(7)	教職員が, 生徒のいじめについて, よく情報共有をするように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(8)	教職員が, 不登校やその傾向のある生徒について, よく情報共有をするように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(9)	教職員が, 特別な支援や配慮を要する生徒について, よく情報共有をするように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(10)	教職員が, 上記に該当しない生徒についても, よく情報共有をするように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(11)	教職員同士が, 教え合い, 学び合うように, 校内の人員配置や校務分掌に配慮している。	1	2	3	4
(12)	教職員が, 生徒への接し方や指導・支援の仕方について学ぶことができるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(13)	教職員が, 教科の指導の仕方について学ぶことができるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(14)	教職員が, 総合的な学習の時間, 道徳, 特別活動の方法について学ぶことができるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(15)	教職員が, 学級経営について学ぶことができるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(16)	教職員が, 学年での取組について学ぶことができるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(17)	教職員が, 保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことができるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4
(18)	教職員が, 生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことができるように, 具体的な取組や行動をしている。	1	2	3	4

Q08 あなたの学校について，以下のことがどの程度当てはまりますか。(1)～(8)の各学年と学校全体のそれぞれの項目について，四つの中から，最も近いと考えるものに一つずつ○を付けてください。

(例)		第1学年	第2学年	第3学年	学校全体
(1)	生徒の学習意欲のばらつきに関する問題が大きい	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない ③ まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる ④ 当てはまる	1 当てはまらない ② あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない ③ まあ当てはまる 4 当てはまる

		第1学年	第2学年	第3学年	学校全体
(1)	生徒の学習意欲のばらつきに関する問題が大きい。	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる
(2)	生徒の社会性に関する問題が大きい。	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる
(3)	発達上の特別なニーズを抱えている生徒に関する問題が大きい。	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる
(4)	生徒の暴力に関する問題が大きい。	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる
(5)	生徒のいじめに関する問題が大きい。	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる
(6)	生徒の不登校に関する問題が大きい。	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる
(7)	教職員と保護者との関係に関する問題が大きい。	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる
(8)	経済的な課題を抱えている生徒に関する問題が大きい。	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる	1 当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 まあ当てはまる 4 当てはまる

御協力ありがとうございました。



## 「中学校での学校生活について」基礎集計表

Q01 あなたは、次のア～タのそれぞれについて、どのくらい当てはまると感じますか。「当てはまる」から「当てはまらない」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文 選択肢	Q01(ア)私は、この学校が好きである。			
	1 当てはまらない	665	3.8	3.9
	2 あまり当てはまらない	1708	9.9	9.9
	3 まあ当てはまる	7025	40.7	40.7
	4 当てはまる	7862	45.5	45.6
	99 無回答、判別不能等	16	0.1	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文 選択肢	Q01(イ)私は、この学校にしていると安心して過ごすことができる。			
	1 当てはまらない	736	4.3	4.3
	2 あまり当てはまらない	2355	13.6	13.7
	3 まあ当てはまる	7619	44.1	44.2
	4 当てはまる	6530	37.8	37.9
	99 無回答、判別不能等	36	0.2	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文 選択肢	Q01(ウ)私は、学校の授業がよくわかる。			
	1 当てはまらない	514	3.0	3.0
	2 あまり当てはまらない	2668	15.4	15.5
	3 まあ当てはまる	9217	53.4	53.5
	4 当てはまる	4828	27.9	28.0
	99 無回答、判別不能等	49	0.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文 選択肢	Q01(エ)私は、学校の授業に熱心に取り組んでいる。			
	1 当てはまらない	447	2.6	2.6
	2 あまり当てはまらない	2318	13.4	13.5
	3 まあ当てはまる	8428	48.8	48.9
	4 当てはまる	6029	34.9	35.0
	99 無回答、判別不能等	54	0.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文 選択肢	Q01(オ)私は、将来の目標がある。			
	1 当てはまらない	1771	10.3	10.3
	2 あまり当てはまらない	3533	20.5	20.5
	3 まあ当てはまる	4327	25.0	25.1
	4 当てはまる	7575	43.8	44.0
	99 無回答、判別不能等	70	0.4	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文 選択肢	Q01(カ)私は、学校の勉強をすることに、目的意識を持っている。			
	1 当てはまらない	836	4.8	4.9
	2 あまり当てはまらない	4135	23.9	24.0
	3 まあ当てはまる	7760	44.9	45.0
	4 当てはまる	4503	26.1	26.1
	99 無回答、判別不能等	42	0.2	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(キ)	私は、クラスの中で与えられた役割（例、係活動など）は、他人まかせにせず、責任感を持って行っている。			
選択肢	1 当てはまらない	308	1.8	1.8
	2 あまり当てはまらない	1259	7.3	7.3
	3 まあ当てはまる	6359	36.8	36.9
	4 当てはまる	9328	54.0	54.1
	99 無回答、判別不能等	22	0.1	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(ク)	私は、学校の中で与えられた役割（例、生徒会や委員会活動など）は、他人まかせにせず、責任感を持って行っている。			
選択肢	1 当てはまらない	390	2.3	2.3
	2 あまり当てはまらない	1285	7.4	7.5
	3 まあ当てはまる	6184	35.8	35.9
	4 当てはまる	9349	54.1	54.3
	99 無回答、判別不能等	68	0.4	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(ケ)	私は、クラスの人々の違いを認め、その人のよさを大切にしている。			
選択肢	1 当てはまらない	292	1.7	1.7
	2 あまり当てはまらない	1139	6.6	6.6
	3 まあ当てはまる	7383	42.7	42.8
	4 当てはまる	8422	48.7	48.9
	99 無回答、判別不能等	40	0.2	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(コ)	私は、クラスの人々を、気にかけている。			
選択肢	1 当てはまらない	468	2.7	2.7
	2 あまり当てはまらない	2110	12.2	12.3
	3 まあ当てはまる	7910	45.8	45.9
	4 当てはまる	6730	39.0	39.1
	99 無回答、判別不能等	58	0.3	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(コ)	私は、クラスの人々とお互いに、仲良くしている。			
選択肢	1 当てはまらない	350	2.0	2.0
	2 あまり当てはまらない	1048	6.1	6.1
	3 まあ当てはまる	5985	34.6	34.7
	4 当てはまる	9854	57.0	57.2
	99 無回答、判別不能等	39	0.2	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(シ)	私は、クラスの人々と一緒にいるとき、相手の気持ちを考えて行動している。			
選択肢	1 当てはまらない	237	1.4	1.4
	2 あまり当てはまらない	1116	6.5	6.5
	3 まあ当てはまる	7632	44.2	44.3
	4 当てはまる	8255	47.8	47.9
	99 無回答、判別不能等	36	0.2	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(ス)	私は、自分がされていやなことは、クラスの人にしないようにしている。			
選択肢	1 当てはまらない	271	1.6	1.6
	2 あまり当てはまらない	1083	6.3	6.3
	3 まあ当てはまる	6720	38.9	39.0
	4 当てはまる	9158	53.0	53.1
	99 無回答、判別不能等	44	0.3	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(セ)	私は、クラスの人が困っているとき、相手を助けている。			
選択肢	1 当てはまらない	380	2.2	2.2
	2 あまり当てはまらない	1974	11.4	11.5
	3 まあ当てはまる	8045	46.6	46.8
	4 当てはまる	6805	39.4	39.6
	99 無回答、判別不能等	72	0.4	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(ソ)	私は、いじめられている生徒がいたら、先生や学校の大人に伝える。			
選択肢	1 当てはまらない	1081	6.3	6.3
	2 あまり当てはまらない	3345	19.4	19.4
	3 まあ当てはまる	6526	37.8	37.9
	4 当てはまる	6251	36.2	36.3
	99 無回答、判別不能等	73	0.4	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q01(タ)	私は、いじめが起きていることを見たら、いじめを止めようとする。			
選択肢	1 当てはまらない	987	5.7	5.7
	2 あまり当てはまらない	4030	23.3	23.4
	3 まあ当てはまる	7016	40.6	40.8
	4 当てはまる	5173	29.9	30.1
	99 無回答、判別不能等	70	0.4	-
合計		17276	100	100

Q02 あなたは、今の学年になってから、次のア～ウのそれぞれについて、どのくらい当てはまると思いますか。「よくあった」から「まったくなかった」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q02(ア)	自分（自分たち）のしたことで、他の人に喜んでもらった。			
選択肢	1 よくあった	5854	33.9	34.3
	2 少しあった	8354	48.4	48.9
	3 あまりなかった	1773	10.3	10.4
	4 まったくなかった	1103	6.4	6.5
	99 無回答、判別不能等	192	1.1	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q02(イ)	自分（自分たち）のしたことで、他の人から感謝された。			
選択肢	1 よくあった	6267	36.3	36.7
	2 少しあった	7920	45.8	46.4
	3 あまりなかった	1771	10.3	10.4
	4 まったくなかった	1119	6.5	6.6
	99 無回答、判別不能等	199	1.2	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q02(ウ)自分(自分たち)のしたことで、他の人の役に立った。			
選択肢	1 よくあった	5623	32.5	32.9
	2 少しあった	8253	47.8	48.3
	3 あまりなかった	2126	12.3	12.5
	4 まったくなかった	1071	6.2	6.3
	99 無回答、判別不能等	203	1.2	-
合計		17276	100	100

Q03 あなたは、次のア～スのそれぞれについて、どのくらい当てはまると思いますか。「当てはまる」から「当てはまらない」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q03(ア)私は、この学校の校則や学校・クラスのきまりについて、よく理解している。			
選択肢	1 当てはまらない	462	2.7	2.7
	2 あまり当てはまらない	1400	8.1	8.2
	3 まあ当てはまる	7348	42.5	43.0
	4 当てはまる	7868	45.5	46.1
	99 無回答、判別不能等	198	1.1	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q03(イ)私は、挨拶や時間を守ること、役割を守ること等、礼儀やマナー、責任感の大切さについて、理解して、行動している。			
選択肢	1 当てはまらない	310	1.8	1.8
	2 あまり当てはまらない	1136	6.6	6.7
	3 まあ当てはまる	7014	40.6	41.1
	4 当てはまる	8611	49.8	50.4
	99 無回答、判別不能等	205	1.2	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q03(ウ)この学校の先生は、私のことを気にかけてくれる。			
選択肢	1 当てはまらない	635	3.7	3.7
	2 あまり当てはまらない	2295	13.3	13.5
	3 まあ当てはまる	7970	46.1	46.8
	4 当てはまる	6119	35.4	36.0
	99 無回答、判別不能等	257	1.5	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q03(エ)この学校の先生は、私の話をよく聞いてくれる。			
選択肢	1 当てはまらない	708	4.1	4.2
	2 あまり当てはまらない	2252	13.0	13.2
	3 まあ当てはまる	7569	43.8	44.4
	4 当てはまる	6521	37.7	38.2
	99 無回答、判別不能等	226	1.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q03(オ)この学校の先生は、私が何か言いたいことがあるときに、相談にのってくれる。			
選択肢	1 当てはまらない	788	4.6	4.6
	2 あまり当てはまらない	2429	14.1	14.3
	3 まあ当てはまる	7299	42.2	42.8
	4 当てはまる	6519	37.7	38.3
	99 無回答、判別不能等	241	1.4	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q03(カ)この学校の先生は、公平に接してくれる。				
選択肢	1 当てはまらない	1645	9.5	9.7
	2 あまり当てはまらない	3388	19.6	19.9
	3 まあ当てはまる	6551	37.9	38.4
	4 当てはまる	5459	31.6	32.0
	99 無回答、判別不能等	233	1.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q03(キ)この学校の先生の授業は、わかりやすく、おもしろい。				
選択肢	1 当てはまらない	788	4.6	4.6
	2 あまり当てはまらない	2922	16.9	17.1
	3 まあ当てはまる	7924	45.9	46.5
	4 当てはまる	5409	31.3	31.7
	99 無回答、判別不能等	233	1.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q03(ク)この学校の先生の授業は、学習への興味や意欲を引き起こしてくれる。				
選択肢	1 当てはまらない	1074	6.2	6.3
	2 あまり当てはまらない	4019	23.3	23.6
	3 まあ当てはまる	7848	45.4	46.0
	4 当てはまる	4110	23.8	24.1
	99 無回答、判別不能等	225	1.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q03(ケ)この学校の先生は、授業でつまずいたときに、わかるように、手助けしてくれる。				
選択肢	1 当てはまらない	760	4.4	4.5
	2 あまり当てはまらない	2599	15.0	15.2
	3 まあ当てはまる	7910	45.8	46.4
	4 当てはまる	5792	33.5	33.9
	99 無回答、判別不能等	215	1.2	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q03(コ)この学校の先生は、校則や学校・クラスのきまりを守らない人に対して、きちんと注意、指導してくれる。				
選択肢	1 当てはまらない	518	3.0	3.0
	2 あまり当てはまらない	1425	8.2	8.3
	3 まあ当てはまる	5787	33.5	33.9
	4 当てはまる	9340	54.1	54.7
	99 無回答、判別不能等	206	1.2	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q03(サ)この学校の先生は、冷やかしやからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意、指導してくれる。				
選択肢	1 当てはまらない	708	4.1	4.2
	2 あまり当てはまらない	1874	10.8	11.0
	3 まあ当てはまる	6228	36.1	36.5
	4 当てはまる	8238	47.7	48.3
	99 無回答、判別不能等	228	1.3	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q03(シ)	この学校の先生は、暴力があったときに、きちんと注意、指導してくれる。			
選択肢	1 当てはまらない	486	2.8	2.9
	2 あまり当てはまらない	1036	6.0	6.1
	3 まあ当てはまる	5353	31.0	31.4
	4 当てはまる	10147	58.7	59.6
	99 無回答、判別不能等	254	1.5	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q03(ス)	この学校の先生は、いじめがあったときに、きちんと注意、指導してくれる。			
選択肢	1 当てはまらない	596	3.4	3.5
	2 あまり当てはまらない	1262	7.3	7.4
	3 まあ当てはまる	5261	30.5	30.9
	4 当てはまる	9900	57.3	58.2
	99 無回答、判別不能等	257	1.5	-
合計		17276	100	100

Q04 あなたのクラスは、次のア～カのそれぞれについて、どのくらい当てはまると思いますか。「当てはまる」から「当てはまらない」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q04(ア)	私のクラスは、居心地がよい。			
選択肢	1 当てはまらない	956	5.5	5.6
	2 あまり当てはまらない	2272	13.2	13.3
	3 まあ当てはまる	6377	36.9	37.3
	4 当てはまる	7475	43.3	43.8
	99 無回答、判別不能等	196	1.1	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q04(イ)	私のクラスは、ルールや規則が守られている。			
選択肢	1 当てはまらない	824	4.8	4.8
	2 あまり当てはまらない	3222	18.7	18.9
	3 まあ当てはまる	8030	46.5	47.0
	4 当てはまる	4992	28.9	29.2
	99 無回答、判別不能等	208	1.2	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q04(ウ)	私のクラスは、お互いのことを大切にしている。			
選択肢	1 当てはまらない	668	3.9	3.9
	2 あまり当てはまらない	2370	13.7	13.9
	3 まあ当てはまる	7203	41.7	42.2
	4 当てはまる	6815	39.4	40.0
	99 無回答、判別不能等	220	1.3	-
合計		17276	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q04(エ)	私のクラスは、お互いに、協力でき、まとまりがある。			
選択肢	1 当てはまらない	740	4.3	4.3
	2 あまり当てはまらない	2522	14.6	14.8
	3 まあ当てはまる	6830	39.5	40.0
	4 当てはまる	6970	40.3	40.9
	99 無回答、判別不能等	214	1.2	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q04(オ)私のクラスは、お互いに、よく勉強を教え合ったりしている。			
選択肢	1 当てはまらない	675	3.9	4.0
	2 あまり当てはまらない	2324	13.5	13.6
	3 まあ当てはまる	6718	38.9	39.4
	4 当てはまる	7351	42.6	43.1
	99 無回答、判別不能等	208	1.2	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q04(カ)私のクラスは、勉強に集中できる環境である。			
選択肢	1 当てはまらない	1753	10.1	10.3
	2 あまり当てはまらない	4348	25.2	25.5
	3 まあ当てはまる	7205	41.7	42.2
	4 当てはまる	3763	21.8	22.0
	99 無回答、判別不能等	207	1.2	-
合計		17276	100	100

Q05 あなたは、次のア～シのそれぞれについて、どのくらい当てはまると感じますか。「当てはまる」から「当てはまらない」までの四つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q05(ア)私は、クラスの中で、人気がある。			
選択肢	1 当てはまらない	3833	22.2	22.9
	2 あまり当てはまらない	7116	41.2	42.6
	3 まあ当てはまる	4871	28.2	29.1
	4 当てはまる	892	5.2	5.3
	99 無回答、判別不能等	564	3.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q05(イ)私が仲良くしているグループは、クラスの中で、人気がある。			
選択肢	1 当てはまらない	2404	13.9	14.4
	2 あまり当てはまらない	5007	29.0	30.0
	3 まあ当てはまる	6487	37.5	38.9
	4 当てはまる	2776	16.1	16.6
	99 無回答、判別不能等	602	3.5	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q05(ウ)私は、クラスの中のどの人に対しても、自分の意見をはっきりと主張できる。			
選択肢	1 当てはまらない	1816	10.5	10.7
	2 あまり当てはまらない	4582	26.5	27.0
	3 まあ当てはまる	6018	34.8	35.4
	4 当てはまる	4563	26.4	26.9
	99 無回答、判別不能等	297	1.7	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q05(エ)私は、クラスの中で、自己主張することは難しいと感じる。			
選択肢	1 当てはまらない	3503	20.3	20.6
	2 あまり当てはまらない	5045	29.2	29.7
	3 まあ当てはまる	5172	29.9	30.5
	4 当てはまる	3255	18.8	19.2
	99 無回答、判別不能等	301	1.7	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q05(オ)私は、クラスの中で、自分が言いたいことを相手に言い返せずに、我慢することがよくある。				
選択肢	1 当てはまらない	3632	21.0	21.3
	2 あまり当てはまらない	5565	32.2	32.7
	3 まあ当てはまる	4874	28.2	28.6
	4 当てはまる	2944	17.0	17.3
	99 無回答、判別不能等	261	1.5	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q05(カ)私は、クラスの中で、いらいらすることがよくある。				
選択肢	1 当てはまらない	4351	25.2	25.5
	2 あまり当てはまらない	5620	32.5	33.0
	3 まあ当てはまる	4363	25.3	25.6
	4 当てはまる	2708	15.7	15.9
	99 無回答、判別不能等	234	1.4	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q05(キ)私は、クラスの中で、いやな気持ちになることがよくある。				
選択肢	1 当てはまらない	5245	30.4	30.8
	2 あまり当てはまらない	6177	35.8	36.2
	3 まあ当てはまる	3566	20.6	20.9
	4 当てはまる	2068	12.0	12.1
	99 無回答、判別不能等	220	1.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q05(ク)私は、クラスの中で、頭にくる(カッとなる)ことがよくある。				
選択肢	1 当てはまらない	5704	33.0	33.4
	2 あまり当てはまらない	5991	34.7	35.1
	3 まあ当てはまる	3315	19.2	19.4
	4 当てはまる	2045	11.8	12.0
	99 無回答、判別不能等	221	1.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q05(ケ)私は、クラスの中で、他の人に攻撃的な気持ちになることがよくある。				
選択肢	1 当てはまらない	7298	42.2	42.8
	2 あまり当てはまらない	5998	34.7	35.2
	3 まあ当てはまる	2518	14.6	14.8
	4 当てはまる	1231	7.1	7.2
	99 無回答、判別不能等	231	1.3	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q05(コ)私は、クラスの中にいるとストレスがたまる。				
選択肢	1 当てはまらない	7532	43.6	44.2
	2 あまり当てはまらない	5651	32.7	33.2
	3 まあ当てはまる	2378	13.8	14.0
	4 当てはまる	1482	8.6	8.7
	99 無回答、判別不能等	233	1.3	-
合計		17276	100	100



設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q05(サ)私は、学校にいるとつかれる。			
選択肢	1 当てはまらない	6259	36.2	36.7
	2 あまり当てはまらない	5077	29.4	29.8
	3 まあ当てはまる	3372	19.5	19.8
	4 当てはまる	2354	13.6	13.8
	99 無回答、判別不能等	214	1.2	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q05(シ)私は、学校を休みたいと思うことがよくある。			
選択肢	1 当てはまらない	7335	42.5	43.0
	2 あまり当てはまらない	4635	26.8	27.2
	3 まあ当てはまる	2786	16.1	16.3
	4 当てはまる	2315	13.4	13.6
	99 無回答、判別不能等	205	1.2	-
合計		17276	100	100

Q06 あなたは、今の学年になってから、次のようなことを学校の友達のだれかからどのくらいされましたか。次のア～クのそれぞれについて、五つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q06(ア)仲間はづれにされたり、無視されたり、影で悪口を言われたりした。			
選択肢	1 ぜんぜんされなかった	12354	71.5	72.1
	2 今までに1～2回くらい	3270	18.9	19.1
	3 1か月に2～3回くらい	742	4.3	4.3
	4 1週間に1回くらい	359	2.1	2.1
	5 1週間に何度も	408	2.4	2.4
	99 無回答、判別不能等	143	0.8	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q06(イ)からかわれたり、冷やかされたり、悪口やおどし文句、いやなことを言われたりした。			
選択肢	1 ぜんぜんされなかった	12381	71.7	72.3
	2 今までに1～2回くらい	2842	16.5	16.6
	3 1か月に2～3回くらい	800	4.6	4.7
	4 1週間に1回くらい	458	2.7	2.7
	5 1週間に何度も	654	3.8	3.8
	99 無回答、判別不能等	141	0.8	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q06(ウ)軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして、たたかれたり、けられたりした。			
選択肢	1 ぜんぜんされなかった	14482	83.8	84.6
	2 今までに1～2回くらい	1649	9.5	9.6
	3 1か月に2～3回くらい	451	2.6	2.6
	4 1週間に1回くらい	255	1.5	1.5
	5 1週間に何度も	286	1.7	1.7
	99 無回答、判別不能等	153	0.9	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q06(エ)ひどくぶつかわれたり、たたかれたり、けられたりした。			
設問文				
選択肢	1 ぜんぜんされなかった	16040	92.8	93.6
	2 今までに1～2回くらい	711	4.1	4.1
	3 1か月に2～3回くらい	157	0.9	0.9
	4 1週間に1回くらい	96	0.6	0.6
	5 1週間に何度も	141	0.8	0.8
	99 無回答、判別不能等	131	0.8	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q06(オ)お金や物をとりあげられたり、物を買わされたりした。			
設問文				
選択肢	1 ぜんぜんされなかった	16781	97.1	97.8
	2 今までに1～2回くらい	277	1.6	1.6
	3 1か月に2～3回くらい	50	0.3	0.3
	4 1週間に1回くらい	18	0.1	0.1
	5 1週間に何度も	36	0.2	0.2
	99 無回答、判別不能等	114	0.7	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q06(カ)物を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりした。			
設問文				
選択肢	1 ぜんぜんされなかった	15893	92.0	92.6
	2 今までに1～2回くらい	1006	5.8	5.9
	3 1か月に2～3回くらい	145	0.8	0.8
	4 1週間に1回くらい	51	0.3	0.3
	5 1週間に何度も	62	0.4	0.4
	99 無回答、判別不能等	119	0.7	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q06(キ)いやなことや恥ずかしいこと、危険なことを、されたり、させられたりした。			
設問文				
選択肢	1 ぜんぜんされなかった	16169	93.6	94.3
	2 今までに1～2回くらい	717	4.2	4.2
	3 1か月に2～3回くらい	122	0.7	0.7
	4 1週間に1回くらい	55	0.3	0.3
	5 1週間に何度も	91	0.5	0.5
	99 無回答、判別不能等	122	0.7	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q06(ク)パソコンやスマートフォン、携帯電話などで、いやなことをされた。			
設問文				
選択肢	1 ぜんぜんされなかった	16212	93.8	94.5
	2 今までに1～2回くらい	762	4.4	4.4
	3 1か月に2～3回くらい	99	0.6	0.6
	4 1週間に1回くらい	26	0.2	0.2
	5 1週間に何度も	56	0.3	0.3
	99 無回答、判別不能等	121	0.7	-
合計		17276	100	100

Q07 あなたは、今の学年になってから、次のようなことを学校の友達のだれかに対して、どのくらいしましたか。次のア～クのそれぞれについて、五つの中から、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q07(ア)仲間はずれにしたり、無視したり、影で悪口を言ったりした。			
選択肢	1 ぜんぜんしなかった	13087	75.8	76.4
	2 今までに1～2回くらい	2792	16.2	16.3
	3 1か月に2～3回くらい	712	4.1	4.2
	4 1週間に1回くらい	318	1.8	1.9
	5 1週間に何度も	226	1.3	1.3
	99 無回答、判別不能等	141	0.8	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q07(イ)からかったり、冷やかしたり、悪口やおどし文句、いやなことを言ったりした。			
選択肢	1 ぜんぜんしなかった	13880	80.3	81.0
	2 今までに1～2回くらい	2220	12.9	13.0
	3 1か月に2～3回くらい	543	3.1	3.2
	4 1週間に1回くらい	273	1.6	1.6
	5 1週間に何度も	221	1.3	1.3
	99 無回答、判別不能等	139	0.8	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q07(ウ)軽くぶつかったり、遊ぶふりをして、たたいたり、けったりした。			
選択肢	1 ぜんぜんしなかった	15171	87.8	88.5
	2 今までに1～2回くらい	1340	7.8	7.8
	3 1か月に2～3回くらい	329	1.9	1.9
	4 1週間に1回くらい	150	0.9	0.9
	5 1週間に何度も	151	0.9	0.9
	99 無回答、判別不能等	135	0.8	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q07(エ)ひどくぶつかったり、たたいたり、けったりした。			
選択肢	1 ぜんぜんしなかった	16499	95.5	96.2
	2 今までに1～2回くらい	431	2.5	2.5
	3 1か月に2～3回くらい	111	0.6	0.6
	4 1週間に1回くらい	46	0.3	0.3
	5 1週間に何度も	63	0.4	0.4
	99 無回答、判別不能等	126	0.7	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号 設問文	Q07(オ)お金や物をとりあげたり、物を買わせたりした。			
選択肢	1 ぜんぜんしなかった	16992	98.4	99.1
	2 今までに1～2回くらい	107	0.6	0.6
	3 1か月に2～3回くらい	24	0.1	0.1
	4 1週間に1回くらい	7	0.0	0.0
	5 1週間に何度も	23	0.1	0.1
	99 無回答、判別不能等	123	0.7	-
合計		17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q07(カ)物を隠したり、盗んだり、壊したり、捨てたりした。			
設問文				
選択肢	1 ぜんぜんしなかった	16685	96.6	97.3
	2 今までに1～2回くらい	346	2.0	2.0
	3 1か月に2～3回くらい	64	0.4	0.4
	4 1週間に1回くらい	24	0.1	0.1
	5 1週間に何度も	26	0.2	0.2
	99 無回答、判別不能等	131	0.8	-
	合計	17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q07(キ)いやなことや恥ずかしいこと、危険なことを、(友達に対して)したり、させたりした。			
設問文				
選択肢	1 ぜんぜんしなかった	16811	97.3	98.0
	2 今までに1～2回くらい	270	1.6	1.6
	3 1か月に2～3回くらい	41	0.2	0.2
	4 1週間に1回くらい	9	0.1	0.1
	5 1週間に何度も	22	0.1	0.1
	99 無回答、判別不能等	123	0.7	-
	合計	17276	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q07(ク)パソコンやスマートフォン、携帯電話などで、いやなことをした。			
設問文				
選択肢	1 ぜんぜんしなかった	16816	97.3	98.0
	2 今までに1～2回くらい	271	1.6	1.6
	3 1か月に2～3回くらい	30	0.2	0.2
	4 1週間に1回くらい	11	0.1	0.1
	5 1週間に何度も	25	0.1	0.1
	99 無回答、判別不能等	123	0.7	-
	合計	17276	100	100

## 「中学校教員用質問調査票」基礎集計表

### I 全ての教員の方にお尋ねします。

Q01 学校名を記入してください。

40校について1から40の番号を割り当てて掲載。

設問番号 設問文	Q01学校名を記入し てください。	件数	割合(%)
	1 中学校	52	5.2
	2 中学校	14	1.4
	3 中学校	27	2.7
	4 中学校	21	2.1
	5 中学校	27	2.7
	6 中学校	27	2.7
	7 中学校	24	2.4
	8 中学校	52	5.2
	9 中学校	27	2.7
	10中学校	27	2.7
	11中学校	19	1.9
	12中学校	11	1.1
	13中学校	38	3.8
	14中学校	27	2.7
	15中学校	28	2.8
	16中学校	20	2.0
	17中学校	14	1.4
	18中学校	35	3.5
	19中学校	18	1.8
	20中学校	31	3.1
	21中学校	34	3.4
	22中学校	23	2.3
	23中学校	25	2.5
	24中学校	16	1.6
	25中学校	17	1.7
	26中学校	38	3.8
	27中学校	22	2.2
	28中学校	10	1.0
	29中学校	28	2.8
	30中学校	23	2.3
	31中学校	13	1.3
	32中学校	28	2.8
	33中学校	17	1.7
	34中学校	13	1.3
	35中学校	37	3.7
	36中学校	27	2.7
	37中学校	13	1.3
	38中学校	30	3.0
	39中学校	24	2.4
	40中学校	15	1.5
	合計	992	100

Q02 あなたの年齢（令和2年3月31日現在）を以下に数字で記入してください。

年齢を5歳ごとに区切り掲載。

設問番号 設問文	Q02 あなたの年齢（令和2年3月31日現在）を以下に数字で記入してください。 （※99は無回答、判別不能等）	件数	割合(%)	割合(%) （無回答等除く）
	25歳以下	81	8.2	8.2
	26歳以上30歳以下	164	16.5	16.7
	31歳以上35歳以下	145	14.6	14.8
	36歳以上40歳以下	93	9.4	9.5
	41歳以上45歳以下	78	7.9	7.9
	46歳以上50歳以下	109	11.0	11.1
	51歳以上55歳以下	119	12.0	12.1
	56歳以上60歳以下	147	14.8	15.0
	61歳以上	46	4.6	4.7
	無回答、判別不能等	10	1.0	-
合計		992	100	100

Q03 あなたの本校における現在の雇用形態について、該当するものに一つ〇を付けてください。「4 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。

設問番号 設問文	Q03 あなたの本校における現在の雇用形態について、該当するものに一つ〇を付けてください。「4 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。	件数	割合(%)	割合(%) （無回答等除く）
選択肢	1 常勤（正規）	804	81.0	81.4
	2 講師又は臨時的任用教員（フルタイム）	146	14.7	14.8
	3 再任用（フルタイム）	35	3.5	3.5
	4 その他	3	0.3	0.3
	99 無回答、判別不能等	4	0.4	-
合計		992	100	100

Q04 あなたの本校における職階について、該当するものに一つ〇を付けてください。「8 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。

設問番号 設問文	Q04 あなたの本校における職階について、該当するものに一つ〇を付けてください。「8 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。	件数	割合(%)	割合(%) （無回答等除く）
選択肢	1 主幹教諭	10	1.0	1.0
	2 指導教諭	2	0.2	0.2
	3 教諭	783	78.9	79.3
	4 講師	142	14.3	14.4
	5 養護教諭	37	3.7	3.7
	6 養護助教諭	6	0.6	0.6
	7 栄養教諭	5	0.5	0.5
	8 その他	2	0.2	0.2
	99 無回答、判別不能等	5	0.5	-
合計		992	100	100

Q05 あなたの教員としての勤務年数は何年ですか（令和2年3月31日現在として算出）。数字を記入してください。なお、教員としての勤務年数には、公立学校の教員としての勤務年数のほか、国立大学法人の附属学校や私立学校での教員としての勤務年数を含みます。民間の教育機関（学習塾等）の勤務年数は含みません。該当しない場合は、0と記入してください。

経験年数を5年ごとに区切り表示。年数の単位のみ用い、月の単位については切り捨てた。以下はQ05(1)について掲載。Q05(2)とQ05(3)は掲載割愛。

設問番号 設問文	Q05(1)常勤年数	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
	5年以下	321	32.4	32.5
	6年以上10年以下	131	13.2	13.3
	11年以上15年以下	94	9.5	9.5
	16年以上20年以下	67	6.8	6.8
	21年以上25年以下	63	6.4	6.4
	26年以上30年以下	101	10.2	10.2
	31年以上35年以下	127	12.8	12.9
	36年以上	84	8.5	8.5
	無回答、判別不能等	4	0.4	-
	合計	992	100	100

Q06 あなたの本校における校務分掌上の役職や役割について、以下、該当するものに全て○を付けてください。「20その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。

設問番号 設問文	Q06 あなたの本校における校務分掌上の役職や役割について、以下、該当するものに全て○を付けてください。	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
選択肢	1 教務主任	37	3.7	3.8
	2 教務担当	26	2.6	2.7
	3 生徒指導主事・主任	38	3.8	3.9
	4 生徒指導担当	110	11.1	11.3
	5 学年主任	109	11.0	11.2
	6 学年副主任	51	5.1	5.2
	7 教育相談主任	20	2.0	2.1
	8 教育相談担当	46	4.6	4.7
	9 研究・研修主任	45	4.5	4.6
	10 保健主事・主任	38	3.8	3.9
	11 特別活動主任	33	3.3	3.4
	12 進路指導主事・主任	28	2.8	2.9
	13 進路指導担当	23	2.3	2.4
	14 体育主任	37	3.7	3.8
	15 道徳主任（道徳教育推進教師）	38	3.8	3.9
	16 特別支援教育コーディネーター	48	4.8	4.9
	17 学級担任	454	45.8	46.6
	18 学級副担任	194	19.6	19.9
	19 特別支援学級担任	104	10.5	10.7
	20 その他	113	11.4	11.6
	21 上記の役割や役職についていない	21	2.1	2.2
99 無回答、判別不能等	18	1.8	-	
回答者数		974	-	-

Q07 あなたが本校において、校務分掌上、所属している部や委員会等について、以下、該当するものに全て○を付けてください。「25 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。

設問番号 設問文	Q07 あなたが本校において、校務分掌上、所属している部や委員会等について、以下、該当するものに <u>全て○</u> を付けてください。	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
選択肢	1 1 学年	263	26.5	27.0
	2 2 学年	262	26.4	26.9
	3 3 学年	278	28.0	28.6
	4 教務	83	8.4	8.5
	5 生徒指導	178	17.9	18.3
	6 教育相談	92	9.3	9.5
	7 進路指導	72	7.3	7.4
	8 特別支援教育	188	19.0	19.3
	9 研究・研修	117	11.8	12.0
	10 保健	61	6.1	6.3
	11 国語	102	10.3	10.5
	12 社会	92	9.3	9.5
	13 数学	125	12.6	12.8
	14 理科	117	11.8	12.0
	15 音楽	38	3.8	3.9
	16 美術	35	3.5	3.6
	17 保健体育	104	10.5	10.7
	18 技術・家庭	64	6.5	6.6
	19 外国語	124	12.5	12.7
	20 道徳	98	9.9	10.1
	21 特別活動	102	10.3	10.5
	22 総合的な学習の時間	129	13.0	13.3
	23 総務・管理（渉外含む）	8	0.8	0.8
	24 その他	52	5.2	5.3
	25 上記の部（委員会等）に所属していない	5	0.5	0.5
99 無回答、判別不能等	19	1.9	-	
回答者数		973	-	-

## II 全ての方にお尋ねします。

Q08 あなた自身について、以下のことがどの程度当てはまりますか。（1）～（10）のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。

設問番号 設問文	Q08(1)この学校での仕事に、満足している。	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
選択肢	1 当てはまらない	39	3.9	4.0
	2 あまり当てはまらない	169	17.0	17.2
	3 まあ当てはまる	518	52.2	52.9
	4 当てはまる	254	25.6	25.9
	99 無回答、判別不能等	12	1.2	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文	Q08(2)この学校での仕事に、誇りを感じている。	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
選択肢	1 当てはまらない	26	2.6	2.7
	2 あまり当てはまらない	160	16.1	16.3
	3 まあ当てはまる	518	52.2	52.9
	4 当てはまる	276	27.8	28.2
	99 無回答、判別不能等	12	1.2	-
合計		992	100	100



設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(3)この学校での仕事に、やる気を感じている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	29	2.9	3.0
	2 あまり当てはまらない	181	18.2	18.5
	3 まあ当てはまる	515	51.9	52.7
	4 当てはまる	252	25.4	25.8
	99 無回答、判別不能等	15	1.5	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(4)この学校の教職員から、生徒への接し方や指導・支援の仕方について学ぶことが多い。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	23	2.3	2.3
	2 あまり当てはまらない	170	17.1	17.4
	3 まあ当てはまる	475	47.9	48.5
	4 当てはまる	311	31.4	31.8
	99 無回答、判別不能等	13	1.3	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(5)この学校の教職員から、教科の指導の仕方について学ぶことが多い。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	59	5.9	6.0
	2 あまり当てはまらない	283	28.5	29.0
	3 まあ当てはまる	439	44.3	44.9
	4 当てはまる	196	19.8	20.1
	99 無回答、判別不能等	15	1.5	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(6)この学校の教職員から、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の方法について学ぶことが多い。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	26	2.6	2.7
	2 あまり当てはまらない	254	25.6	26.0
	3 まあ当てはまる	506	51.0	51.8
	4 当てはまる	190	19.2	19.5
	99 無回答、判別不能等	16	1.6	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(7)この学校の教職員から、学級経営について学ぶことが多い。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	32	3.2	3.3
	2 あまり当てはまらない	255	25.7	26.1
	3 まあ当てはまる	491	49.5	50.2
	4 当てはまる	200	20.2	20.4
	99 無回答、判別不能等	14	1.4	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(8)この学校の教職員から、学年での取組について学ぶことが多い。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	33	3.3	3.4
	2 あまり当てはまらない	197	19.9	20.2
	3 まあ当てはまる	511	51.5	52.4
	4 当てはまる	234	23.6	24.0
	99 無回答、判別不能等	17	1.7	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(9)	この学校の教職員から、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことが多い。			
選択肢	1 当てはまらない	29	2.9	3.0
	2 あまり当てはまらない	197	19.9	20.1
	3 まあ当てはまる	527	53.1	53.8
	4 当てはまる	226	22.8	23.1
	99 無回答、判別不能等	13	1.3	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(10)	この学校の教職員から、生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことが多い。			
選択肢	1 当てはまらない	19	1.9	1.9
	2 あまり当てはまらない	183	18.4	18.7
	3 まあ当てはまる	524	52.8	53.5
	4 当てはまる	253	25.5	25.8
	99 無回答、判別不能等	13	1.3	-
合計		992	100	100

Q09 あなたの学校の教職員について、以下のことがどの程度当てはまりますか。(1)～(25)のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(1)	生徒のことをよく気にかけている。			
選択肢	1 当てはまらない	4	0.4	0.4
	2 あまり当てはまらない	47	4.7	4.8
	3 まあ当てはまる	553	55.7	56.5
	4 当てはまる	374	37.7	38.2
	99 無回答、判別不能等	14	1.4	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(2)	生徒の話をよく聞いている。			
選択肢	1 当てはまらない	4	0.4	0.4
	2 あまり当てはまらない	76	7.7	7.8
	3 まあ当てはまる	586	59.1	59.9
	4 当てはまる	312	31.5	31.9
	99 無回答、判別不能等	14	1.4	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(3)	生徒の相談に、いつも誠実に向き合っている。			
選択肢	1 当てはまらない	3	0.3	0.3
	2 あまり当てはまらない	49	4.9	5.0
	3 まあ当てはまる	572	57.7	58.5
	4 当てはまる	354	35.7	36.2
	99 無回答、判別不能等	14	1.4	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(4)	生徒に公平に接している。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	7	0.7	0.7
	2 あまり当てはまらない	84	8.5	8.6
	3 まあ当てはまる	565	57.0	57.9
	4 当てはまる	319	32.2	32.7
	99 無回答、判別不能等	17	1.7	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(5)	校則や学校・クラスのきまりを、共通理解している。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	20	2.0	2.0
	2 あまり当てはまらない	186	18.8	19.1
	3 まあ当てはまる	570	57.5	58.4
	4 当てはまる	200	20.2	20.5
	99 無回答、判別不能等	16	1.6	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(6)	校則や学校・クラスのきまりを、生徒に、明確に伝えている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	11	1.1	1.1
	2 あまり当てはまらない	180	18.1	18.4
	3 まあ当てはまる	574	57.9	58.8
	4 当てはまる	212	21.4	21.7
	99 無回答、判別不能等	15	1.5	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(7)	生徒に対して、挨拶や時間を守ること、役割を守ること等、礼儀やマナー、責任の大切さについて、指導を徹底している。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	13	1.3	1.3
	2 あまり当てはまらない	159	16.0	16.2
	3 まあ当てはまる	534	53.8	54.5
	4 当てはまる	274	27.6	28.0
	99 無回答、判別不能等	12	1.2	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(8)	校則や学校・クラスのきまりを守らない生徒に対して、きちんと注意や指導をしている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	10	1.0	1.0
	2 あまり当てはまらない	117	11.8	11.9
	3 まあ当てはまる	558	56.3	56.9
	4 当てはまる	295	29.7	30.1
	99 無回答、判別不能等	12	1.2	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(9)	冷やかしやからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意や指導をしている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	5	0.5	0.5
	2 あまり当てはまらない	82	8.3	8.4
	3 まあ当てはまる	517	52.1	52.8
	4 当てはまる	376	37.9	38.4
	99 無回答、判別不能等	12	1.2	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(10)	暴力があったときに、きちんと注意や指導をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	6	0.6	0.6
	2 あまり当てはまらない	19	1.9	1.9
	3 まあ当てはまる	407	41.0	41.5
	4 当てはまる	548	55.2	55.9
	99 無回答、判別不能等	12	1.2	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(11)	いじめがあったときに、きちんと注意や指導をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	4	0.4	0.4
	2 あまり当てはまらない	21	2.1	2.1
	3 まあ当てはまる	387	39.0	39.5
	4 当てはまる	568	57.3	58.0
	99 無回答、判別不能等	12	1.2	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(12)	わかりやすく、丁寧な授業を行っている。			
選択肢	1 当てはまらない	6	0.6	0.6
	2 あまり当てはまらない	74	7.5	7.6
	3 まあ当てはまる	674	67.9	69.0
	4 当てはまる	223	22.5	22.8
	99 無回答、判別不能等	15	1.5	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(13)	学習への興味や意欲を引き起こすように工夫した授業を行っている。			
選択肢	1 当てはまらない	8	0.8	0.8
	2 あまり当てはまらない	104	10.5	10.7
	3 まあ当てはまる	665	67.0	68.2
	4 当てはまる	198	20.0	20.3
	99 無回答、判別不能等	17	1.7	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(14)	授業についていくことが難しい生徒がいたときに、何かしらの支援や手立てを行っている。			
選択肢	1 当てはまらない	12	1.2	1.2
	2 あまり当てはまらない	235	23.7	24.1
	3 まあ当てはまる	567	57.2	58.1
	4 当てはまる	162	16.3	16.6
	99 無回答、判別不能等	16	1.6	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q09(15)	教職員と管理職の関係は良好である。			
選択肢	1 当てはまらない	38	3.8	3.9
	2 あまり当てはまらない	123	12.4	12.6
	3 まあ当てはまる	528	53.2	54.0
	4 当てはまる	289	29.1	29.6
	99 無回答、判別不能等	14	1.4	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(16)教職員同士の関係は良好である。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	32	3.2	3.3
	2 あまり当てはまらない	160	16.1	16.3
	3 まあ当てはまる	570	57.5	58.2
	4 当てはまる	217	21.9	22.2
	99 無回答、判別不能等	13	1.3	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(17)教職員と生徒の関係は良好である。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	3	0.3	0.3
	2 あまり当てはまらない	69	7.0	7.1
	3 まあ当てはまる	717	72.3	73.3
	4 当てはまる	189	19.1	19.3
	99 無回答、判別不能等	14	1.4	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(18)教職員と保護者の関係は良好である。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	4	0.4	0.4
	2 あまり当てはまらない	117	11.8	12.0
	3 まあ当てはまる	756	76.2	77.4
	4 当てはまる	100	10.1	10.2
	99 無回答、判別不能等	15	1.5	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(19)この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識している。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	14	1.4	1.4
	2 あまり当てはまらない	197	19.9	20.1
	3 まあ当てはまる	625	63.0	63.8
	4 当てはまる	143	14.4	14.6
	99 無回答、判別不能等	13	1.3	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(20)この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針を意識して行動している。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	19	1.9	1.9
	2 あまり当てはまらない	250	25.2	25.6
	3 まあ当てはまる	587	59.2	60.0
	4 当てはまる	122	12.3	12.5
	99 無回答、判別不能等	14	1.4	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(21)お互いの仕事に対して、よい点を積極的に評価し、認め合っている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	31	3.1	3.2
	2 あまり当てはまらない	223	22.5	22.8
	3 まあ当てはまる	571	57.6	58.3
	4 当てはまる	154	15.5	15.7
	99 無回答、判別不能等	13	1.3	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(22)生徒のいじめについて、よく情報共有をしている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	8	0.8	0.8
	2 あまり当てはまらない	56	5.6	5.7
	3 まあ当てはまる	538	54.2	54.9
	4 当てはまる	378	38.1	38.6
	99 無回答、判別不能等	12	1.2	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(23)不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をしている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	10	1.0	1.0
	2 あまり当てはまらない	105	10.6	10.7
	3 まあ当てはまる	534	53.8	54.5
	4 当てはまる	331	33.4	33.8
	99 無回答、判別不能等	12	1.2	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(24)特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をしている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	10	1.0	1.0
	2 あまり当てはまらない	129	13.0	13.2
	3 まあ当てはまる	539	54.3	55.1
	4 当てはまる	301	30.3	30.7
	99 無回答、判別不能等	13	1.3	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q09(25)上記に該当しない生徒についても、よく情報共有をしている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	12	1.2	1.2
	2 あまり当てはまらない	144	14.5	14.7
	3 まあ当てはまる	590	59.5	60.4
	4 当てはまる	231	23.3	23.6
	99 無回答、判別不能等	15	1.5	-
合計		992	100	100

Ⅲ 学年に所属している方（学年主任・副主任、学級担任・副担任等）にお尋ねします。なお、学年に所属していない教員の方は、次の設問Ⅳへお進みください。

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q10 あなたが所属している学年は、第何学年ですか。該当するものに一つ○を付けてください。			
設問文				
選択肢	1 第1学年	265	26.7	30.5
	2 第2学年	257	25.9	29.6
	3 第3学年	264	26.6	30.4
	4 特別支援学級	68	6.9	7.8
	5 その他	15	1.5	1.7
	99 無回答、判別不能等	123	12.4	-
合計		992	100	100

Q11 あなたが所属している学年について、以下のことがどの程度当てはまりますか。(1)～(8)のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q11(1)生徒の学習意欲のばらつきに関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	6	0.6	0.7
	2 あまり当てはまらない	127	12.8	14.6
	3 まあ当てはまる	410	41.3	47.1
	4 当てはまる	328	33.1	37.7
	99 無回答、判別不能等	121	12.2	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q11(2)生徒の社会性に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	36	3.6	4.2
	2 あまり当てはまらない	295	29.7	34.0
	3 まあ当てはまる	374	37.7	43.1
	4 当てはまる	162	16.3	18.7
	99 無回答、判別不能等	125	12.6	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q11(3)発達上の特別なニーズを抱えている生徒に関する問題が大きい			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	26	2.6	3.0
	2 あまり当てはまらない	223	22.5	25.7
	3 まあ当てはまる	388	39.1	44.6
	4 当てはまる	232	23.4	26.7
	99 無回答、判別不能等	123	12.4	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q11(4)生徒の暴力に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	511	51.5	58.6
	2 あまり当てはまらない	284	28.6	32.6
	3 まあ当てはまる	66	6.7	7.6
	4 当てはまる	11	1.1	1.3
	99 無回答、判別不能等	120	12.1	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q11(5)生徒のいじめに関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	217	21.9	24.9
	2 あまり当てはまらない	425	42.8	48.7
	3 まあ当てはまる	206	20.8	23.6
	4 当てはまる	24	2.4	2.8
	99 無回答、判別不能等	120	12.1	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q11(6)生徒の不登校に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	44	4.4	5.1
	2 あまり当てはまらない	170	17.1	19.5
	3 まあ当てはまる	404	40.7	46.4
	4 当てはまる	253	25.5	29.0
	99 無回答、判別不能等	121	12.2	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q11(7)教職員と保護者との関係に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	135	13.6	15.5
	2 あまり当てはまらない	475	47.9	54.5
	3 まあ当てはまる	214	21.6	24.6
	4 当てはまる	47	4.7	5.4
	99 無回答、判別不能等	121	12.2	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q11(8)経済的な課題を抱えている生徒に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	144	14.5	16.5
	2 あまり当てはまらない	446	45.0	51.2
	3 まあ当てはまる	222	22.4	25.5
	4 当てはまる	59	5.9	6.8
	99 無回答、判別不能等	121	12.2	-
合計		992	100	100

Q12 **あなたが所属している学年について**、学年でどのように連携して働いていますか。(1)～(18)のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。なお、単学級(学年に一学級のみ)の教員の方は、よく連携する学年とのこととして○を付けてください。

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q12(1)ふだんから、学年内の教育活動の振り返りをしている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	25	2.5	2.9
	2 あまり当てはまらない	231	23.3	26.5
	3 まあ当てはまる	505	50.9	57.8
	4 当てはまる	112	11.3	12.8
	99 無回答、判別不能等	119	12.0	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q12(2)ふだんから、学年内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	30	3.0	3.4
	2 あまり当てはまらない	134	13.5	15.3
	3 まあ当てはまる	494	49.8	56.5
	4 当てはまる	216	21.8	24.7
	99 無回答、判別不能等	118	11.9	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q12(3)学年内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	16	1.6	1.8
	2 あまり当てはまらない	102	10.3	11.7
	3 まあ当てはまる	542	54.6	62.0
	4 当てはまる	214	21.6	24.5
	99 無回答、判別不能等	118	11.9	-
合計		992	100	100



設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q12(4)学年内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	26	2.6	3.0
	2 あまり当てはまらない	122	12.3	14.0
	3 まあ当てはまる	510	51.4	58.4
	4 当てはまる	216	21.8	24.7
	99 無回答、判別不能等	118	11.9	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q12(5)学年内で問題や課題が発生したときに、学年の教職員と協力して解決を試みている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	11	1.1	1.3
	2 あまり当てはまらない	52	5.2	5.9
	3 まあ当てはまる	417	42.0	47.7
	4 当てはまる	395	39.8	45.1
	99 無回答、判別不能等	117	11.8	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q12(6)学年内で教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	36	3.6	4.1
	2 あまり当てはまらない	132	13.3	15.1
	3 まあ当てはまる	507	51.1	57.9
	4 当てはまる	200	20.2	22.9
	99 無回答、判別不能等	117	11.8	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q12(7)学年内で教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	25	2.5	2.9
	2 あまり当てはまらない	144	14.5	16.5
	3 まあ当てはまる	510	51.4	58.4
	4 当てはまる	195	19.7	22.3
	99 無回答、判別不能等	118	11.9	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q12(8)学年内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	15	1.5	1.7
	2 あまり当てはまらない	61	6.1	7.0
	3 まあ当てはまる	454	45.8	51.9
	4 当てはまる	345	34.8	39.4
	99 無回答、判別不能等	117	11.8	-
合計		992	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q12(9)学年内で抱えている課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	9	0.9	1.0
	2 あまり当てはまらない	80	8.1	9.2
	3 まあ当てはまる	538	54.2	61.6
	4 当てはまる	247	24.9	28.3
	99 無回答、判別不能等	118	11.9	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q12(10)	学年内の課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。			
選択肢	1 当てはまらない	9	0.9	1.0
	2 あまり当てはまらない	102	10.3	11.7
	3 まあ当てはまる	555	55.9	63.4
	4 当てはまる	209	21.1	23.9
	99 無回答、判別不能等	117	11.8	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q12(11)	学年内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意識的につくっている。			
選択肢	1 当てはまらない	18	1.8	2.1
	2 あまり当てはまらない	131	13.2	15.0
	3 まあ当てはまる	474	47.8	54.2
	4 当てはまる	252	25.4	28.8
	99 無回答、判別不能等	117	11.8	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q12(12)	学年内の教職員が支援を必要としているとき、学年内の教職員同士で積極的に援助、助言している。			
選択肢	1 当てはまらない	9	0.9	1.0
	2 あまり当てはまらない	85	8.6	9.7
	3 まあ当てはまる	506	51.0	57.9
	4 当てはまる	274	27.6	31.4
	99 無回答、判別不能等	118	11.9	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q12(13)	ふだんから、学年内の教職員の人間関係が良好となるように行動している。			
選択肢	1 当てはまらない	14	1.4	1.6
	2 あまり当てはまらない	70	7.1	8.0
	3 まあ当てはまる	491	49.5	56.2
	4 当てはまる	299	30.1	34.2
	99 無回答、判別不能等	118	11.9	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q12(14)	学年の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。			
選択肢	1 当てはまらない	23	2.3	2.6
	2 あまり当てはまらない	96	9.7	11.0
	3 まあ当てはまる	466	47.0	53.3
	4 当てはまる	290	29.2	33.1
	99 無回答、判別不能等	117	11.8	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q12(15)	ふだんから、学年内の生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。			
選択肢	1 当てはまらない	3	0.3	0.3
	2 あまり当てはまらない	59	5.9	6.8
	3 まあ当てはまる	481	48.5	55.0
	4 当てはまる	331	33.4	37.9
	99 無回答、判別不能等	118	11.9	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q12(16)	ふだんから、学年内の不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。			
選択肢	1 当てはまらない	9	0.9	1.0
	2 あまり当てはまらない	90	9.1	10.3
	3 まあ当てはまる	483	48.7	55.2
	4 当てはまる	293	29.5	33.5
	99 無回答、判別不能等	117	11.8	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q12(17)	ふだんから、学年内の特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。			
選択肢	1 当てはまらない	11	1.1	1.3
	2 あまり当てはまらない	89	9.0	10.2
	3 まあ当てはまる	487	49.1	55.7
	4 当てはまる	288	29.0	32.9
	99 無回答、判別不能等	117	11.8	-
合計		992	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q12(18)	ふだんから、上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。			
選択肢	1 当てはまらない	10	1.0	1.1
	2 あまり当てはまらない	99	10.0	11.3
	3 まあ当てはまる	520	52.4	59.4
	4 当てはまる	246	24.8	28.1
	99 無回答、判別不能等	117	11.8	-
合計		992	100	100

Q13 **あなたの所属について**、以下、四つの中から、該当するものに一つ○を付けてください。そして、矢印の先の質問項目に回答してください。

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q13	あなたの所属について、以下、四つの中から、該当するものに一つ○を付けてください。そして、矢印の先の質問項目に回答してください。			
選択肢	1 生徒指導部会と教育相談部会の両方に所属	37	3.7	19.8
	2 生徒指導部会と教育相談部会が、同一組織であり、その部会に所属	31	3.1	16.6
	3 生徒指導部会にのみ所属	86	8.7	46.0
	4 教育相談部会にのみ所属	33	3.3	17.6
	99 無回答、判別不能等	805	81.1	-
合計		992	100	100

※Q13の回答をせずにQ14とQ15に回答するケースが多かったため、Q13の設問は無効とし、以下のQ14またはQ15のいずれかの項目に回答したケースは、その項目の有効回答として扱うこととした。

Q14 **あなたが所属している生徒指導部会について**、部会内でどのように連携して働いていますか。

(1)～(18)のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。なお、生徒指導部会の構成員があなたお一人である場合は、管理職(校長、副校長・教頭)との連携のこととして○を付けてください。

設問番号	設問文	件数	割合(%)
Q14(1)	ふだんから、部会内で、校内の生徒指導の取組の振り返りを行っている。		
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	20	8.3
	3 まあ当てはまる	115	47.7
	4 当てはまる	105	43.6
合計		241	100

設問番号	Q14(2)ふだんから、部会内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	28	11.6
	3 まあ当てはまる	127	52.7
	4 当てはまる	85	35.3
合計		241	100

設問番号	Q14(3)部会内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	19	7.9
	3 まあ当てはまる	140	58.1
	4 当てはまる	82	34.0
合計		241	100

設問番号	Q14(4)部会内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	3	1.2
	2 あまり当てはまらない	30	12.4
	3 まあ当てはまる	137	56.8
	4 当てはまる	71	29.5
合計		241	100

設問番号	Q14(5)部会内で問題や課題が発生したときに、部会内の教職員と協力して解決を試みている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	14	5.8
	3 まあ当てはまる	125	51.9
	4 当てはまる	101	41.9
合計		241	100

設問番号	Q14(6)部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	23	9.6
	3 まあ当てはまる	137	57.3
	4 当てはまる	78	32.6
合計		239	100

設問番号	Q14(7)部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	31	12.9
	3 まあ当てはまる	144	60.0
	4 当てはまる	65	27.1
合計		240	100

設問番号	Q14(8)部会内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	8	3.3
	3 まあ当てはまる	123	51.0
	4 当てはまる	110	45.6
合計		241	100

設問番号	Q14(9)学校が抱えている生徒指導上の課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	12	5.0
	3 まあ当てはまる	147	60.7
	4 当てはまる	83	34.3
合計		242	100

設問番号	Q14(10)生徒指導に関する課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	18	7.5
	3 まあ当てはまる	150	62.2
	4 当てはまる	72	29.9
合計		241	100

設問番号	Q14(11)部会内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意識的につくっている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	4	1.7
	2 あまり当てはまらない	24	10.0
	3 まあ当てはまる	140	58.1
	4 当てはまる	73	30.3
合計		241	100

設問番号	Q14(12)部会内の教職員が支援を必要としているとき、積極的に援助、助言している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	26	10.7
	3 まあ当てはまる	141	58.3
	4 当てはまる	74	30.6
合計		242	100

設問番号	Q14(13)ふだんから、部会内の教職員の間人間関係が良好となるよう行動している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	23	9.5
	3 まあ当てはまる	126	52.1
	4 当てはまる	92	38.0
合計		242	100

設問番号	Q14(14)部会内の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	20	8.2
	3 まあ当てはまる	127	52.3
	4 当てはまる	96	39.5
合計		243	100

設問番号	Q14(15)ふだんから、部会内で生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	11	4.6
	3 まあ当てはまる	127	52.7
	4 当てはまる	102	42.3
合計		241	100

設問番号	Q14(16)ふだんから、部会内で不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	18	7.4
	3 まあ当てはまる	119	49.2
	4 当てはまる	104	43.0
合計		242	100

設問番号	Q14(17)ふだんから、部会内で特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.4
	2 あまり当てはまらない	22	9.1
	3 まあ当てはまる	122	50.4
	4 当てはまる	97	40.1
合計		242	100

設問番号	Q14(18)ふだんから、部会内で上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	3	1.2
	2 あまり当てはまらない	30	12.4
	3 まあ当てはまる	125	51.7
	4 当てはまる	84	34.7
合計		242	100

Q15 あなたが所属している教育相談部会について、部会内でどのように連携して働いていますか。

(1)～(18)のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。なお、教育相談部会の構成員があなた一人である場合は、管理職(校長、副校長・教頭)との連携のこととして○を付けてください。

設問番号	Q15(1)ふだんから、部会内で、校内の教育相談の取組の振り返りをしている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.8
	2 あまり当てはまらない	27	20.3
	3 まあ当てはまる	74	55.6
	4 当てはまる	31	23.3
合計		133	100

設問番号	Q15(2)ふだんから、部会内の教職員同士で、教え合ったり、学び合ったりしている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	22	16.5
	3 まあ当てはまる	77	57.9
	4 当てはまる	34	25.6
合計		133	100

設問番号	Q15(3)部会内のそれぞれの教職員の役割や仕事の範囲を理解している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.8
	2 あまり当てはまらない	24	18.0
	3 まあ当てはまる	77	57.9
	4 当てはまる	31	23.3
合計		133	100

設問番号	Q15(4)部会内のそれぞれの教職員の忙しさや仕事の状況に気配りしている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	2	1.5
	2 あまり当てはまらない	27	20.3
	3 まあ当てはまる	75	56.4
	4 当てはまる	29	21.8
合計		133	100

設問番号	Q15(5)部会内で問題や課題が発生したときに、部会内の教職員と協力して解決を試みている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.8
	2 あまり当てはまらない	17	12.8
	3 まあ当てはまる	80	60.2
	4 当てはまる	35	26.3
合計		133	100

設問番号	Q15(6)部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときは、それぞれの意見を尊重して、議論している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.8
	2 あまり当てはまらない	16	12.0
	3 まあ当てはまる	81	60.9
	4 当てはまる	35	26.3
合計		133	100

設問番号	Q15(7)部会内で、教職員間の意見の食い違いや対立が生じたときに、その解消に向けて、自ら調整している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.8
	2 あまり当てはまらない	20	15.0
	3 まあ当てはまる	82	61.7
	4 当てはまる	30	22.6
合計		133	100

設問番号	Q15(8)部会内の教職員の意見は、年齢や経験を問わず、大切なものとして聴いている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.8
	2 あまり当てはまらない	7	5.3
	3 まあ当てはまる	71	53.4
	4 当てはまる	54	40.6
合計		133	100

設問番号	Q15(9)学校が抱えている教育相談上の課題や目指すべき方向性を認識し、意識的に行動している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.8
	2 あまり当てはまらない	13	9.8
	3 まあ当てはまる	81	60.9
	4 当てはまる	38	28.6
合計		133	100

設問番号	Q15(10)教育相談に関する課題解決や目標の達成に向けて、自分の意見や取組を調整できる。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	18	13.5
	3 まあ当てはまる	80	60.2
	4 当てはまる	35	26.3
合計		133	100

設問番号	Q15(11)部会内の教職員一人一人と、ふだんから、コミュニケーションを図る機会を意識的につくっている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	22	16.5
	3 まあ当てはまる	77	57.9
	4 当てはまる	34	25.6
合計		133	100

設問番号	Q15(12)部会内の教職員が支援を必要としているとき、積極的に援助、助言している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	1	0.8
	2 あまり当てはまらない	19	14.3
	3 まあ当てはまる	76	57.1
	4 当てはまる	37	27.8
合計		133	100

設問番号	Q15(13)ふだんから、部会内の教職員の間関係が良好となるよう行動している。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	15	11.3
	3 まあ当てはまる	78	58.6
	4 当てはまる	40	30.1
合計		133	100



設問番号	Q15(14)部会内の会議や打合せでは、年齢や経験によらない、話しやすい雰囲気づくりをしている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	12	9.0
	3 まあ当てはまる	79	59.4
	4 当てはまる	42	31.6
合計		133	100

設問番号	Q15(15)ふだんから、部会内で生徒のいじめについて、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	13	9.8
	3 まあ当てはまる	82	61.7
	4 当てはまる	38	28.6
合計		133	100

設問番号	Q15(16)ふだんから、部会内で不登校やその傾向のある生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	11	8.3
	3 まあ当てはまる	78	58.6
	4 当てはまる	44	33.1
合計		133	100

設問番号	Q15(17)ふだんから、部会内で特別な支援や配慮を要する生徒について、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	11	8.3
	3 まあ当てはまる	82	61.7
	4 当てはまる	40	30.1
合計		133	100

設問番号	Q15(18)ふだんから、部会内で上記に該当しない生徒についても、情報交換や話し合いをし、具体的な指導や支援につなげている。	件数	割合(%)
設問文			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0
	2 あまり当てはまらない	24	18.0
	3 まあ当てはまる	77	57.9
	4 当てはまる	32	24.1
合計		133	100

Q16（自由記述項目）は掲載割愛。



## 「中学校管理職用質問調査票」基礎集計表

I 全ての管理職（校長、副校長・教頭）の方にお尋ねします。

Q01 学校名を記入してください。

40校について1から40の番号を割り当てて掲載。

設問番号 設問文	Q01学校名を記入し てください。	件数	割合(%)
	1 中学校	3	3.6
	2 中学校	2	2.4
	3 中学校	2	2.4
	4 中学校	2	2.4
	5 中学校	2	2.4
	6 中学校	2	2.4
	7 中学校	2	2.4
	8 中学校	3	3.6
	9 中学校	2	2.4
	10 中学校	2	2.4
	11 中学校	2	2.4
	12 中学校	2	2.4
	13 中学校	3	3.6
	14 中学校	2	2.4
	15 中学校	2	2.4
	16 中学校	2	2.4
	17 中学校	2	2.4
	18 中学校	2	2.4
	19 中学校	2	2.4
	20 中学校	2	2.4
	21 中学校	2	2.4
	22 中学校	2	2.4
	23 中学校	2	2.4
	24 中学校	3	3.6
	25 中学校	2	2.4
	26 中学校	3	3.6
	27 中学校	2	2.4
	28 中学校	2	2.4
	29 中学校	2	2.4
	30 中学校	2	2.4
	31 中学校	2	2.4
	32 中学校	2	2.4
	33 中学校	2	2.4
	34 中学校	2	2.4
	35 中学校	2	2.4
	36 中学校	2	2.4
	37 中学校	2	2.4
	38 中学校	1	1.2
	39 中学校	2	2.4
	40 中学校	2	2.4
	合計	84	100

Q02 あなたの年齢（令和2年3月31日現在）を以下に数字で記入してください。

年齢を5歳ごとに区切り掲載。

設問番号 設問文	Q02 あなたの年齢（令和2年3月31日現在）を以下に数字で記入してください。 （※99は無回答、判別不能等）	件数	割合(%)	割合(%) （無回答等除く）
	45歳以下	0	0.0	0.0
	46歳以上50歳以下	11	13.1	13.1
	51歳以上55歳以下	27	32.1	32.1
	56歳以上60歳以下	46	54.8	54.8
	61歳以上	0	0.0	0.0
	無回答、判別不能等	0	0.0	-
	合計	84	100	100

Q03 あなたの本校における現在の雇用形態について、該当するものに一つ〇を付けてください。「3 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。

設問番号 設問文	Q03 あなたの本校における現在の雇用形態について、該当するものに一つ〇を付けてください。「3 その他」に該当する方は、括弧内に具体的に記入してください。	件数	割合(%)	割合(%) （無回答等除く）
選択肢	1 常勤（正規）	84	100.0	100.0
	2 再任用（フルタイム）	0	0.0	0.0
	3 その他	0	0.0	0.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
	合計	84	100	100

Q04 あなたの本校における職階について、該当するものに一つ〇を付けてください。

設問番号 設問文	Q04 あなたの本校における職階について、該当するものに一つ〇を付けてください。	件数	割合(%)	割合(%) （無回答等除く）
選択肢	1 校長	39	46.4	46.4
	2 副校長	0	0.0	0.0
	3 教頭	45	53.6	53.6
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
	合計	84	100	100

Q05 あなたの教員としての勤務年数（令和2年3月31日現在）について、以下に示す（1）～（5）のそれぞれの項目に数字を記入してください。なお、教員としての勤務年数には、公立学校の教員としての勤務年数のほか、国立大学法人の附属学校や私立学校での教員としての勤務年数を含みます。民間の教育機関（学習塾等）の勤務年数は含みません。該当しない箇所は、0と記入してください。経験年数を5年ごとに区切り表示。年数単位のみ用い、月の単位については切り捨てた。以下はQ05（1）、Q（2）、（3）、（4）について掲載。Q05（5）は掲載割愛。

設問番号 設問文	Q05(1)常勤年数	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
	20年以下	0	0.0	0.0
	21年以上25年以下	6	7.1	7.3
	26年以上30年以下	24	28.6	29.3
	31年以上35年以下	32	38.1	39.0
	36年以上	20	23.8	24.4
	無回答、判別不能等	2	2.4	-
	合計	84	100	100

設問番号 設問文	Q05(2)学校管理職年数	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
	5年以下	62	73.8	73.8
	6年以上10年以下	19	22.6	22.6
	11年以上15年以下	3	3.6	3.6
	無回答、判別不能等	0	0.0	-
	合計	84	100	100

設問番号 設問文	Q05(3)現任校管理職年数	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
	5年以下	84	100.0	100.0
	無回答、判別不能等	0	0.0	-
	合計	84	100	100

設問番号 設問文	Q05(4)教育行政年数	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
	5年以下	69	82.1	82.1
	6年以上10年以下	13	15.5	15.5
	11年以上15年以下	2	2.4	2.4
	無回答、判別不能等	0	0.0	-
	合計	84	100	100

II 全ての管理職（校長、副校長・教頭）の方にお尋ねします。校長の方は、校長として、副校長又は教頭の方は、副校長又は教頭として、自身のお立場（職階）から、お答えください。

Q06 あなたの学校の教職員について、以下のことがどの程度当てはまりますか。（1）～（25）のそれぞれの項目について最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(1)生徒のことをよく気にかけている。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	0	0.0	0.0
	3 まあ当てはまる	29	34.5	34.5
	4 当てはまる	55	65.5	65.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(2)生徒の話をよく聞いている。				
選択肢	1 当てはまらない	1	1.2	1.2
	2 あまり当てはまらない	1	1.2	1.2
	3 まあ当てはまる	44	52.4	52.4
	4 当てはまる	38	45.2	45.2
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(3)生徒の相談に、いつも誠実に向き合っている。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	0	0.0	0.0
	3 まあ当てはまる	36	42.9	43.4
	4 当てはまる	47	56.0	56.6
	99 無回答、判別不能等	1	1.2	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(4)生徒に公平に接している。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	2	2.4	2.4
	3 まあ当てはまる	40	47.6	47.6
	4 当てはまる	42	50.0	50.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(5)校則や学校・クラスのきまりを、共通理解している。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	3	3.6	3.6
	3 まあ当てはまる	55	65.5	65.5
	4 当てはまる	26	31.0	31.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(6)校則や学校・クラスのきまりを、生徒に、明確に伝えている。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	6	7.1	7.1
	3 まあ当てはまる	57	67.9	67.9
	4 当てはまる	21	25.0	25.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(7)	生徒に対して、挨拶や時間を守ること、役割を守ること等、礼儀やマナー、責任の大切さについて、指導を徹底している。			
選択肢	1 当てはまらない	1	1.2	1.2
	2 あまり当てはまらない	4	4.8	4.8
	3 まあ当てはまる	48	57.1	57.1
	4 当てはまる	31	36.9	36.9
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(8)	校則や学校・クラスのきまりを守らない生徒に対して、きちんと注意や指導をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	5	6.0	6.0
	3 まあ当てはまる	44	52.4	52.4
	4 当てはまる	35	41.7	41.7
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(9)	冷やかしかからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意や指導をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	0	0.0	0.0
	3 まあ当てはまる	38	45.2	45.2
	4 当てはまる	46	54.8	54.8
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(10)	暴力があったときに、きちんと注意や指導をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	1	1.2	1.2
	3 まあ当てはまる	13	15.5	15.5
	4 当てはまる	70	83.3	83.3
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(11)	いじめがあったときに、きちんと注意や指導をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	0	0.0	0.0
	3 まあ当てはまる	12	14.3	14.3
	4 当てはまる	72	85.7	85.7
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(12)	わかりやすく、丁寧な授業を行っている。			
選択肢	1 当てはまらない	5	6.0	6.2
	2 あまり当てはまらない	5	6.0	6.2
	3 まあ当てはまる	61	72.6	75.3
	4 当てはまる	10	11.9	12.3
	99 無回答、判別不能等	3	3.6	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(13)	学習への興味や意欲を引き起こすように工夫した授業を行っている。			
選択肢	1 当てはまらない	5	6.0	6.2
	2 あまり当てはまらない	12	14.3	14.8
	3 まあ当てはまる	57	67.9	70.4
	4 当てはまる	7	8.3	8.6
	99 無回答、判別不能等	3	3.6	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(14)	授業についていくことが難しい生徒がいたときに、何かしらの支援や手立てを行っている。			
選択肢	1 当てはまらない	2	2.4	2.5
	2 あまり当てはまらない	17	20.2	21.0
	3 まあ当てはまる	54	64.3	66.7
	4 当てはまる	8	9.5	9.9
	99 無回答、判別不能等	3	3.6	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(15)	教職員と管理職の関係は良好である。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	1	1.2	1.2
	3 まあ当てはまる	60	71.4	71.4
	4 当てはまる	23	27.4	27.4
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(16)	教職員同士の関係は良好である。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	6	7.1	7.1
	3 まあ当てはまる	64	76.2	76.2
	4 当てはまる	14	16.7	16.7
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(17)	教職員と生徒の関係は良好である。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	1	1.2	1.2
	3 まあ当てはまる	65	77.4	77.4
	4 当てはまる	18	21.4	21.4
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(18)	教職員と保護者の関係は良好である。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	0	0.0	0.0
	3 まあ当てはまる	76	90.5	90.5
	4 当てはまる	8	9.5	9.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100



設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(19)	この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識している。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	5	6.0	6.0
	3 まあ当てはまる	50	59.5	59.5
	4 当てはまる	29	34.5	34.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(20)	この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針を意識して行動している。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	12	14.3	14.3
	3 まあ当てはまる	45	53.6	53.6
	4 当てはまる	27	32.1	32.1
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(21)	お互いの仕事に対して、よい点を積極的に評価し、認め合っている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	9	10.7	10.7
	3 まあ当てはまる	57	67.9	67.9
	4 当てはまる	18	21.4	21.4
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(22)	生徒のいじめについて、よく情報共有をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	0	0.0	0.0
	3 まあ当てはまる	28	33.3	33.3
	4 当てはまる	56	66.7	66.7
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(23)	不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	2	2.4	2.4
	3 まあ当てはまる	28	33.3	33.3
	4 当てはまる	54	64.3	64.3
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(24)	特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	4	4.8	4.8
	3 まあ当てはまる	37	44.0	44.0
	4 当てはまる	43	51.2	51.2
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q06(25)	上記に該当しない生徒についても、よく情報共有をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	8	9.5	9.5
	3 まあ当てはまる	49	58.3	58.3
	4 当てはまる	27	32.1	32.1
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

Q07 **あなた自身について**、本校に着任してから今日までを振り返り、以下のことがどの程度当てはまりますか。

(1)～(18)のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つ○を付けてください。

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(1)	教職員と管理職の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	5	6.0	6.0
	3 まあ当てはまる	59	70.2	70.2
	4 当てはまる	20	23.8	23.8
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(2)	教職員同士の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	10	11.9	11.9
	3 まあ当てはまる	58	69.0	69.0
	4 当てはまる	16	19.0	19.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(3)	教職員と生徒の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	13	15.5	15.5
	3 まあ当てはまる	54	64.3	64.3
	4 当てはまる	17	20.2	20.2
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(4)	教職員と保護者の関係が良好となるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	12	14.3	14.3
	3 まあ当てはまる	51	60.7	60.7
	4 当てはまる	21	25.0	25.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(5)	教職員が、この学校の抱えている課題や目指すべき方針を認識することができるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	5	6.0	6.0
	3 まあ当てはまる	61	72.6	72.6
	4 当てはまる	18	21.4	21.4
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(6)教職員が、この学校の抱えている課題に対して、目指すべき方針に沿って意識的に行動することができるように、具体的な取組や行動をしている。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	9	10.7	10.7
	3 まあ当てはまる	62	73.8	73.8
	4 当てはまる	13	15.5	15.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(7)教職員が、生徒のいじめについて、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	1	1.2	1.2
	3 まあ当てはまる	33	39.3	39.3
	4 当てはまる	50	59.5	59.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(8)教職員が、不登校やその傾向のある生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	1	1.2	1.2
	3 まあ当てはまる	35	41.7	41.7
	4 当てはまる	48	57.1	57.1
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(9)教職員が、特別な支援や配慮を要する生徒について、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	5	6.0	6.0
	3 まあ当てはまる	37	44.0	44.0
	4 当てはまる	42	50.0	50.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(10)教職員が、上記に該当しない生徒についても、よく情報共有をするように、具体的な取組や行動をしている。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	10	11.9	11.9
	3 まあ当てはまる	46	54.8	54.8
	4 当てはまる	28	33.3	33.3
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(11)教職員同士が、教え合い、学び合うように、校内の人員配置や校務分掌に配慮している。				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	10	11.9	11.9
	3 まあ当てはまる	57	67.9	67.9
	4 当てはまる	17	20.2	20.2
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(12)	教職員が、生徒への接し方や指導・支援の仕方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	11	13.1	13.1
	3 まあ当てはまる	57	67.9	67.9
	4 当てはまる	16	19.0	19.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(13)	教職員が、教科の指導の仕方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	15	17.9	17.9
	3 まあ当てはまる	53	63.1	63.1
	4 当てはまる	16	19.0	19.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(14)	教職員が、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の方法について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	24	28.6	28.6
	3 まあ当てはまる	43	51.2	51.2
	4 当てはまる	17	20.2	20.2
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(15)	教職員が、学級経営について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	25	29.8	29.8
	3 まあ当てはまる	52	61.9	61.9
	4 当てはまる	7	8.3	8.3
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(16)	教職員が、学年での取組について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	20	23.8	23.8
	3 まあ当てはまる	57	67.9	67.9
	4 当てはまる	7	8.3	8.3
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(17)	教職員が、保護者対応や保護者との関係の築き方について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	19	22.6	22.6
	3 まあ当てはまる	56	66.7	66.7
	4 当てはまる	9	10.7	10.7
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q07(18)	教職員が、生徒指導や教育相談に関する問題や課題への対応について学ぶことができるように、具体的な取組や行動をしている。			
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	9	10.7	10.7
	3 まあ当てはまる	57	67.9	67.9
	4 当てはまる	18	21.4	21.4
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

Q08 あなたの学校について、以下のことがどの程度当てはまりますか。(1)～(8)の各学年と学校全体のそれぞれの項目について、四つの中から、最も近いと考えるものに一つずつ○を付けてください。

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(1)a	(第1学年)生徒の学習意欲のばらつきに関する問題が大きい。			
選択肢	1 当てはまらない	3	3.6	3.6
	2 あまり当てはまらない	30	35.7	35.7
	3 まあ当てはまる	35	41.7	41.7
	4 当てはまる	16	19.0	19.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(1)b	(第2学年)生徒の学習意欲のばらつきに関する問題が大きい。			
選択肢	1 当てはまらない	3	3.6	3.6
	2 あまり当てはまらない	29	34.5	34.5
	3 まあ当てはまる	36	42.9	42.9
	4 当てはまる	16	19.0	19.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(1)c	(第3学年)生徒の学習意欲のばらつきに関する問題が大きい。			
選択肢	1 当てはまらない	3	3.6	3.6
	2 あまり当てはまらない	37	44.0	44.0
	3 まあ当てはまる	31	36.9	36.9
	4 当てはまる	13	15.5	15.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(1)d	(学校全体)生徒の学習意欲のばらつきに関する問題が大きい。			
選択肢	1 当てはまらない	3	3.6	3.6
	2 あまり当てはまらない	34	40.5	40.5
	3 まあ当てはまる	32	38.1	38.1
	4 当てはまる	15	17.9	17.9
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(2)a	(第1学年)生徒の社会性に関する問題が大きい。			
選択肢	1 当てはまらない	10	11.9	12.0
	2 あまり当てはまらない	42	50.0	50.6
	3 まあ当てはまる	25	29.8	30.1
	4 当てはまる	6	7.1	7.2
	99 無回答、判別不能等	1	1.2	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(2)b(第2学年)生徒の社会性に関する問題が大きい。			
選択肢			
1 当てはまらない	13	15.5	15.7
2 あまり当てはまらない	43	51.2	51.8
3 まあ当てはまる	22	26.2	26.5
4 当てはまる	5	6.0	6.0
99 無回答、判別不能等	1	1.2	-
合計	84	100	100

設問番号 設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(2)c(第3学年)生徒の社会性に関する問題が大きい。			
選択肢			
1 当てはまらない	10	11.9	12.0
2 あまり当てはまらない	49	58.3	59.0
3 まあ当てはまる	21	25.0	25.3
4 当てはまる	3	3.6	3.6
99 無回答、判別不能等	1	1.2	-
合計	84	100	100

設問番号 設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(2)d(学校全体)生徒の社会性に関する問題が大きい。			
選択肢			
1 当てはまらない	9	10.7	10.8
2 あまり当てはまらない	45	53.6	54.2
3 まあ当てはまる	25	29.8	30.1
4 当てはまる	4	4.8	4.8
99 無回答、判別不能等	1	1.2	-
合計	84	100	100

設問番号 設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(3)a(第1学年)発達上の特別なニーズを抱えている生徒に関する問題が大きい。			
選択肢			
1 当てはまらない	2	2.4	2.4
2 あまり当てはまらない	23	27.4	28.0
3 まあ当てはまる	34	40.5	41.5
4 当てはまる	23	27.4	28.0
99 無回答、判別不能等	2	2.4	-
合計	84	100	100

設問番号 設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(3)b(第2学年)発達上の特別なニーズを抱えている生徒に関する問題が大きい。			
選択肢			
1 当てはまらない	2	2.4	2.4
2 あまり当てはまらない	26	31.0	31.7
3 まあ当てはまる	35	41.7	42.7
4 当てはまる	19	22.6	23.2
99 無回答、判別不能等	2	2.4	-
合計	84	100	100

設問番号 設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(3)c(第3学年)発達上の特別なニーズを抱えている生徒に関する問題が大きい。			
選択肢			
1 当てはまらない	2	2.4	2.4
2 あまり当てはまらない	35	41.7	42.7
3 まあ当てはまる	31	36.9	37.8
4 当てはまる	14	16.7	17.1
99 無回答、判別不能等	2	2.4	-
合計	84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(3)d(学校全体)発達上の特別なニーズを抱えている生徒に関する問題が大きい。				
選択肢	1 当てはまらない	1	1.2	1.2
	2 あまり当てはまらない	25	29.8	30.5
	3 まあ当てはまる	41	48.8	50.0
	4 当てはまる	15	17.9	18.3
	99 無回答、判別不能等	2	2.4	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(4)a(第1学年)生徒の暴力に関する問題が大きい。				
選択肢	1 当てはまらない	61	72.6	72.6
	2 あまり当てはまらない	18	21.4	21.4
	3 まあ当てはまる	5	6.0	6.0
	4 当てはまる	0	0.0	0.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(4)b(第2学年)生徒の暴力に関する問題が大きい。				
選択肢	1 当てはまらない	61	72.6	72.6
	2 あまり当てはまらない	18	21.4	21.4
	3 まあ当てはまる	5	6.0	6.0
	4 当てはまる	0	0.0	0.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(4)c(第3学年)生徒の暴力に関する問題が大きい。				
選択肢	1 当てはまらない	60	71.4	71.4
	2 あまり当てはまらない	18	21.4	21.4
	3 まあ当てはまる	6	7.1	7.1
	4 当てはまる	0	0.0	0.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(4)d(学校全体)生徒の暴力に関する問題が大きい。				
選択肢	1 当てはまらない	60	71.4	71.4
	2 あまり当てはまらない	19	22.6	22.6
	3 まあ当てはまる	5	6.0	6.0
	4 当てはまる	0	0.0	0.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号	設問文	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
Q08(5)a(第1学年)生徒のいじめに関する問題が大きい。				
選択肢	1 当てはまらない	14	16.7	16.7
	2 あまり当てはまらない	42	50.0	50.0
	3 まあ当てはまる	26	31.0	31.0
	4 当てはまる	2	2.4	2.4
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(5)b(第2学年)生徒のいじめに関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	14	16.7	16.7
	2 あまり当てはまらない	44	52.4	52.4
	3 まあ当てはまる	26	31.0	31.0
	4 当てはまる	0	0.0	0.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(5)c(第3学年)生徒のいじめに関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	14	16.7	16.7
	2 あまり当てはまらない	48	57.1	57.1
	3 まあ当てはまる	22	26.2	26.2
	4 当てはまる	0	0.0	0.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(5)d(学校全体)生徒のいじめに関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	14	16.7	16.7
	2 あまり当てはまらない	45	53.6	53.6
	3 まあ当てはまる	25	29.8	29.8
	4 当てはまる	0	0.0	0.0
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(6)a(第1学年)生徒の不登校に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	3	3.6	3.6
	2 あまり当てはまらない	23	27.4	27.7
	3 まあ当てはまる	36	42.9	43.4
	4 当てはまる	21	25.0	25.3
	99 無回答、判別不能等	1	1.2	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(6)b(第2学年)生徒の不登校に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	1	1.2	1.2
	2 あまり当てはまらない	12	14.3	14.3
	3 まあ当てはまる	42	50.0	50.0
	4 当てはまる	29	34.5	34.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(6)c(第3学年)生徒の不登校に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	1	1.2	1.2
	2 あまり当てはまらない	17	20.2	20.2
	3 まあ当てはまる	39	46.4	46.4
	4 当てはまる	27	32.1	32.1
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100



設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(6)d(学校全体)生徒の不登校に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	0	0.0	0.0
	2 あまり当てはまらない	11	13.1	13.1
	3 まあ当てはまる	46	54.8	54.8
	4 当てはまる	27	32.1	32.1
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(7)a(第1学年)教職員と保護者との関係に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	18	21.4	21.4
	2 あまり当てはまらない	48	57.1	57.1
	3 まあ当てはまる	17	20.2	20.2
	4 当てはまる	1	1.2	1.2
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(7)b(第2学年)教職員と保護者との関係に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	20	23.8	23.8
	2 あまり当てはまらない	46	54.8	54.8
	3 まあ当てはまる	17	20.2	20.2
	4 当てはまる	1	1.2	1.2
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(7)c(第3学年)教職員と保護者との関係に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	19	22.6	22.6
	2 あまり当てはまらない	49	58.3	58.3
	3 まあ当てはまる	14	16.7	16.7
	4 当てはまる	2	2.4	2.4
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(7)d(学校全体)教職員と保護者との関係に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	19	22.6	22.6
	2 あまり当てはまらない	47	56.0	56.0
	3 まあ当てはまる	17	20.2	20.2
	4 当てはまる	1	1.2	1.2
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文		件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
設問番号	Q08(8)a(第1学年)経済的な課題を抱えている生徒に関する問題が大きい。			
設問文				
選択肢	1 当てはまらない	8	9.5	9.5
	2 あまり当てはまらない	45	53.6	53.6
	3 まあ当てはまる	23	27.4	27.4
	4 当てはまる	8	9.5	9.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文	Q08(8)b(第2学年)経済的な課題を抱えている生徒に関する問題が大きい。	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
選択肢	1 当てはまらない	9	10.7	10.7
	2 あまり当てはまらない	46	54.8	54.8
	3 まあ当てはまる	21	25.0	25.0
	4 当てはまる	8	9.5	9.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文	Q08(8)c(第3学年)経済的な課題を抱えている生徒に関する問題が大きい。	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
選択肢	1 当てはまらない	9	10.7	10.7
	2 あまり当てはまらない	41	48.8	48.8
	3 まあ当てはまる	27	32.1	32.1
	4 当てはまる	7	8.3	8.3
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

設問番号 設問文	Q08(8)d(学校全体)経済的な課題を抱えている生徒に関する問題が大きい。	件数	割合(%)	割合(%) (無回答等除く)
選択肢	1 当てはまらない	9	10.7	10.7
	2 あまり当てはまらない	44	52.4	52.4
	3 まあ当てはまる	23	27.4	27.4
	4 当てはまる	8	9.5	9.5
	99 無回答、判別不能等	0	0.0	-
合計		84	100	100

---

「生徒指導上の諸課題に対する実効的な学校の指導體制の  
構築に関する総合的調査研究（令和元年度調査）」  
中間報告書

令和4（2022）年3月

発行所 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター  
住所 〒100-8951  
東京都千代田区霞が関3-2-2

---